

若い世代の生活に関する調査

報 告 書

平成 2 9 (2017) 年 3 月

豊中市

はじめに

かつて青少年が自立するまでの成育過程モデルは、家庭や学校教育を通して行うものという社会的認識の中で、学校を卒業すると切れめなく企業等に採用され、研修や訓練を受けて職業的に自立し、新たな家族を形成して生活の自立を確立していくというものでした。

しかし、バブル経済が崩壊する 1990 年代から、青少年の自立を委ねてきた、家庭、地域、企業などの力が弱まり、社会環境が大きく変化する中で、家庭の貧困との関係や小中学校での不登校、高校中途退学、若年無業者、非正規雇用労働者などが社会問題として取り上げられるようになりました。

こうした背景から、国においては、子ども・若者育成支援推進法を制定し、社会生活を営む上で困難な状況にある 30 歳代までの子ども・若者を対象に、早期に、継続的かつ包括的な支援を行い、職業的、社会的自立を支える仕組みとして、子ども・若者支援地域協議会や子ども・若者総合相談センターの設置を行政機関の努力義務としました。また、合わせて、国においては、社会生活を円滑に営む上での困難を有することとなった原因の究明、支援の方法等に関する必要な調査研究を行うこととしています。

平成 28 年度に、内閣府において実施された「若者の生活に関する調査」の報告書によると、全国でひきこもりの若者の推計は約 54 万 1 千人とされ、前回調査（平成 22 年）の推計約 69 万 6 千人に比べ約 15 万 5 千人減少していると発表されています。

今回の調査は、このような状況を踏まえ、豊中市に居住する満 15 歳から 39 歳の者及びその家族を対象に、「ひきこもり」に該当する子ども・若者の人数やそのきっかけ、必要としている支援内容などについて調査することで、「ひきこもり」を始めとする困難を有する子ども・若者への支援方策の検討につなげることを目的として、国や市の平成 22 年度調査を参考として実施したものです。

なお、困難を有する子ども・若者のうち、とりわけ「ひきこもり」状態にある者の定義について、この報告書においては厚生労働省の定義を用いています。

<厚生労働省定義>

「さまざまな要因の結果として、社会的参加（義務教育を含む就学・非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヶ月以上にわたって、概ね、家庭に留まっている状態（他者と関わらない形での外出をしている場合も含む）。」とし、「ひきこもり」は状態像を現すものであり、精神障害が第一の要因とは考えにくい状態であると定義しています。

平成29年（2017年）3月

市民協働部くらし支援課

目次

第1章 調査概要

1. 調査目的 1
2. 調査項目 1
3. 調査設計 3
4. 報告書の見方 3
5. ひきこもり群、ひきこもり親和群の定義と推計 4

第2章 本人用調査結果

1. 基本属性 7
2. 学校のことについて 13
3. 仕事のことについて 17
4. ふだんの生活について 23
5. 過去の生活について 35
6. ふだんの意識や態度などについて 39

第3章 家族用調査結果

1. 対象者の基本属性 60
2. 対象者のひきこもりの状態について 66
3. 対象者の過去の生活について 72
4. 支援のあり方について 74

第4章 まとめと課題 76

資料編

- 若い世代の生活に関する調査（本人用）調査票 85
- 若い世代の生活に関する調査（家族用）調査票 98

第 1 章 調査概要

1. 調査目的

本調査は、豊中市の若者と豊中市内の満15歳から39歳までの方が同居される世帯主を対象に、就職や求職について、また若者の行動等に関する評価、意見等を把握し、今後の取り組みを検討するための基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査項目

(1) 若い世代の生活に関する調査（本人票）

調査項目	質問項目
1. 基本属性	■問1 性別 / ■問2 年齢 / ■問3 同居家族 ■問4 同居人数 / ■問5 世帯の主たる生計者 ■問6 入院・通院経験のある病気
2. 学校のことについて	■問7 通学状況 / ■問8 最終学歴 ■問9 今までに学校で経験したこと ■問10 今までに家庭で経験したこと
3. 仕事のことについて	■問11 就労状況 / ■問12 就労経験 ■問13 就職・進学意向 / ■問14 就職活動の有無 ■問15 働いていない理由 / ■問16 職業観
4. ふだんの生活について	■問17 ふだんの自宅での過ごし方 ■問18 ふだん利用する通信手段 ■問19 ふだん利用するインターネット上の コミュニケーションサービス ■問20 外出頻度 ■問21 現在の状態になった年齢 ■問22 現在の状態になってからの期間 ■問23 現在の状態になったきっかけ ■問24 現在の状態についての関係機関への相談意向 ■問25 現在の状態について相談したいと思う関係機関 ■問26 相談したくないと思う理由 ■問27 現在の状態についての関係機関への相談有無 ■問28 現在の状態について相談した関係機関
5. 過去の生活について	■問29 過去の外出頻度 ■問30 過去の状態になった年齢 ■問31 過去の状態になってからの期間 ■問32 過去の状態になったきっかけ
6. ふだんの意識や態度 などについて	■問33 ふだんの意識や態度に対する考え ■問34 ふだんの生活の中で自身にあてはまるもの ■問35 ふだんの生活状況 ■問36 家族に対する考え ■問37 悩み事の相談意向 ■問38 悩み事の相談相手 ■問39 若者支援に関する機関・事業の認知 ■問40 面接調査の意向 (協力者の氏名、電話番号、メールアドレス)

(2) 若い世代の生活に関する調査（家族票）

調査項目	質問項目
1. 基本属性	<ul style="list-style-type: none"> ■問1 対象者の性別 ■問2 対象者の年齢 ■問3 対象者からみた同居家族 ■問4 対象者の同居人数 ■問5 対象者からみた世帯の主たる生計者 ■問6 対象者の通学状況 ■問7 対象者の最終学歴 ■問8 対象者の就労状況
2. ひきこもりの状態について	<ul style="list-style-type: none"> ■問9 対象者の外出頻度 ■問10 対象者が現在の状態になった年齢 ■問11 対象者が現在の状態になってからの期間 ■問12 対象者が現在の状態について関係機関への相談意向 ■問13 対象者が相談した関係機関 ■問14 家族が現在の状態について関係機関への相談意向 ■問15 家族が相談した関係機関
3. 過去の生活について	<ul style="list-style-type: none"> ■問16 対象者の過去の外出頻度 ■問17 対象者の過去の状態になった年齢 ■問18 対象者の過去の状態になってからの期間
4. 支援のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> ■問19 支援のあり方

3. 調査設計

(1) 若い世代の生活に関する調査（本人票）

調査対象	豊中市在住の満15歳から39歳までの方から無作為抽出
調査方法	調査員による訪問・ポスティング、郵送回収
調査期間	平成28年11月22日～平成28年12月28日
対象者数	4,767件
有効回収数	1,475件
有効回収率	30.9%

(2) 若い世代の生活に関する調査（家族票）

調査対象	豊中市在住の満15歳から39歳までの方が含まれる世帯を無作為抽出
調査方法	調査員による訪問・ポスティング、郵送回収
調査期間	平成28年11月22日～平成28年12月28日
対象者数	4,767件
有効回収数	1,446件
有効回収率	30.3%

4. 報告書の見方

- ・回答比率（%）は回答者数（n）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の場合、内訳の合計が計に一致しないことがあります。また、一人の回答者に複数の回答を求める設問では、回答比率（%）の計は100.0%を超えることがあります。

5. ひきこもり群、ひきこもり親和群の定義と推計

(1) ひきこもり群

以下、AかつBの回答条件に該当、さらに①もしくは②の回答条件に該当する方24人（有効回収数に占める割合：1.63%）を「ひきこもり群」として定義します。

A

問20『外出頻度』において、下記「5」～「8」のいずれかに回答した方

- 「5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」
- 「6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」
- 「7. 自室からは出るが、家からは出ない」
- 「8. 自室からはほとんど出ない」

かつ

B

問22『現在の状態になってからの期間』において、「6ヶ月以上」と回答した方

さらに

①

問23『現在の状態になったきっかけ』において、下記「7」「8」「10」のいずれかに回答した方

- ・「7. 病気（病名：）」を選択し、病名に統合失調症、又は身体的理由を記入
- ・「8. 妊娠した」
- ・「10. その他（ ）」を選択し、（ ）内に自宅で仕事をしている旨や出産育児をしている旨記入

もしくは

②

問17『ふだんの自宅での過ごし方』において、「8. 家事・育児をする」を回答した方

を除いた方

なお、豊中市人口（平成28年10月）による15歳～39歳人口（109,370人）をもとに、調査に伴う標本誤差を加味して、「ひきこもり」の推計を行うと、最小値1,328人、最大値3,731人、中間値2,530人となります。

(2) ひきこもり親和群

以下の回答条件に該当し、かつ、“ひきこもり群”に該当しない方83人（有効回収数に占める割合：5.63%）を「ひきこもり親和群」として定義します。

問33『ふだんの意識や態度に対する考え方』で、下記4項目のいずれも「1. はい」、または1項目のみ「2. どちらかといえばはい」と回答した方

- ス「家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる」
- セ「自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある」
- ソ「嫌な出来事があると、外に出たくなくなる」
- タ「理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う」

なお、豊中市人口（平成28年10月）による15歳～39歳人口（109,370人）をもとに、調査に伴う標本誤差を加味して、「ひきこもり親和群」の推計を行うと、最小値3,054人、最大値8,579人、中間5,816人となります。

(3) 一般群

以下の回答条件に該当する方1,336人（有効回収数に占める割合：90.58%）を「一般群」として定義します。

“ひきこもり群”と“ひきこもり親和群”を除いたもの

かつ

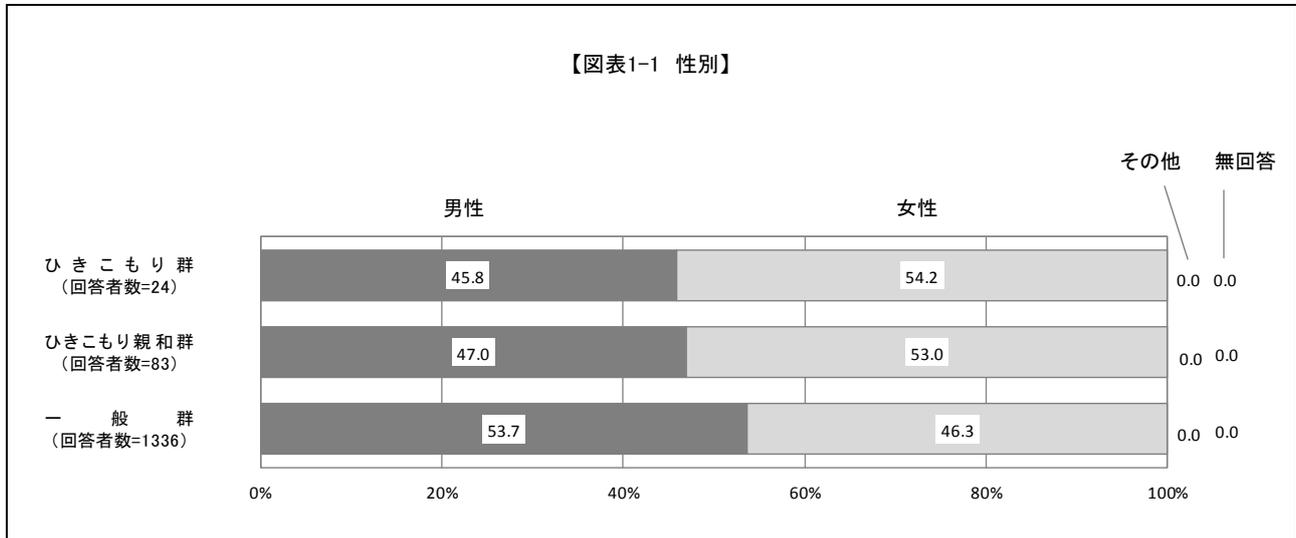
問33『ふだんの意識や態度に対する考え方』で“ひきこもり親和群”の条件となる項目（ス～タ）をすべて回答した方

第2章 本人用調査結果

1. 基本属性

(1) 性別〔問1〕

問1. あなたの性別をお答えください（〇はひとつ）



回答者の性別構成としては、“ひきこもり群”では「男性」45.8%、「女性」54.2%、“ひきこもり親和群”では「男性」47.0%、「女性」53.0%、“一般群”では「男性」53.7%、「女性」46.3%となっています。

“一般群”に比べて、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”では女性の割合が、“一般群”では男性の割合が、それぞれ多くなっています。

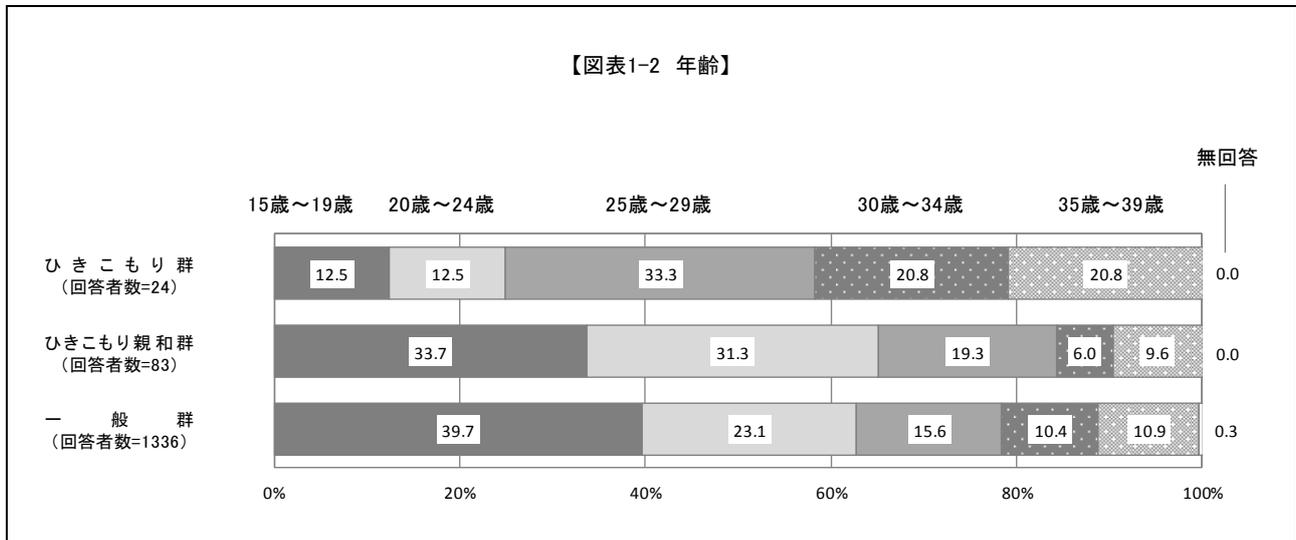
〔参考〕若者等の自立就労実態調査報告書（平成23年7月）の結果

(単位:%)

	回答者数	男性	女性	無回答
ひきこもり群	37	78.4	21.6	0.0
ひきこもり親和群	93	50.5	49.5	0.0
一般群	1645	56.8	42.8	0.4

(2) 年齢〔問2〕

問2. あなたの年齢をお答えください（○はひとつ）



回答者の年齢構成としては、“ひきこもり群”では「25～29歳」が33.3%と最も多く、“ひきこもり親和群”、“一般群”では「15～19歳」がそれぞれ33.7%、39.7%と最も多くなっています。

また、“ひきこもり群”では30代が約4割（41.6%）占めているのに対し、“ひきこもり親和群”、“一般群”では30歳未満がそれぞれ84.3%、78.4%と7～8割を占めています。

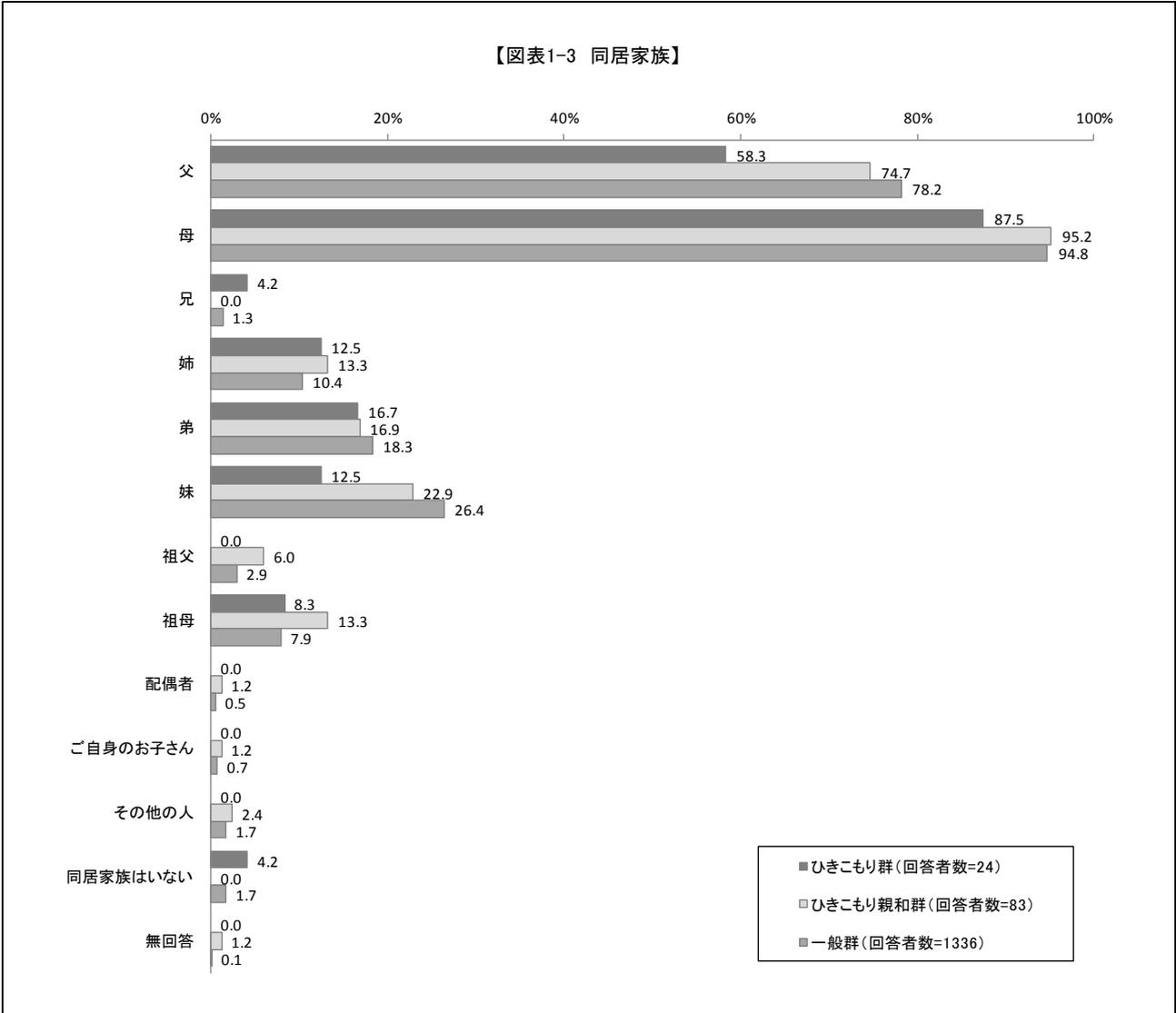
〔参考〕若者等の自立就労実態調査報告書（平成23年7月）の結果

（単位：％）

	回答者数	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	無回答
ひきこもり群	37	10.8	13.5	27.0	32.4	10.8	5.4
ひきこもり親和群	93	30.1	24.7	28.0	8.6	8.6	0.0
一般群	1645	28.8	23.0	21.2	14.6	11.7	0.7

(3) 同居家族〔問3〕

問3. 現在あなたと同居しているご家族はどなたですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)



回答者の同居家族としては、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群”いずれも親と同居している場合が多く占めています。

また“ひきこもり群”では、“ひきこもり親和群”、“一般群”に比べて「妹」と同居の割合が低い傾向にあります。

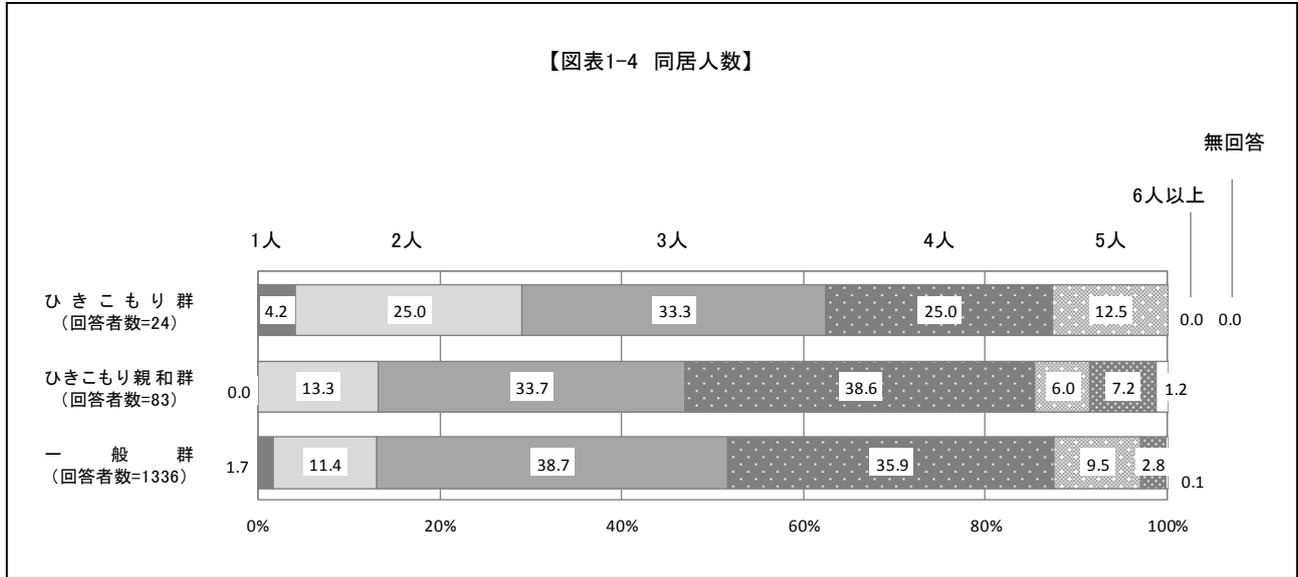
〔参考〕若者等の自立就労実態調査報告書（平成23年7月）の結果

(単位:%)

	回答者数	父	母	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	配偶者	ご自身のお子さん	その他の人	同居家族はいない	無回答
ひきこもり群	37	75.7	91.9	16.2	2.7	5.4	21.6	0.0	13.5	0.0	0.0	5.4	0.0	0.0
ひきこもり親和群	93	78.5	96.8	2.2	10.8	19.4	23.7	2.2	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一般群	1645	81.5	92.8	2.9	10.8	19.1	26.4	4.5	11.7	0.9	1.2	1.9	2.3	0.6

(4) 同居人数〔問4〕

問4. 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数をご記入してください。(数字で具体的に)



回答者の同居人数としては、“ひきこもり群”、“一般群”では「3人」が、“ひきこもり親和群”では「4人」がそれぞれ最も多くなっています。

また、4人以上の場合が“ひきこもり親和群”では51.8%、“一般群”では48.2%と5割前後を占めているのに対し、“ひきこもり群”では37.5%にとどまっています。

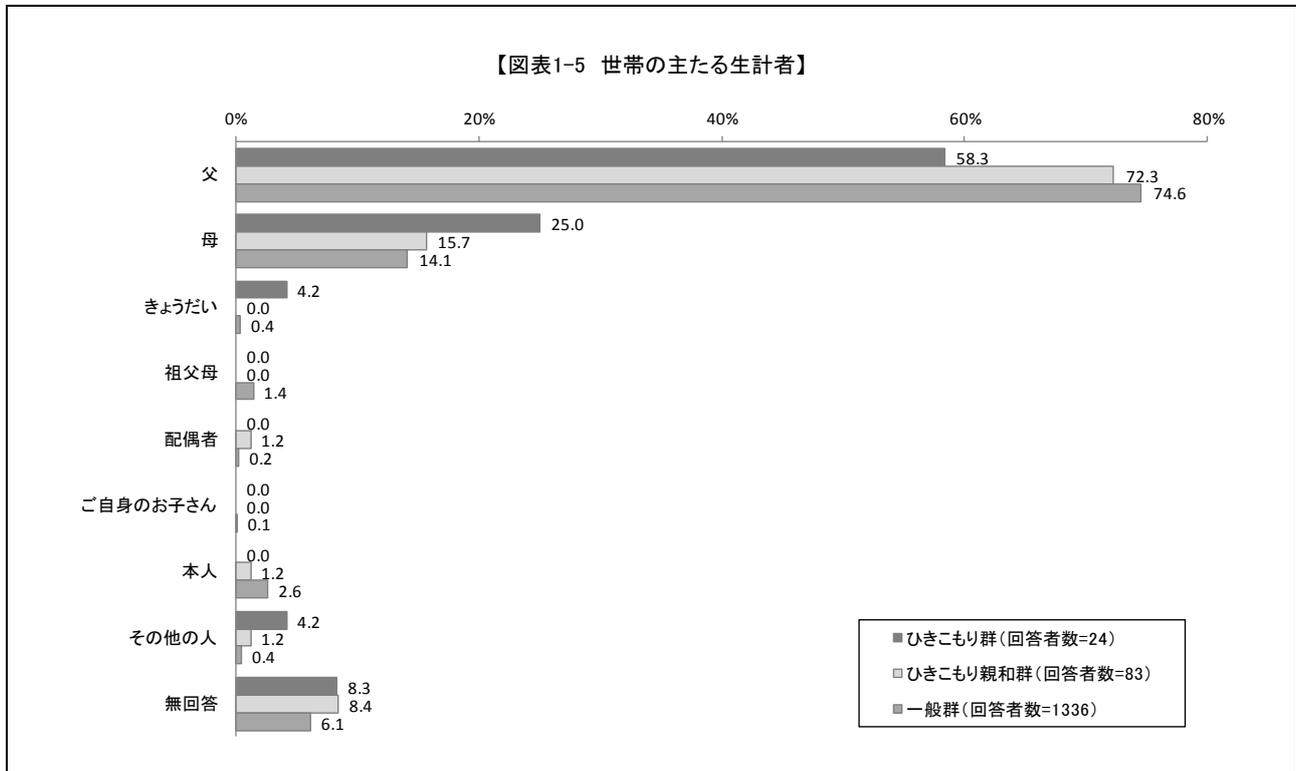
〔参考〕若者等の自立就労実態調査報告書（平成23年7月）の結果

(単位:%)

	回答者数	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答
ひきこもり群	37	0.0	10.8	59.5	21.6	2.7	5.4	0.0
ひきこもり親和群	93	0.0	14.0	38.7	33.3	9.7	4.3	0.0
一般群	1645	2.2	7.3	37.4	34.8	11.8	5.3	1.2

(5) 世帯の主たる生計者〔問5〕

問5. あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(〇はひとつだけ)



回答者の世帯の主たる生計者をたずねたところ、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群”いずれも「父」が主たる生計を担っている世帯が多くなっています。これに比べ「母」はかなり少ないですが、“ひきこもり親和群”、“一般群”に比べ、“ひきこもり群”の割合が高くなっています。

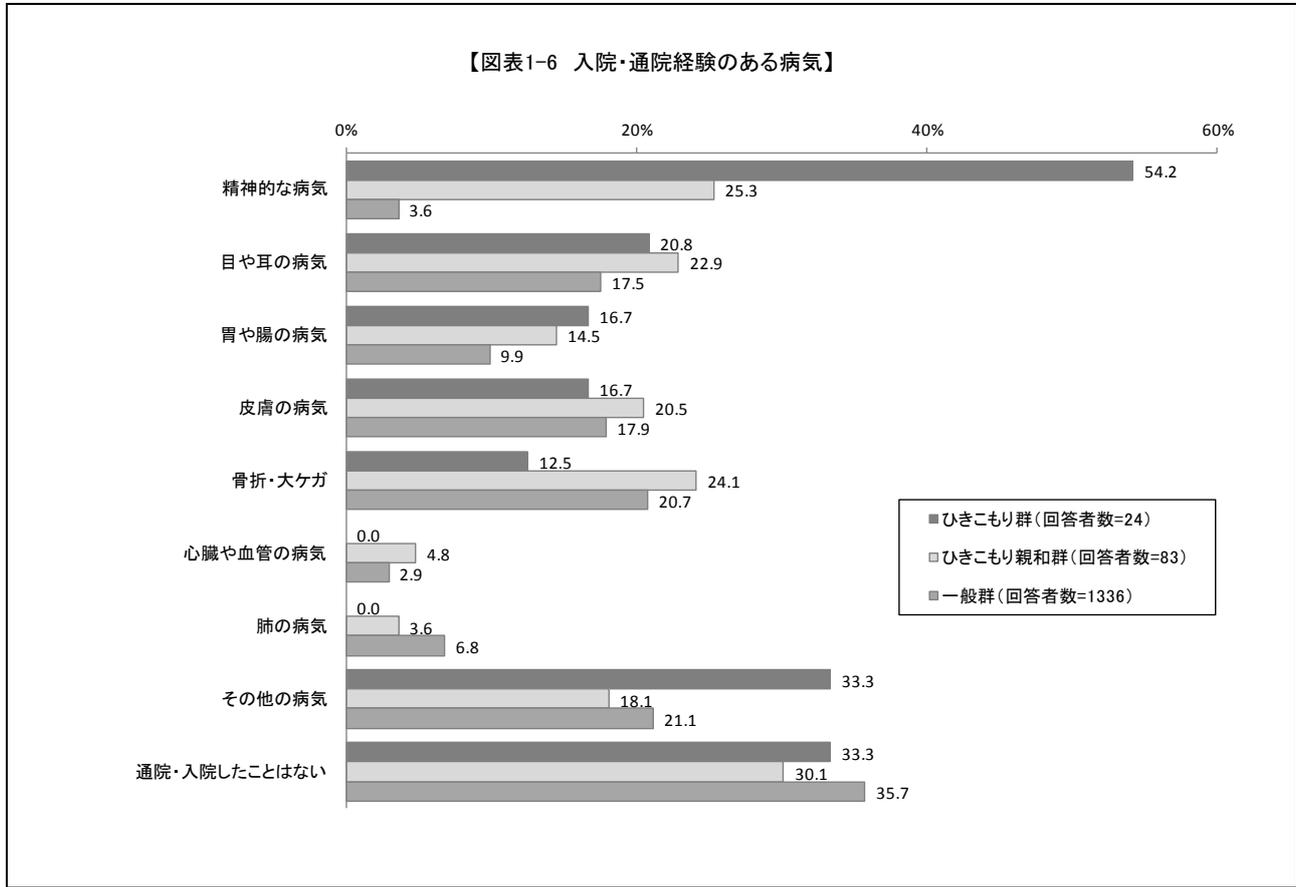
〔参考〕若者等の自立就労実態調査報告書（平成23年7月）の結果

(単位:%)

	回答者数	父	母	本人	配偶者	きょうだい	他の家族や親戚	その他	生活保護などを 受けている	無回答
ひきこもり群	37	67.6	18.9	0.0	0.0	0.0	2.7	2.7	2.7	5.4
ひきこもり親和群	93	72.0	18.3	3.2	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0	4.3
一般群	1645	76.0	11.0	5.8	0.4	0.4	0.5	0.7	0.3	5.0

(6) 入院・通院経験のある病気〔問6〕

問6. あなたはこれまでに病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)



回答者の入院・通院経験のある病気をたずねたところ、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”で「精神的な病気」がそれぞれ54.2%、25.3%と最も多くなっています。

一方、「通院・入院したことはない」は“ひきこもり群”33.3%、“ひきこもり親和群”30.1%、“一般群”35.7%とそれぞれ3割台となっています。

〔参考〕若者等の自立就労実態調査報告書（平成23年7月）の結果

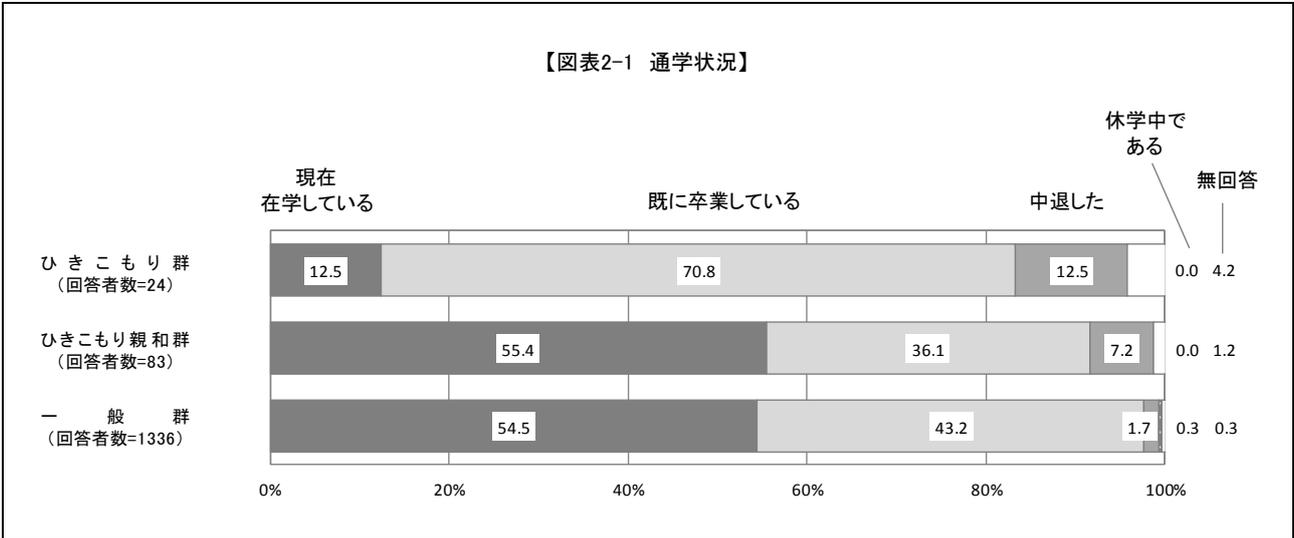
(単位: %)

	回答者数	骨折 大ケガ	精神的な 病気	皮膚の 病気	肺の 病気	胃や腸 の病気	目・耳の 病気	心臓や 血管の 病気	その他の 病気	あてはま るものは ない	無回答
ひきこもり群	37	24.3	13.5	10.8	5.4	5.4	5.4	2.7	18.9	37.8	0.0
ひきこもり親和群	93	18.3	17.2	16.1	6.5	4.3	14.0	3.2	6.5	44.1	2.2
一般群	1645	14.5	3.3	9.1	3.3	4.5	7.1	1.8	6.7	57.9	3.9

2. 学校のことについて

(1) 通学状況〔問7〕

問7. あなたは現在学校に通っていますか。(〇はひとつだけ)



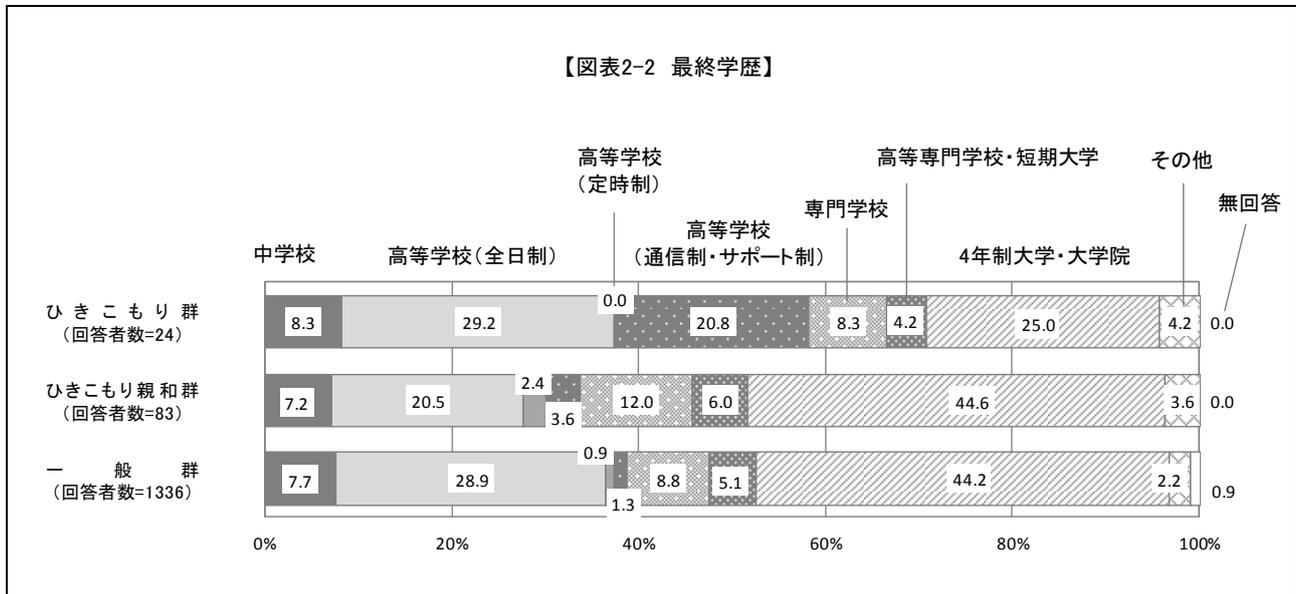
現在の通学状況にたずねたところ、「すでに卒業している」が“ひきこもり群”では70.8%を占めています。

一方、「現在通学している」が“ひきこもり親和群”、“一般群”では、それぞれ55.4%、54.5%と5割強を占めています。

また、「中退した」が“一般群”では1.7%に対し、“ひきこもり親和群”では7.2%、“ひきこもり群”では12.5%とやや高くなっています。

(2) 最終学歴〔問8〕

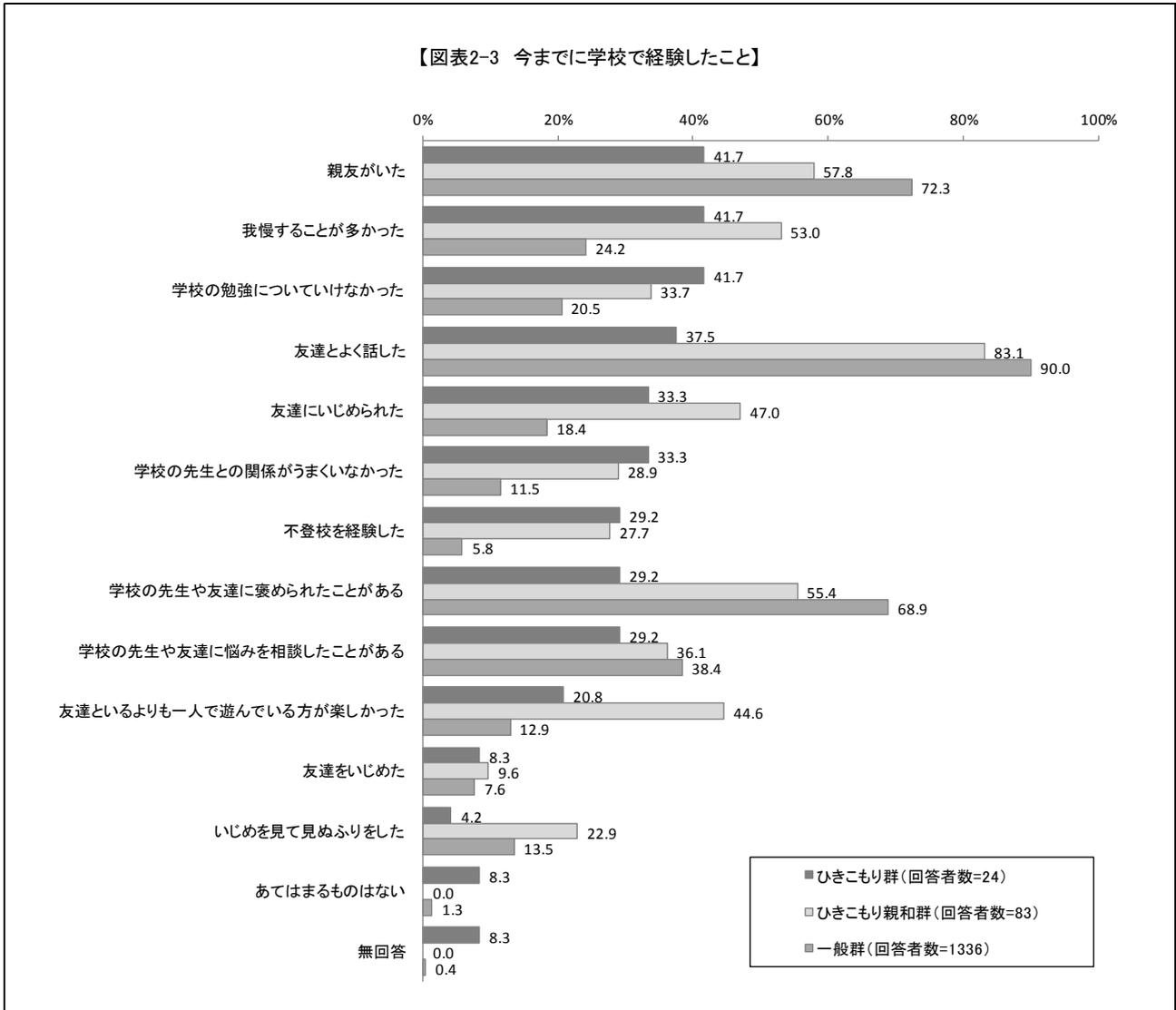
問8. あなたが最後に卒業（中退を含む）した、また現在在学している学校はどれですか。（○はひとつだけ）



最終学歴（在学中含む）をたずねたところ、“ひきこもり群”では「高等学校（全日制）」が29.2%と最も多く、「高等学校（通信制・サポート制）」を合わせて50.0%と半数を占めています。“ひきこもり親和群”、“一般群”では「4年制大学・大学院」がそれぞれ44.6%、44.2%と最も多くなっています。

(3) 今までに学校で経験したこと〔問9〕

問9. あなたは今までに、学校で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)



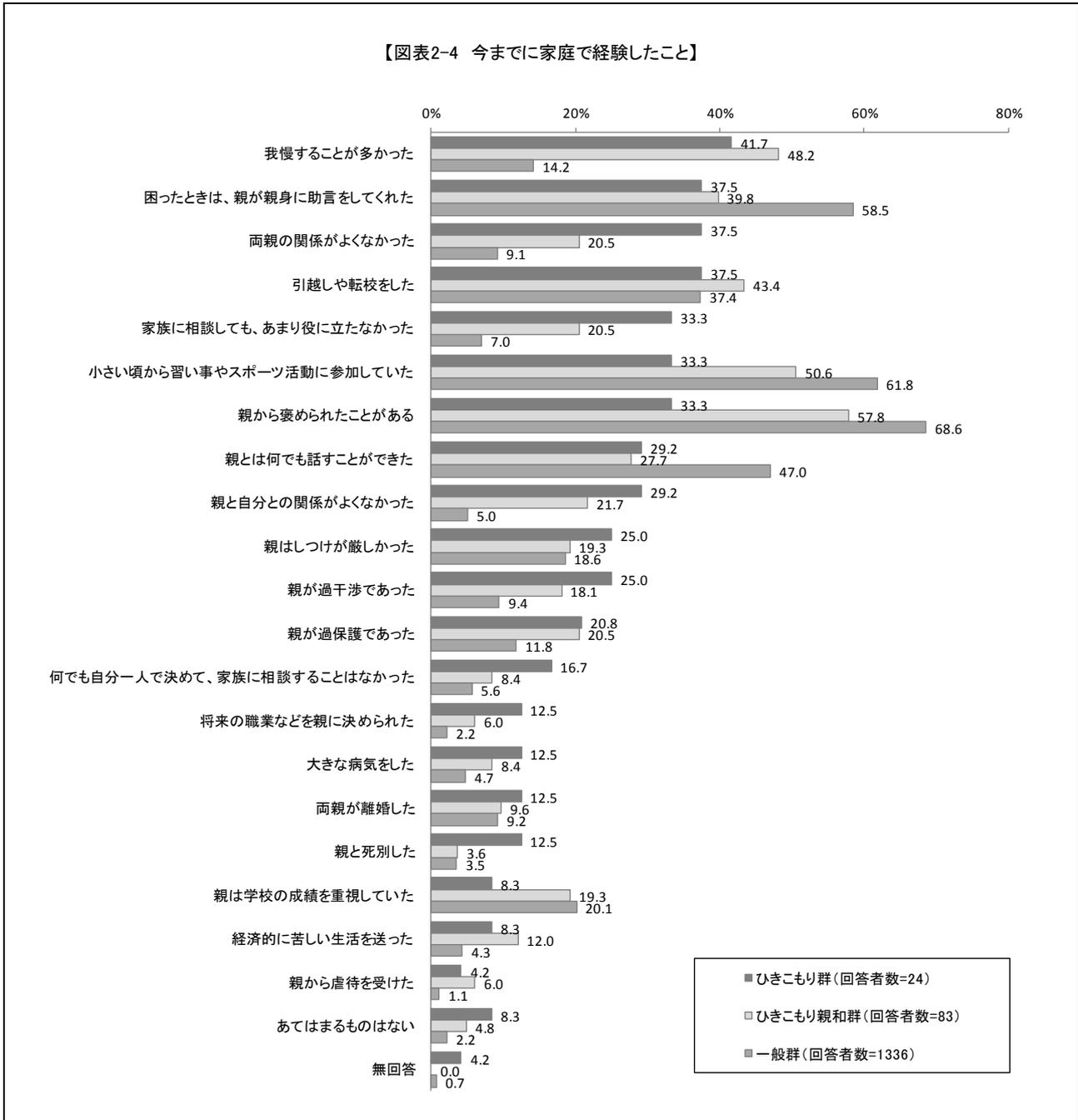
今まで学校で経験したことについてたずねたところ、“ひきこもり群”では「親友がいた」、「我慢することが多かった」、「学校の勉強についていけなかった」がいずれも41.7%と最も多くなっています。“ひきこもり親和群”、“一般群”では「友達とよく話した」がそれぞれ83.1%、90.0%と最も多くなっています。

一方、「我慢することが多かった」、「学校の勉強についていけなかった」、「友達にいじめられた」、「不登校を経験した」、「学校の先生との関係がうまくいかなかった」については、“一般群”に比べて、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”で割合が高くなっています。

また、「友達というよりも一人で遊んでいる方が楽しかった」についても、“ひきこもり親和群”で割合が高くなっています。

(4) 今までに家庭で経験したこと〔問10〕

問10. あなたは今までに、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)



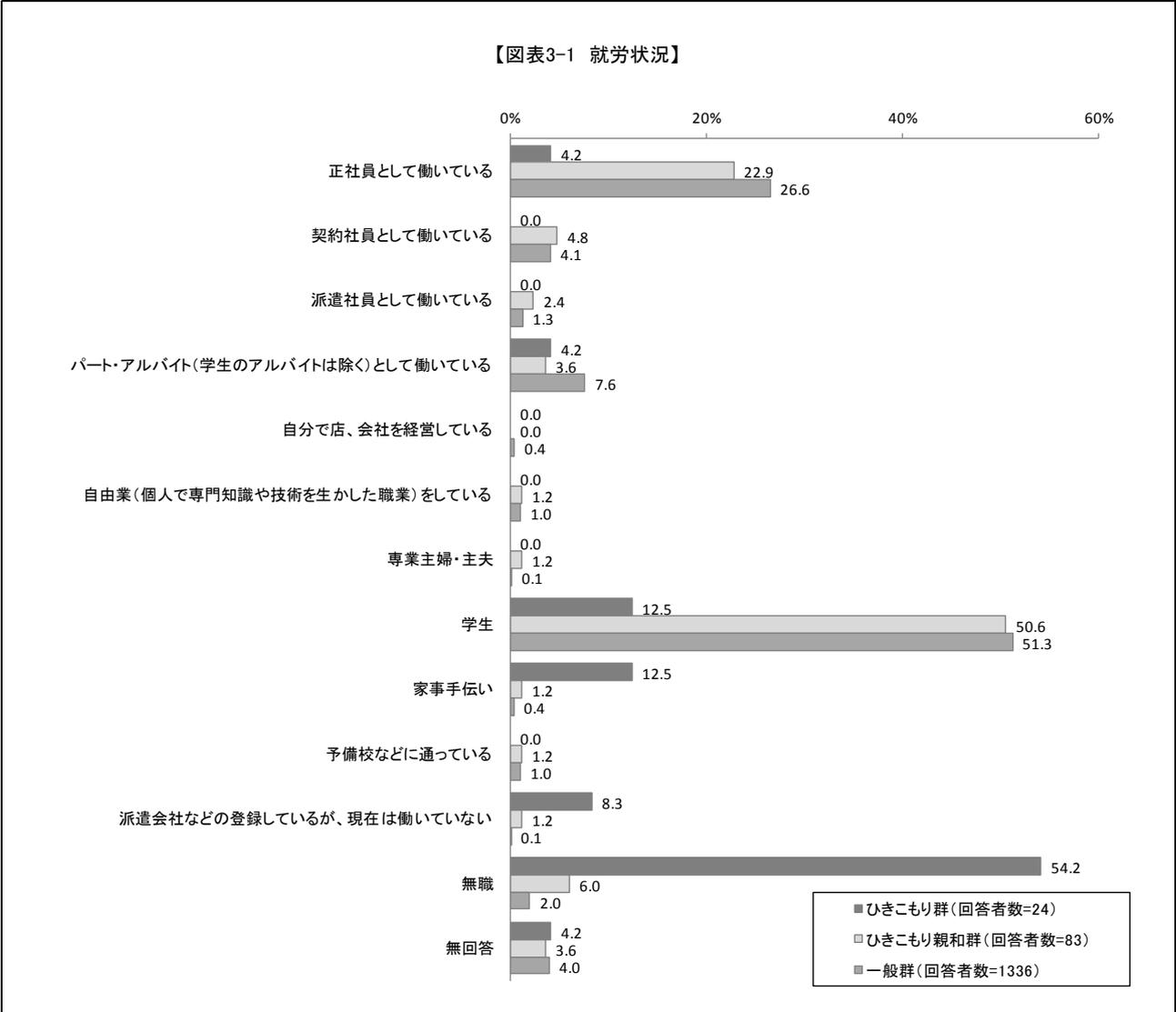
今まで家庭で経験したことについてたずねたところ、“ひきこもり群”では「我慢することが多かった」が41.7%と最も多くなっています。“ひきこもり親和群”、“一般群”では「親から褒められたことがある」がそれぞれ57.8%、68.6%と最も多くなっています。

一方、項目ごとにみると、「家族に相談しても、あまり役に立たなかった」、「親と自分との関係がよくなかった」、「親はしつけが厳しかった」、「親が過干渉であった」、「親が過保護であった」は、“ひきこもり親和群”、“一般群”より“ひきこもり群”の割合が高くなっています。

3. 仕事のことに～

(1) 就労状況〔問11〕

問11. あなたは現在働いていますか。(○はひとつだけ)



現在の就労状況をたずねたところ、“ひきこもり群”では「無職」が54.2%と最も多く、“ひきこもり親和群”、“一般群”では「学生」がそれぞれ50.6%、51.3%と最も多くなっています。

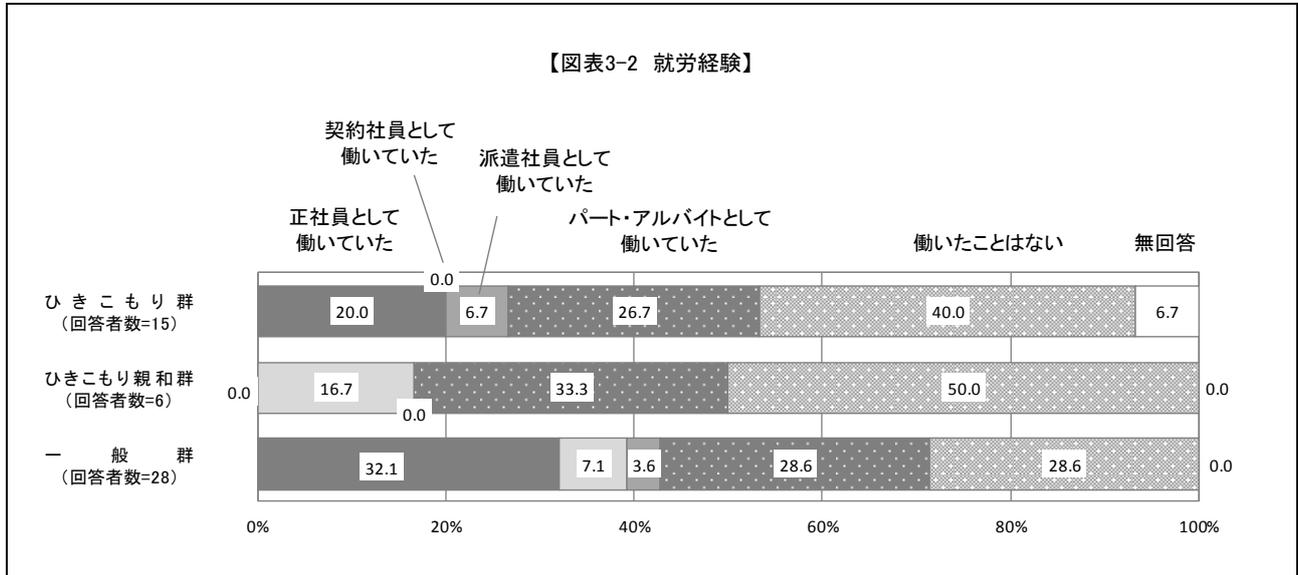
項目ごとにみると、「正社員として働いている」が“一般群”で26.6%が最も高くなっています。

※以下、問12～問15においては、回答数が少ないため“一般群”についてのみのコメント

(2) 就労経験〔問12〕

【問11で「11」～「12」とお答えになった方のみお聞きします】

問12. あなたは今までに働いていたことはありますか。(〇はひとつだけ)

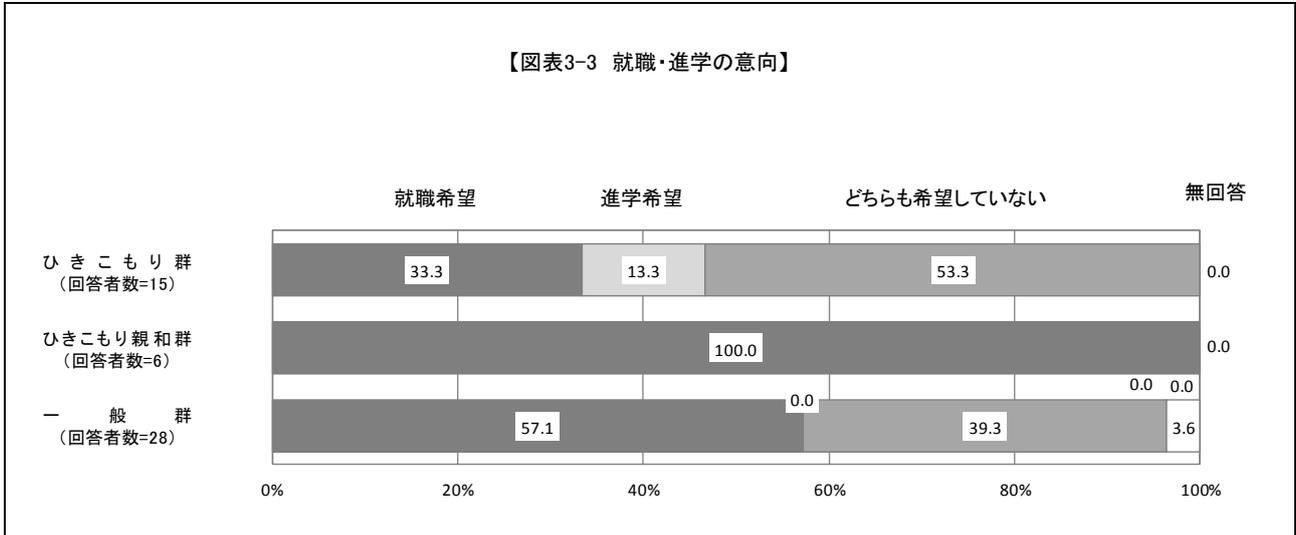


現在、就労も通学もしていないという人に、これまで働いた経験があるかどうかたずねたところ、“一般群”では「正社員として働いていた」が32.1%と最も多く、次いで「パート・アルバイトとして働いていた」、「働いたことはない」がともに28.6%となっています。

(3) 就職・進学意向〔問13〕

【問11で「11」～「12」とお答えになった方のみお聞きします】

問13. 現在就職または進学のどちらを希望していますか。(○はひとつだけ)

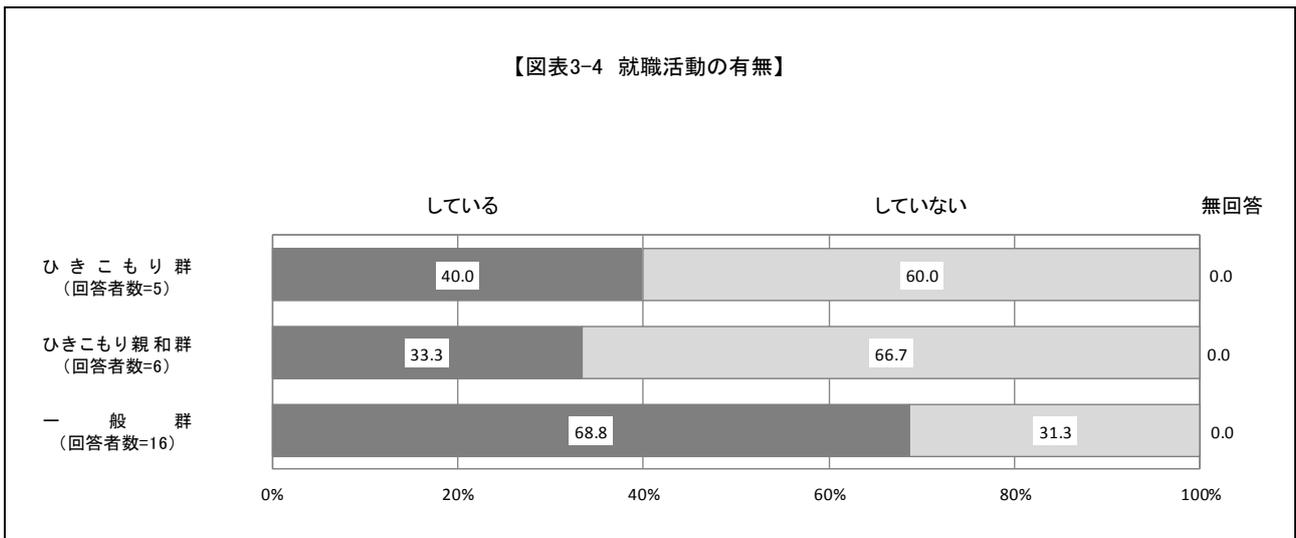


現在、就労も通学もしていないという人に、就職または進学の希望意向をたずねたところ、“一般群”では「就職希望」が6割弱(57.1%)を占めているのに対し、「進学希望」は0%となっています。

(4) 就職活動の有無〔問14〕

【問13で「1」とお答えになった方のみお聞きします】

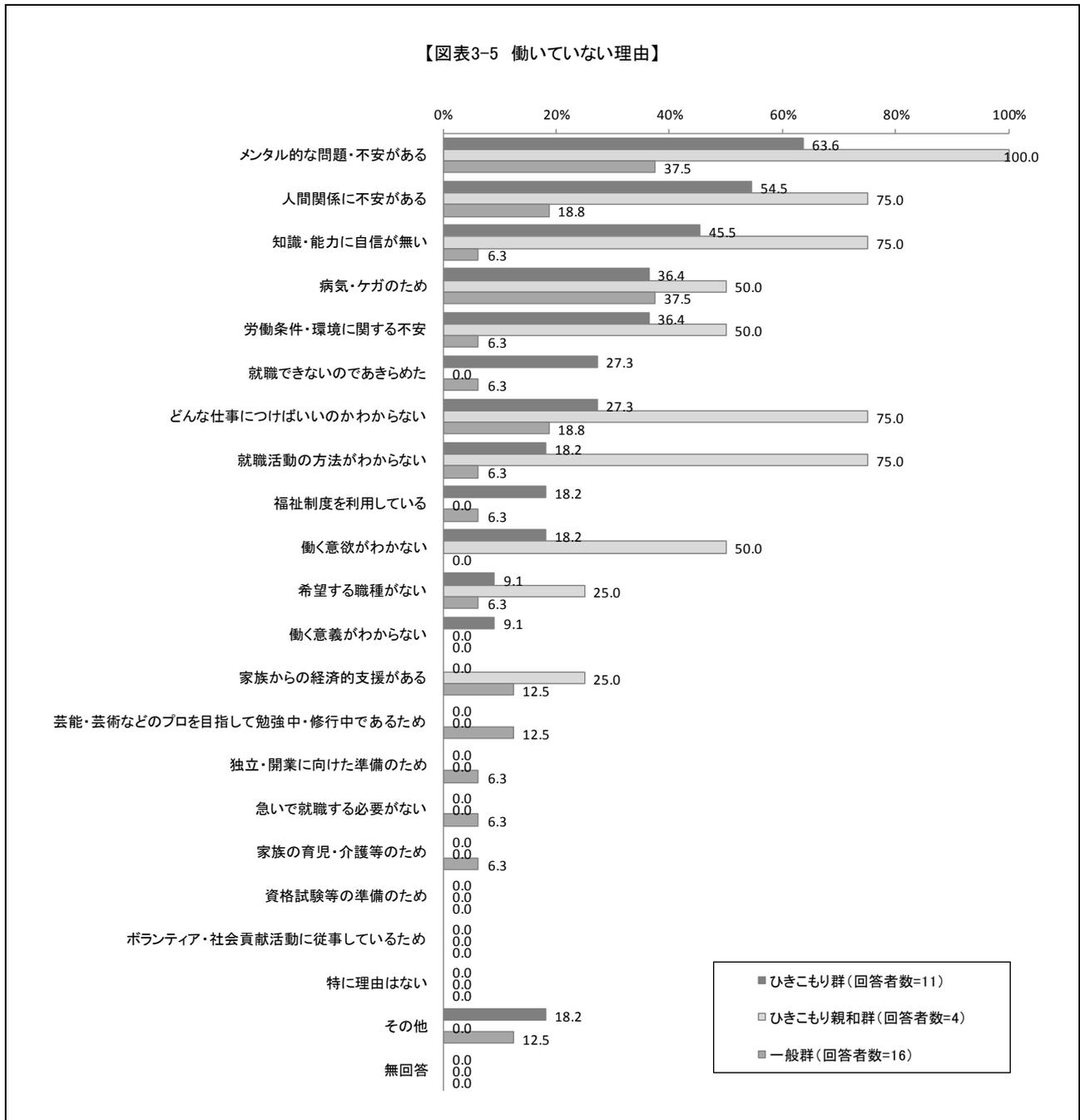
問14. 現在就職活動をしていますか。(○はひとつだけ)



現在、就職希望している人に、就職活動をしているかたずねたところ、“一般群”では「している」が7割弱(68.8%)を占めているのに対し、「していない」は約3割(31.3%)となっています。

(5) 働いていない理由〔問15〕

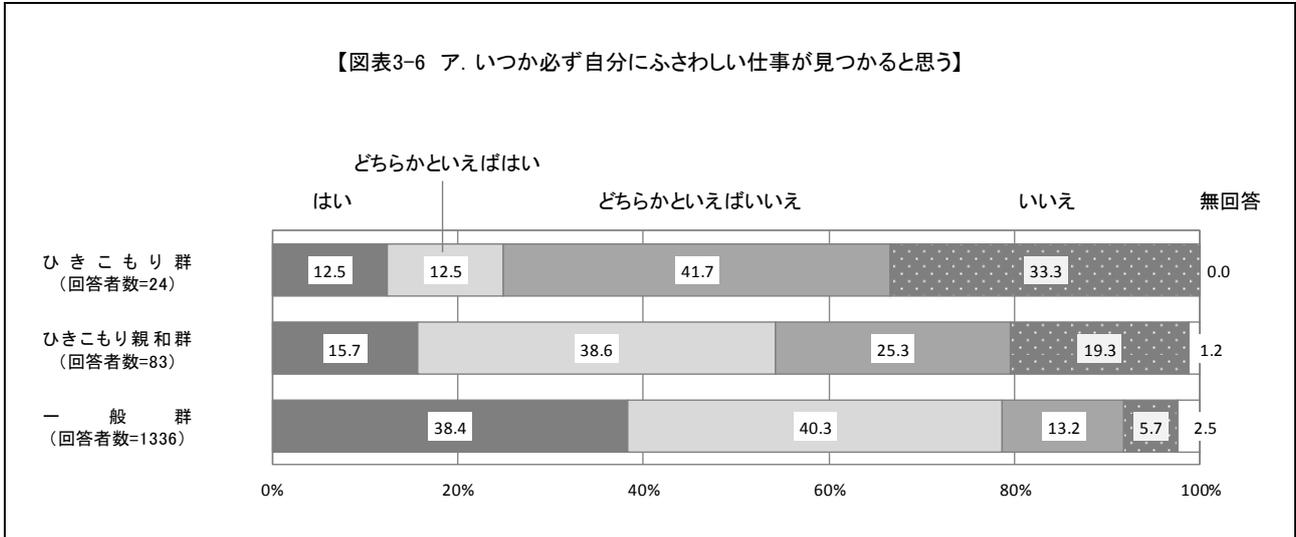
【問13で「3」、もしくは問14で「2」とお答えになった方のみお聞きします】
 問15. あなたが現在働いていない理由は何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)



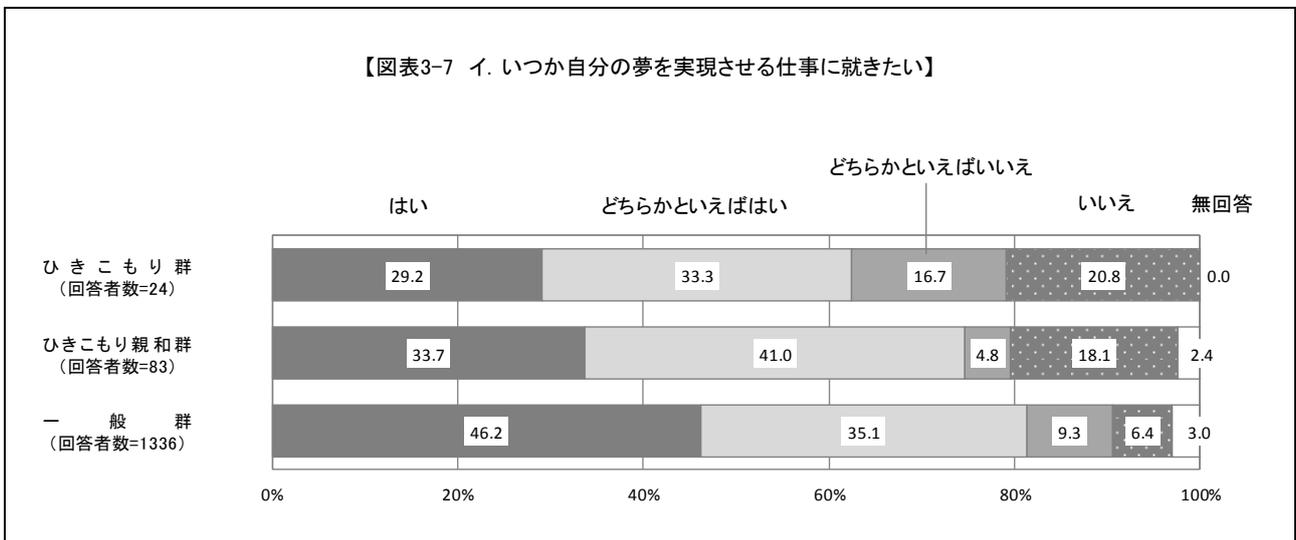
現在、就労も通学もせず、就職活動をしていない、または就職・進学も希望していない人に、働いていない理由をたずねたところ、“一般群”では「メンタル的な問題・不安がある」、「病気・ケガのため」がともに 37.5%と最も多くなっています。

(6) 職業観〔問16〕

問16. 次のア～エの職業に関する意見について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。(○は各項目それぞれひとつずつ)

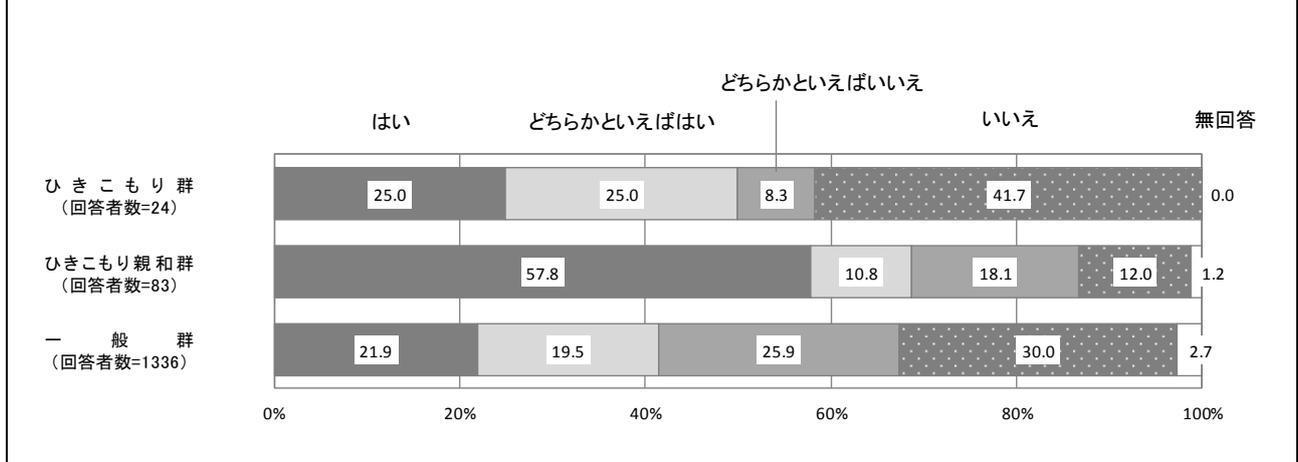


職業に関する意見のうち、『ア. いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」+「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“ひきこもり群”では25.0%に対し、“ひきこもり親和群”では54.3%、“一般群”では78.7%と高くなっています。



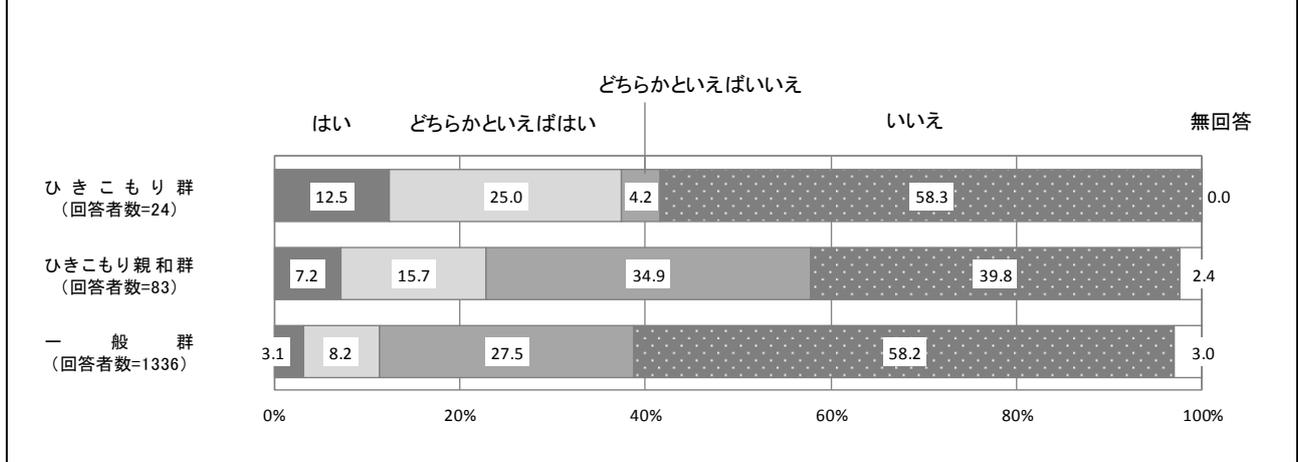
職業に関する意見のうち、『イ. いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」+「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“ひきこもり群”では62.5%に対し、“ひきこもり親和群”では74.7%、“一般群”では81.3%と高くなっています。

【図表3-8 ウ. 仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない】



職業に関する意見のうち、『ウ. 仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では41.4%に対し、“ひきこもり群”では50.0%、“ひきこもり親和群”では68.6%と高くなっています。

【図表3-9 エ. 定職に就かない方が自由でいいと思う】

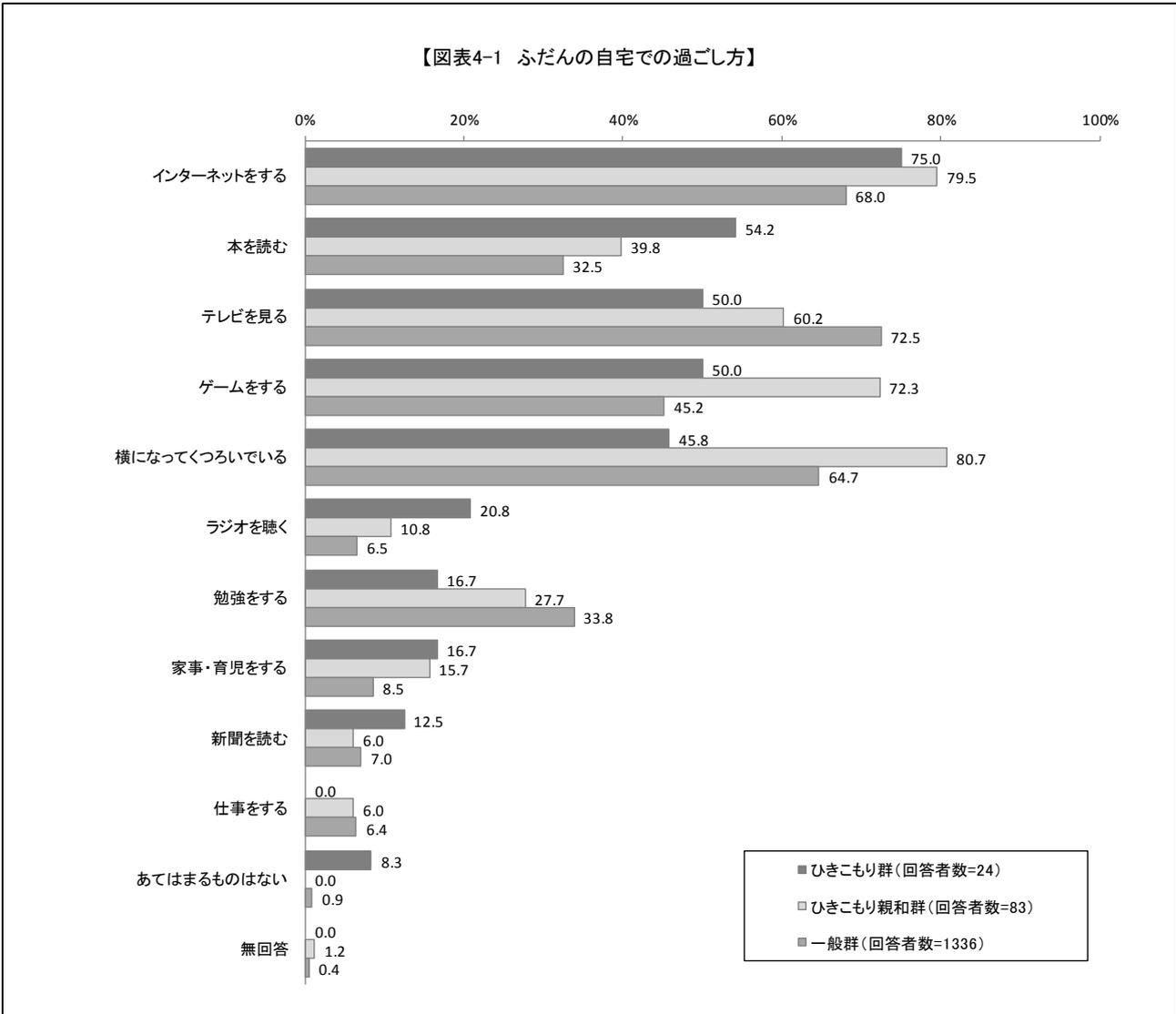


職業に関する意見のうち、『エ. 定職に就かない方が自由でいいと思う』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では11.3%に対し、“ひきこもり親和群”では22.9%、“ひきこもり群”では37.5%と高くなっています。

4. ふだんの生活について

(1) ふだんの自宅での過ごし方〔問17〕

問17. あなたがふだんご自宅にいる時によくしていることは何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

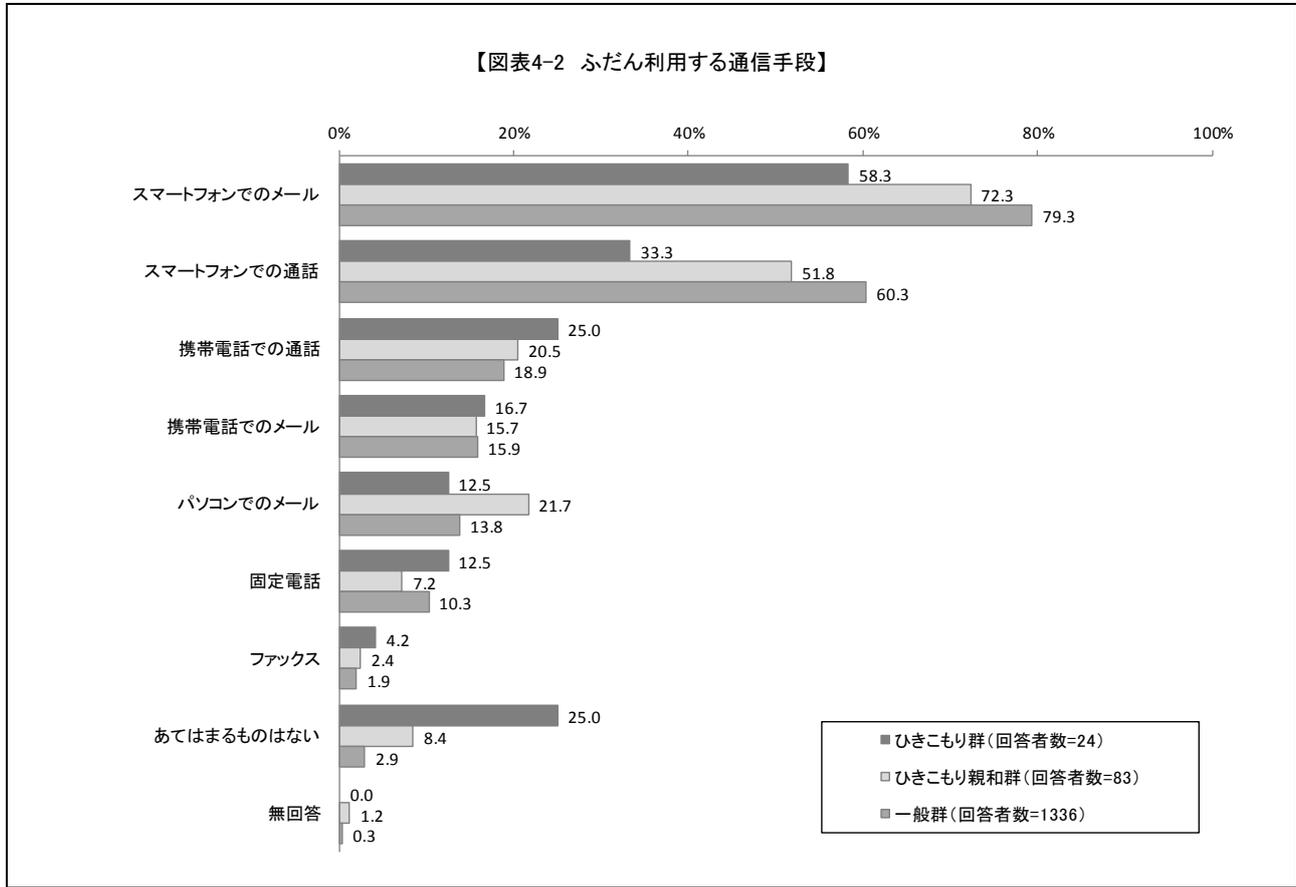


ふだんの自宅の過ごし方をたずねたところ、「インターネットをする」が“ひきこもり群”“ひきこもり親和群”、“一般群”でいずれも6～7割台と多くなっています。

一方、項目ごとに見ると、「本を読む」、「ラジオを聴く」は“ひきこもり群”、「横になってくつろいでいる」は“ひきこもり親和群”、「テレビを見る」、「勉強をする」は“一般群”でそれぞれ割合が高くなっています。

(2) ふだん利用する通信手段〔問18〕

問18. あなたがふだん利用している通信手段は何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

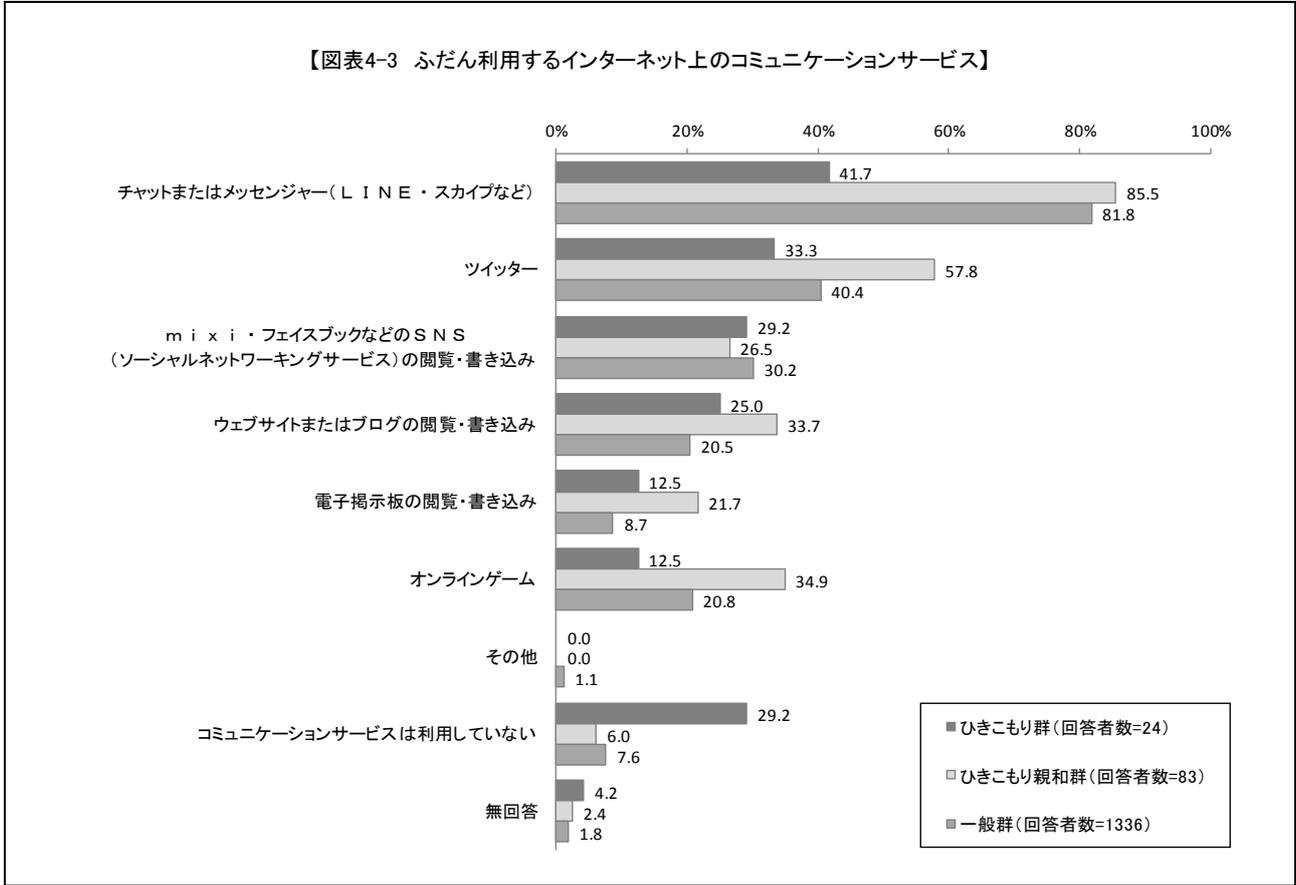


ふだん利用する通信手段をたずねたところ、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群”のいずれも「スマートフォンでのメール」、「スマートフォンでの通話」が多くなっているものの、“一般群”、“ひきこもり親和群”、“ひきこもり群”の順に割合が低くなっています。

また、“ひきこもり群”では「あてはまるものはない」が25.0%と割合が高くなっています。

(3) ふだん利用するインターネット上のコミュニケーションサービス〔問19〕

問19. あなたがふだん利用しているインターネット上のコミュニケーションサービスは何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

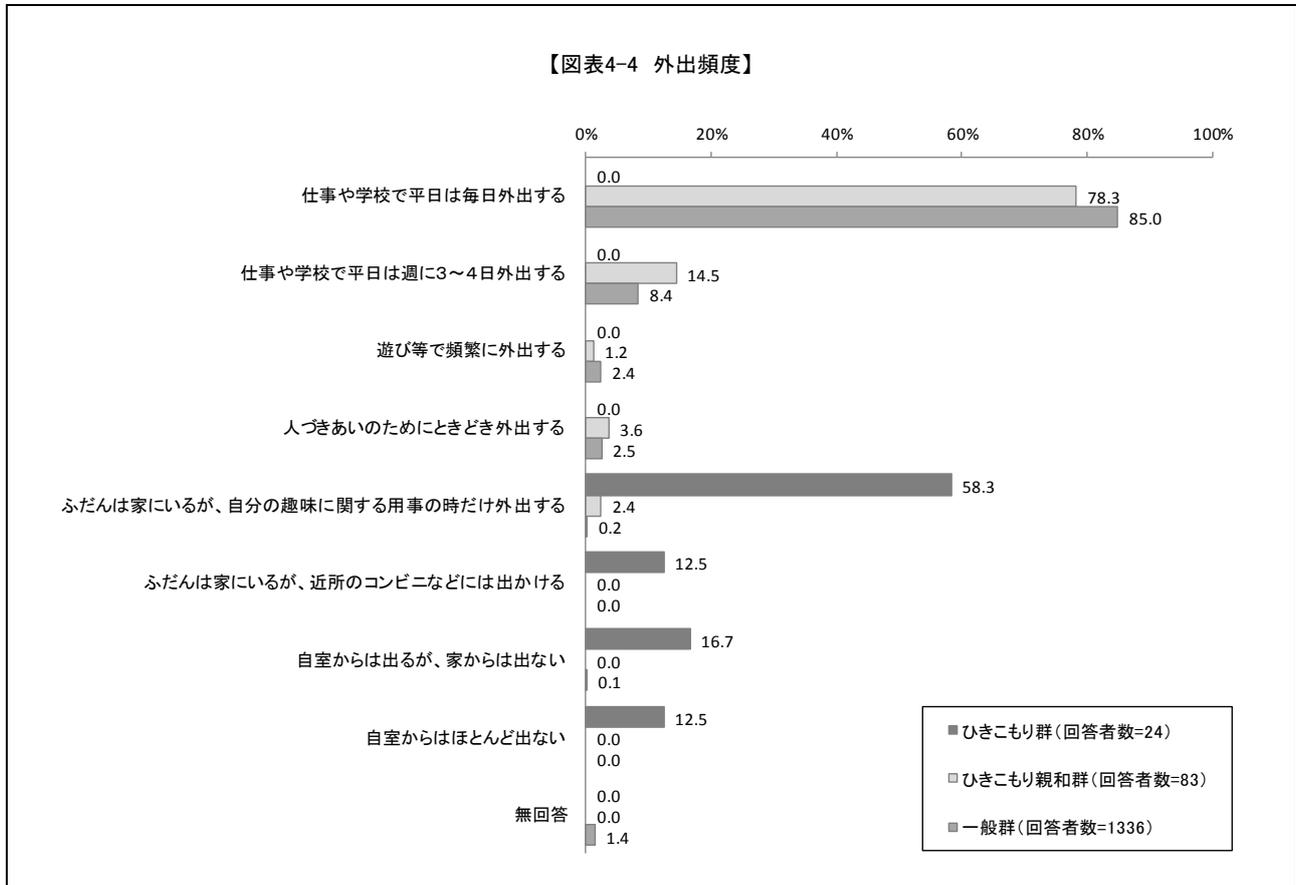


ふだん利用するインターネット上のコミュニケーションサービスをたずねたところ、“ひきこもり群”、“ひきこもり親和群”、“一般群”のいずれも「チャットまたはメッセージャー(LINE・スカイプなど)」が多くなっているものの、“一般群”、“ひきこもり親和群”と比べ、“ひきこもり群”の割合は低くなっています。

一方、項目ごとにみると、「ツイッター」、「ウェブサイトまたはブログの閲覧・書き込み」、「電子掲示板の閲覧・書き込み」、「オンラインゲーム」は“ひきこもり親和群”、「コミュニケーションサービスは利用していない」は“ひきこもり群”がそれぞれ高い割合となっています。

(4) 外出頻度〔問20〕

問20. あなたはふだんどのくらい外出しますか。(〇はひとつだけ)



ふだんどのくらい外出するかをたずねたところ、「仕事や学校で平日毎日外出する」が“一般群”では85.0%、“ひきこもり親和群”では78.3%と最も多くなっています。

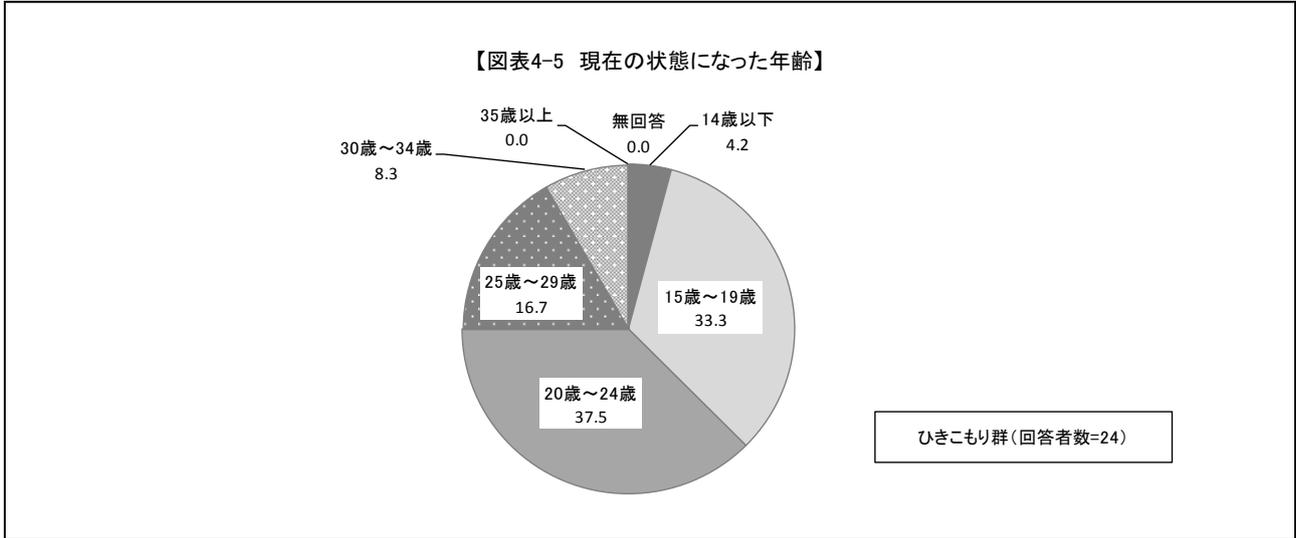
一方、“ひきこもり群”では「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」が58.3%と最も多く、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」(12.5%)を合わせると、『用事があれば出かけるが、ふだんは家にいる』という割合が約7割(70.8%)を占めています。

※以下、問 21～問 28 においては、“ひきこもり群”に該当する方の結果について記載

(5) 現在の状態になった年齢〔問21〕

【問20で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問21. 現在の状態になったのは、あなたが何歳のころですか。(数字で具体的に)

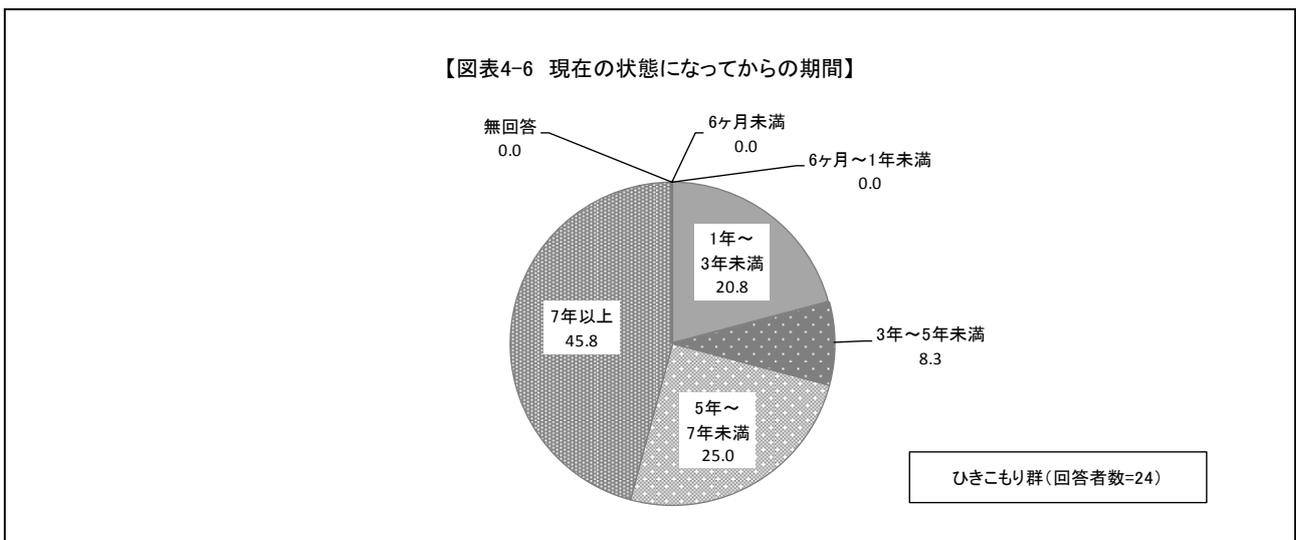


現在の状態になったのは何歳の頃かたずねたところ、「20歳～24歳」が37.5%と最も多く、次いで「15歳～19歳」33.3%、「30歳～34歳」16.7%の順となっています。

(6) 現在の状態になってからの期間〔問22〕

【問20で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問22. 現在の状態になって、どのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ)



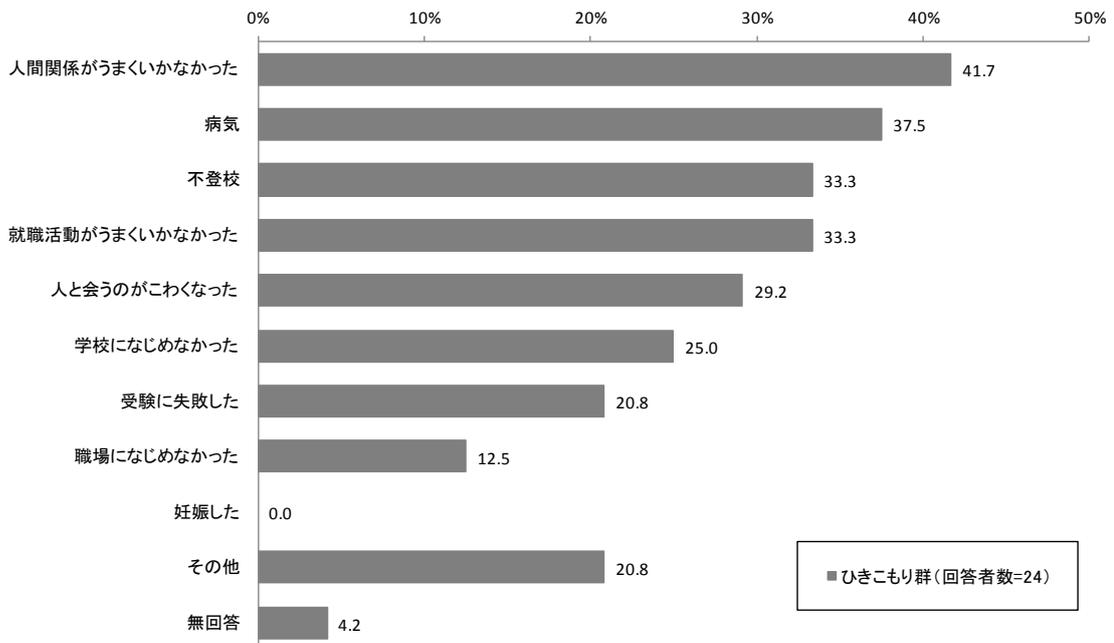
現在の状態になってからの期間をたずねたところ、「7年以上」が45.8%と最も多く、次いで「5年～7年未満」25.0%、「1年～3年未満」20.8%の順となっています。

(7) 現在の状態になったきっかけ〔問23〕

【問20で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問23. 現在の状態となったきっかけは何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

【図表4-7 現在の状態になったきっかけ】



現在の状態になったきっかけをたずねたところ、「人間関係がうまくいかなかった」が約4割(41.7%)と最も多く、次いで「病気」(37.5%)、「不登校」、「就職活動がうまくいかなかった」(ともに33.3%)の順となっています。

「人間関係がうまくいかなかった」と回答した方(10人)に、誰とうまくいかなかったのかたずねたところ、「友人」、「父」、「上司」、「同僚」が挙がっています。

「不登校」と回答した方(8人)に、不登校になった時期をたずねたところ、「中学校」が最も多く、次いで「高校」、「小学校」の順となっています。

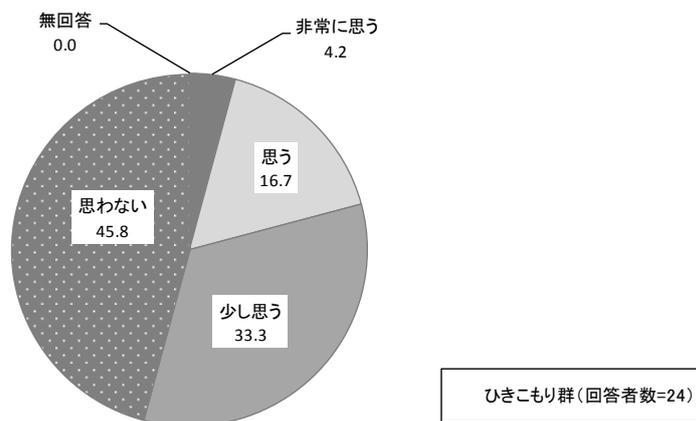
「受験に失敗した」と回答した方(5人)に、失敗した時期をたずねたところ、「高校」が最も多く、次いで「中学校」、「大学」の順となっています。

(8) 現在の状態についての関係機関への相談意向〔問24〕

【問20で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問24. 現在の状態について、関係機関に相談したいと思えますか。(○はひとつだけ)

【図表4-8 現在の状態についての関係機関への相談意向】



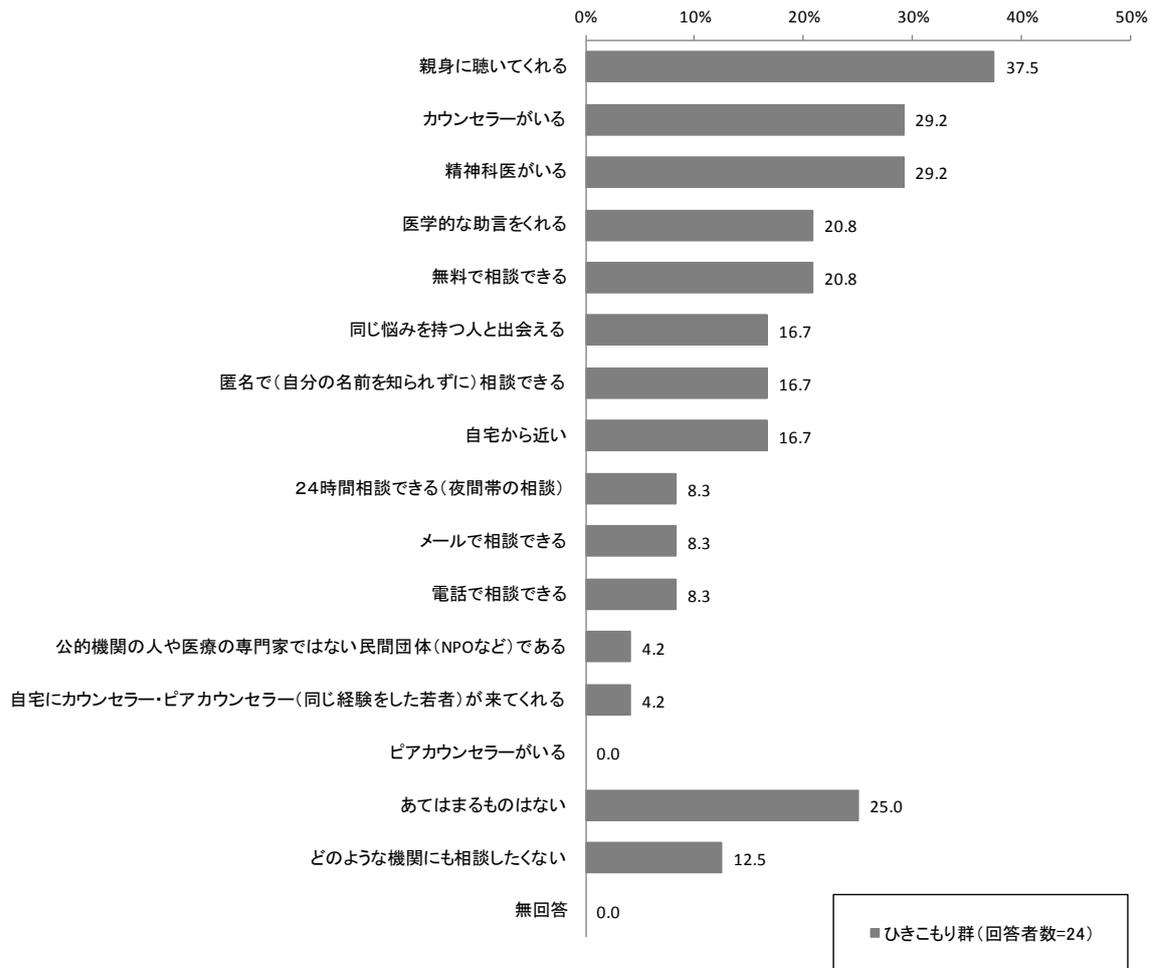
現在の状態について、関係機関に相談したいと思うかたずねたところ、「思わない」が45.8%と最も多く、5割弱を占めています。

(9) 現在の状態について相談したいと思う関係機関〔問25〕

【問20で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問25. 現在の状態について、関係機関に相談するとすれば、どのような機関なら、相談したいと思えますか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

【図表4-9 現在の状態について相談したいと思う関係機関】



現在の状態について、どのような機関なら相談したいと思うかたずねたところ、「親身になって聴いてくれる」が37.5%と最も多く、次いで「カウンセラーがいる」、「精神科医がいる」がともに29.2%となっています。

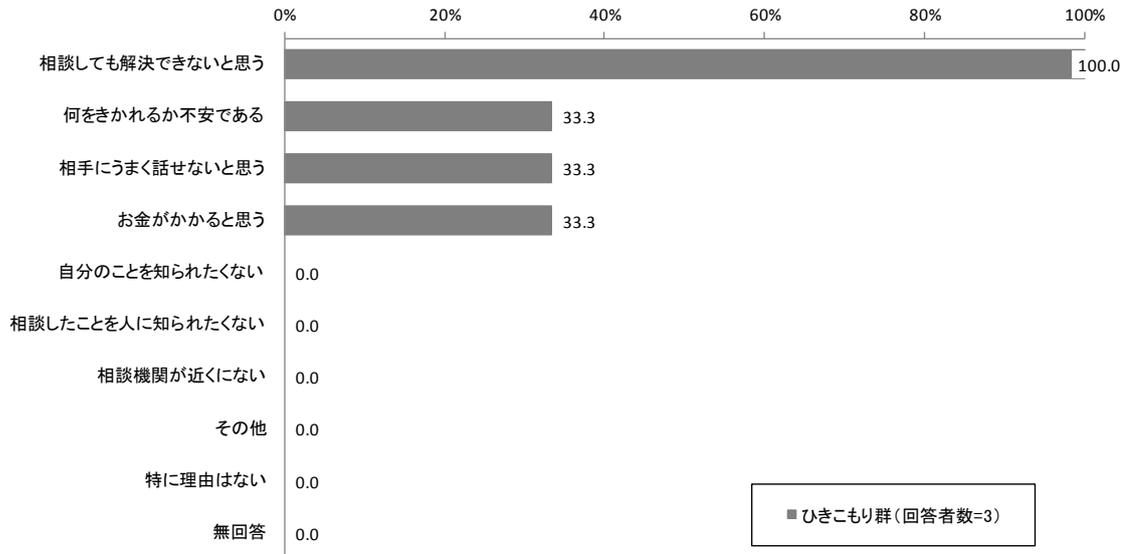
一方、「あてはまるものはない」(25.0%)、「どのような機関にも相談したくない」(12.5%)が1～2割みられます。

(10) 相談したくないと思う理由〔問26〕

【問25で「16」とお答えになった方のみお聞きします】

問26. 相談したくないと思う理由は何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

【図表4-10 相談したくないと思う理由】



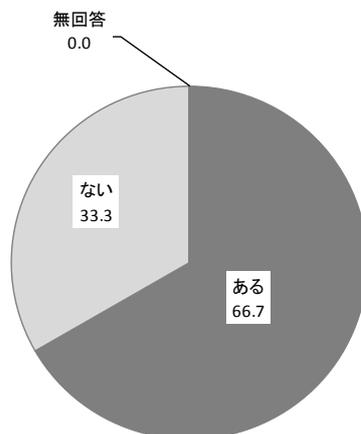
前問（問25）で「16. どのような機関にも相談したくない」と回答した人（3人）に、その理由をたずねたところ、「相談しても解決できないと思う」が100.0%と最も多くなっています。

(11) 現在の状態について関係機関への相談有無〔問27〕

【問20で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問27. 現在の状況について、関係機関に相談したことはありますか。(○はひとつだけ)

【図表4-11 現在の状態についての関係機関への相談有無】



ひきこもり群(回答者数=24)

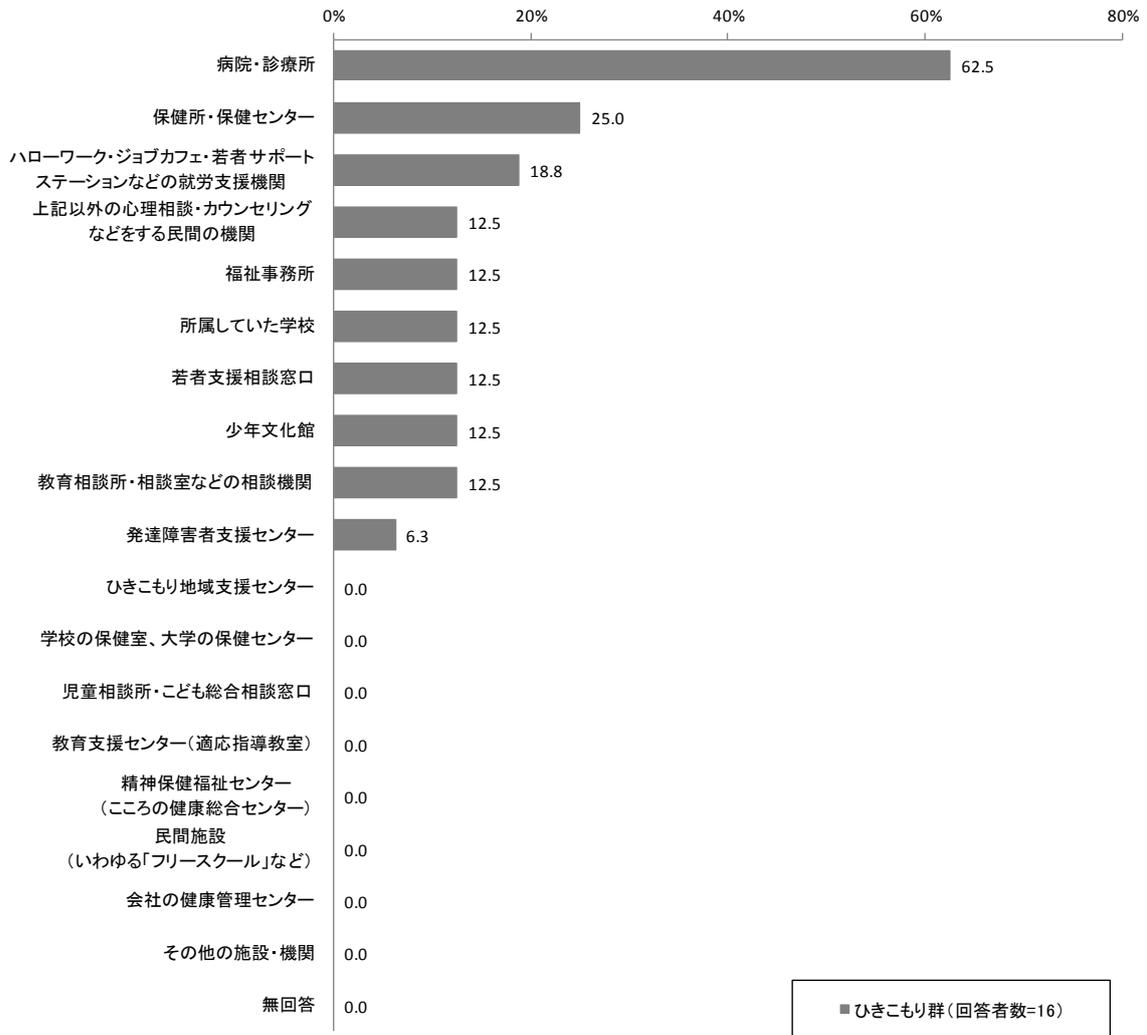
現在の状態について、関係機関に相談してことがあるかたずねたところ、「ある」が66.7%、「ない」が33.3%となっています。

(12) 現在の状態について相談した関係機関〔問28〕

【問27で「1」とお答えになった方のみお聞きします】

問28. どのような相談機関に相談しましたか。相談したことがある機関について、あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

【図表4-12 現在の状態について相談した関係機関】



前問(問27)で「1.ある」と回答した人(16人)に、相談したことがある機関についてたずねたところ、「病院・診療所」が62.5%と最も多く、次いで「保健所・保健センター」25.0%、「ハローワーク・ジョブカフェ・若者サポートステーションなどの就労支援機関」18.8%の順となっています。

【図表4-13】年代別相談した関係機関

(単位:人)

	計	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳
病院・診療所	10	1	1	1	4	3
保健所・保健センター	4	1	1	0	1	1
ハローワーク・ジョブカフェ・若者サポートステーションなどの就労支援機関	3	0	0	1	1	1
福祉事務所	2	0	0	1	0	1
若者支援相談窓口	2	0	0	0	1	1
発達障害者支援センター	2	0	0	1	1	0
民間施設	2	0	1	1	0	0
所属していた学校	2	1	1	0	0	0
学校の保健室、大学の保健センター	2	1	0	1	0	0
少年文化館	1	0	1	0	0	0
回答者数	16	3	2	3	4	4

上記の表では、年代別に相談した関係機関をまとめたものです。全体的に「病院・診療所」が多いですが、24歳以下では「所属していた学校」、「学校の保健室、大学の保健センター」、25歳以上では「ハローワーク・ジョブカフェ・若者サポートステーションなどの就労支援機関」、「若者支援相談窓口」も挙げられています。

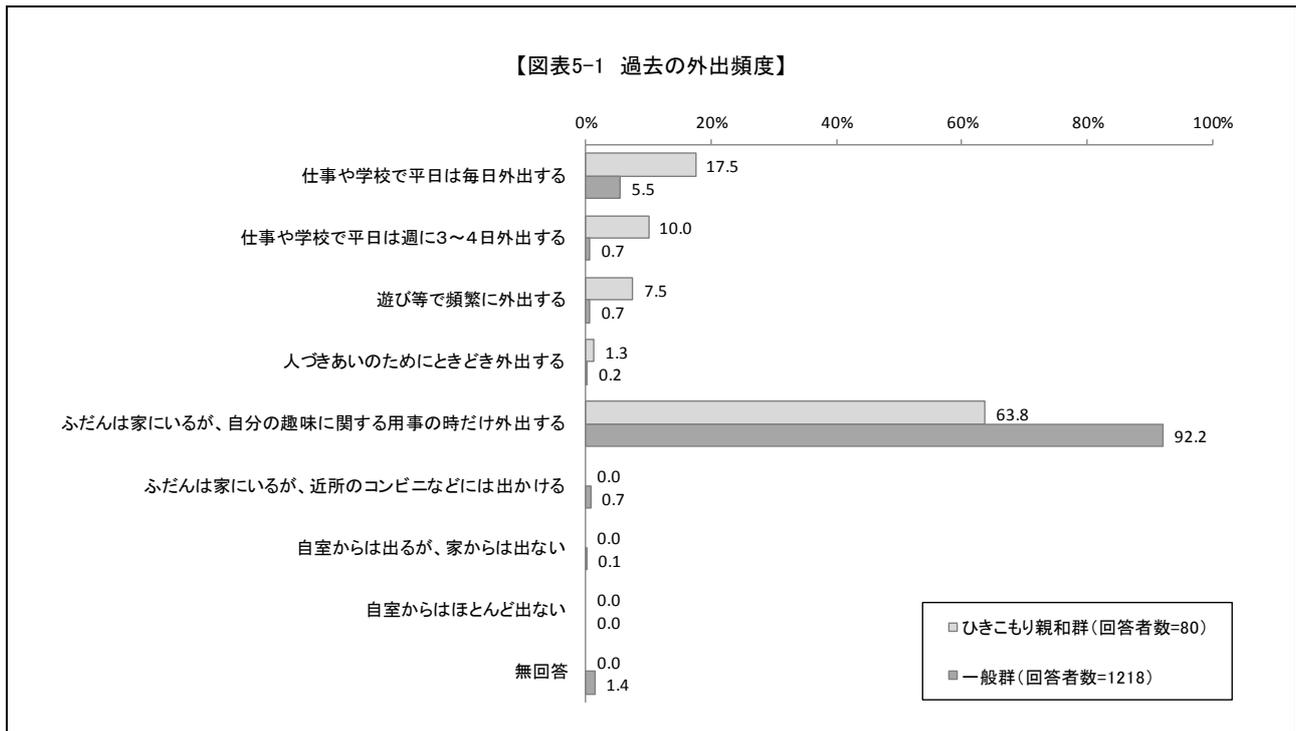
5. 過去の生活について

※以下、問29～問32においては、“ひきこもり親和群”と“一般群”に該当する方の結果を記載

(1) 過去の外出頻度〔問29〕

【問20で「1」～「4」とお答えになった方のみお聞きします】

問29. あなたは今までに6ヶ月以上連続して、以下のような状況になったことはありますか。(〇はひとつだけ)



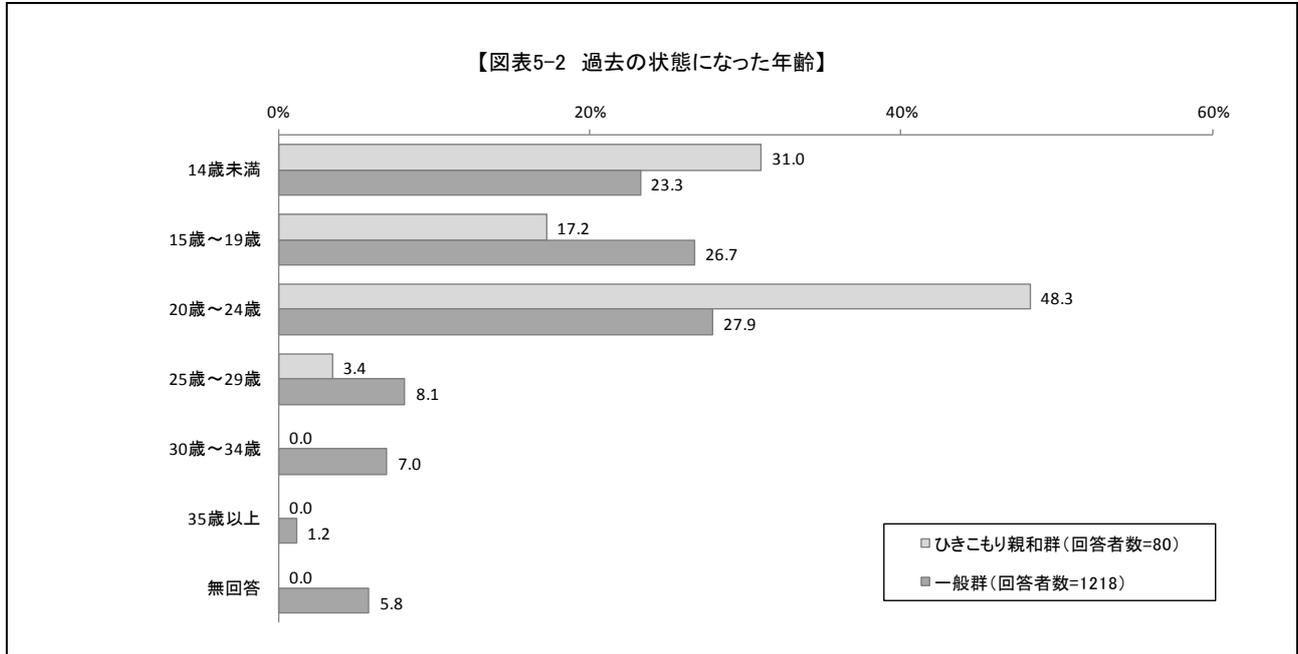
今までに6ヶ月以上連続しての状況についてたずねたところ、“ひきこもり親和群”、“一般群”とも、「上記のような状態に6ヶ月以上連続してなったことはない」が最も多くなっています。

一方、“ひきこもり親和群”では、『上記のような状況に6ヶ月以上連続してなったことがある』（「ふだんは家にいるが、自分の興味に関する用事の時だけ外出する」、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどにでかける」、「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室からはほとんど出ない」の合算）で36.2%となっています。

(2) 過去の状態になった年齢〔問30〕

【問29で「1」～「4」とお答えになった方のみお聞きします】

問30. その状態になったのは、あなたが何歳のころですか。(数字で具体的に)

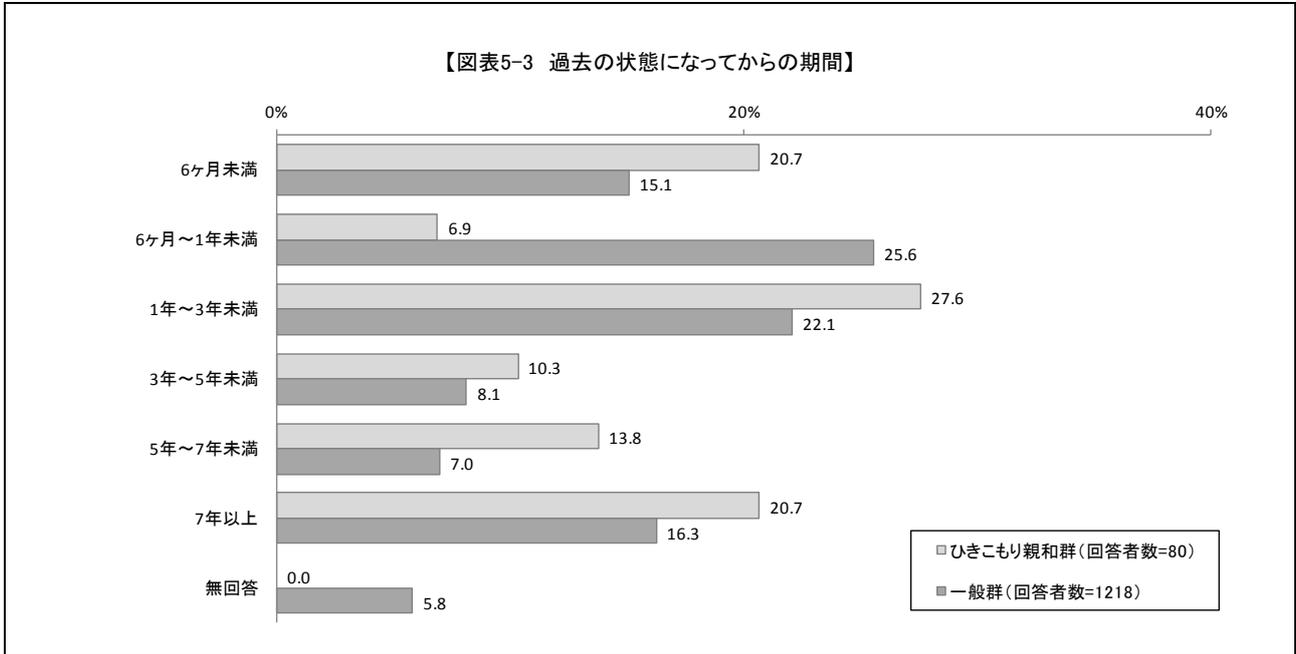


その状態になったのは何歳の頃かたずねたところ、“ひきこもり親和群”、“一般群”とも、「20歳～24歳」がそれぞれ48.3%、27.9%と最も多くなっています。次いで“ひきこもり親和群”では「14歳以下」31.0%、「15歳～19歳」17.2%、“一般群”では「15歳～19歳」26.7%、「14歳以下」23.3%の順となっています。

(3) 過去の状態になってからの期間〔問31〕

【問29で「1」～「4」とお答えになった方のみお聞きします】

問31. その状態になって、どのくらい続きましたか。(〇はひとつだけ)



その状態になってからの期間をたずねたところ、“ひきこもり親和群”では「1年～3年未満」が27.6%と最も多く、次いで、「6ヶ月未満」「7年以上」がともに20.7%の順となっています。

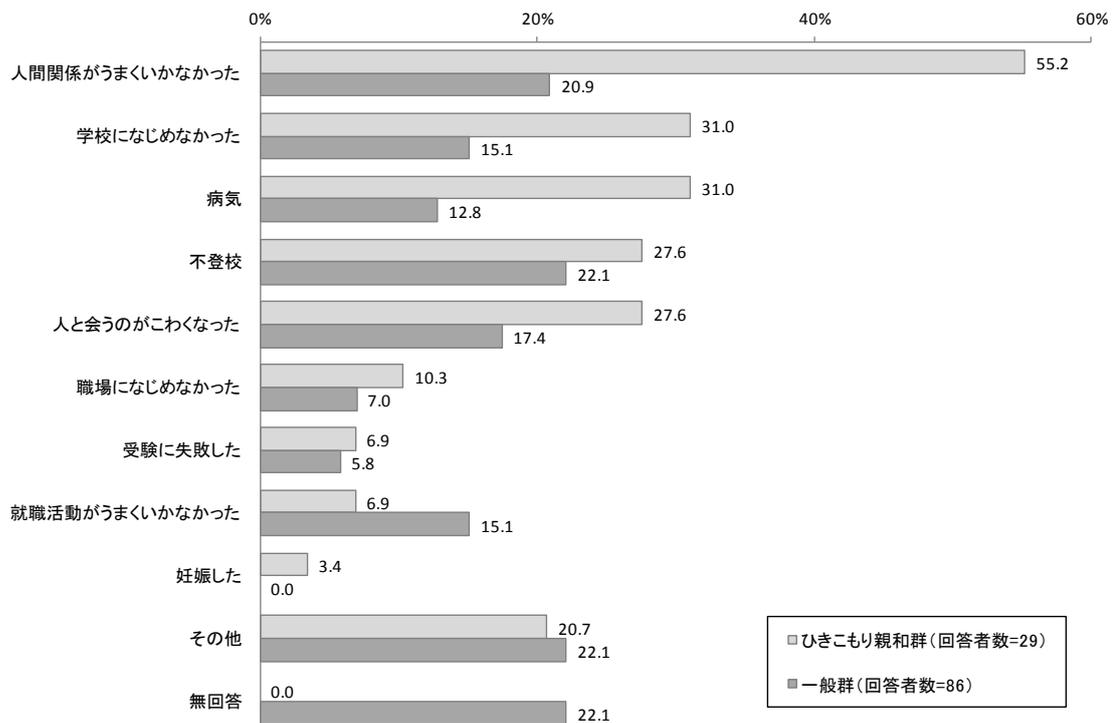
一方、“一般群”では「6ヶ月～1年未満」が25.6%と最も多く、次いで、「1年～3年未満」22.1%、「7年以上」16.3%の順となっています。

(4) 過去の状態になったきっかけ〔問32〕

【問29で「1」～「4」とお答えになった方のみお聞きします】

問32. その状態となったきっかけは何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

【図表5-4 過去の状態になったきっかけ】



その状態になったきっかけをたずねたところ、“ひきこもり親和群”では「人間関係がうまくいかなかった」が55.2%と最も多く、次いで、「学校になじめなかった」「病気」がともに31.0%の順となっています。

一方、“一般群”では「不登校」が22.1%と最も多く、次いで、「人間関係がうまくいかなかった」20.9%、「人と会うのがこわくなった」17.4%の順となっています。

「人間関係がうまくいかなかった」と回答した方(34人)に、誰とうまくいかなかったのかたずねたところ、「友人」が最も多く、次いで「先生」、「上司」に順となっています。

「不登校」と回答した方(17人)に、不登校になった時期をたずねたところ、「中学校」が最も多く、次いで「高校」、「小学校」の順となっています。

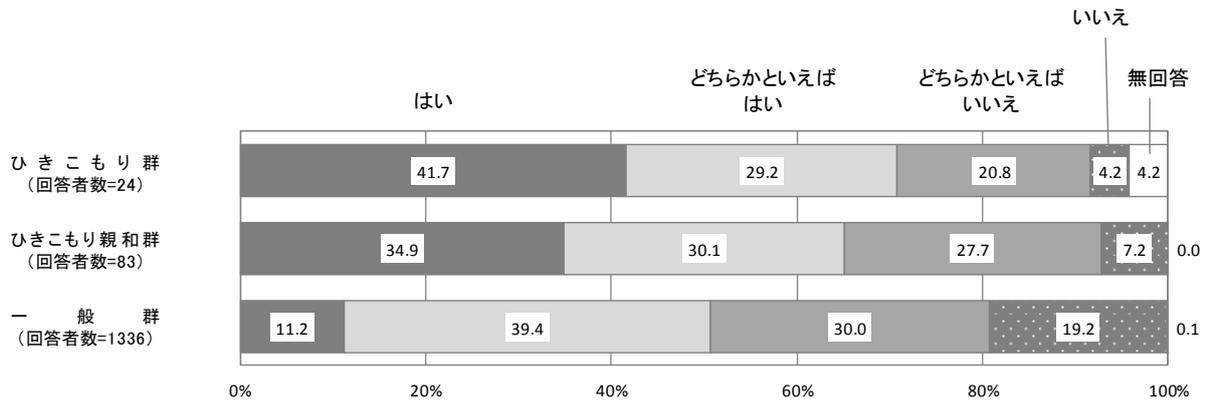
「受験に失敗した」と回答した方(7人)に、失敗した時期をたずねたところ、「大学」が最も多く、次いで「高校」の順となっています。

6. ふだんの意識や態度などについて

(1) ふだんの意識や態度に対する考え〔問33〕

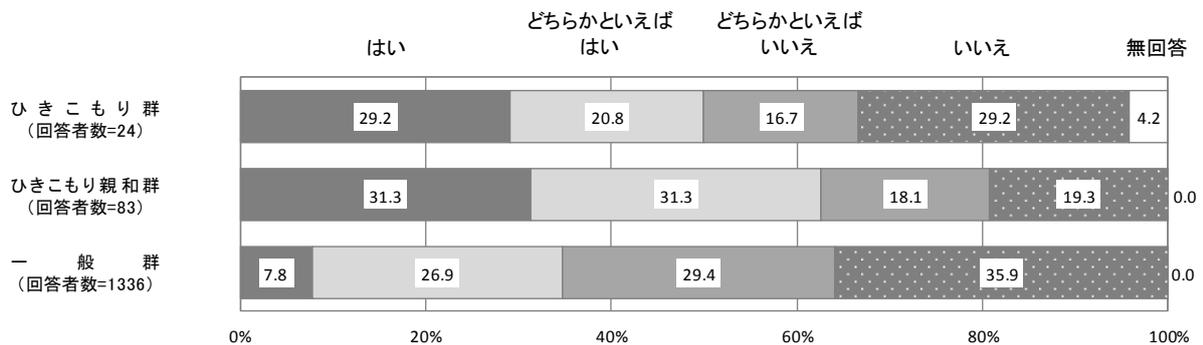
問33. 次のア～タの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。(○は各項目それぞれひとつずつ)

【図表6-1 ア. 自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する】



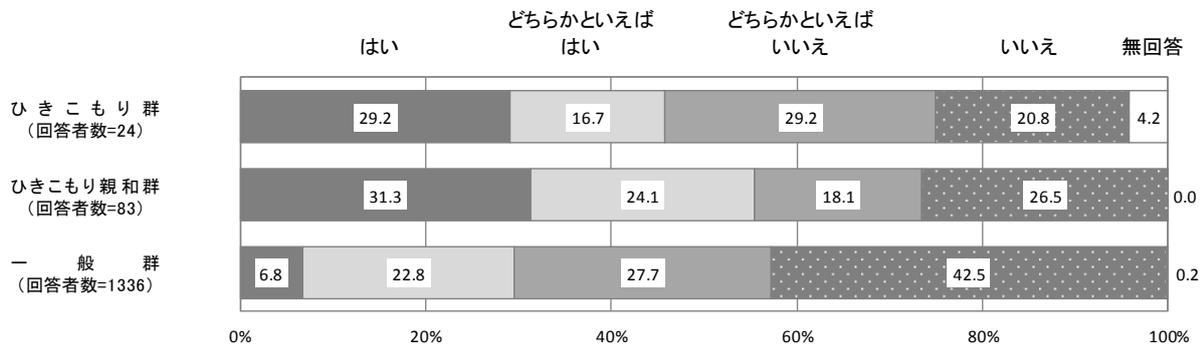
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『ア. 自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合で見ると、“一般群”では50.6%に対し、“ひきこもり親和群”では65.0%、“ひきこもり群”で70.9%と高くなっています。

【図表6-2 イ. 人といると、馬鹿にされたり軽く扱われはしないか不安になる】



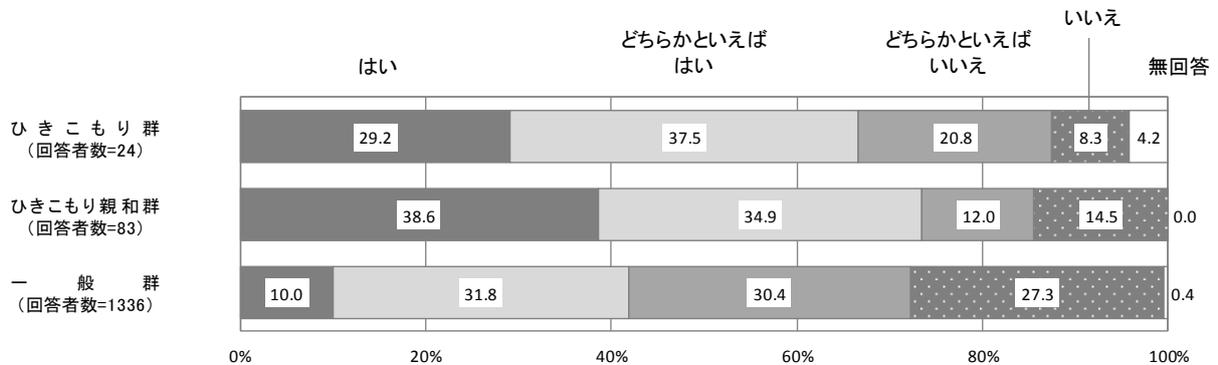
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『イ. 人といると、馬鹿にされたり軽く扱われはしないか不安になる』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合で見ると、“一般群”では34.7%に対し、“ひきこもり群”では50.0%、“ひきこもり親和群”では62.6%と高くなっています。

【図表6-3 ウ. 周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる】



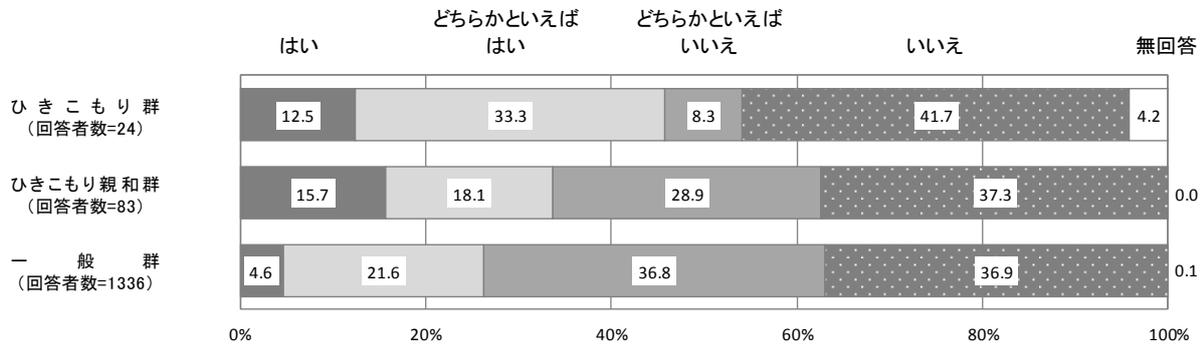
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『ウ. 周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では29.6%に対し、“ひきこもり群”では45.9%、“ひきこもり親和群”では55.4%と高くなっています。

【図表6-4 エ. 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く】



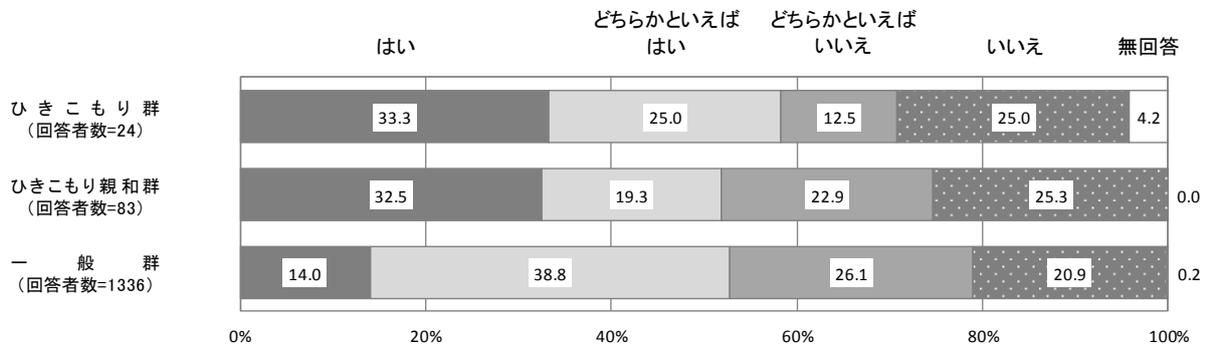
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『エ. 他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では41.8%に対し、“ひきこもり群”では66.7%、“ひきこもり親和群”では73.5%と高くなっています。

【図表6-5 オ. 大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ】



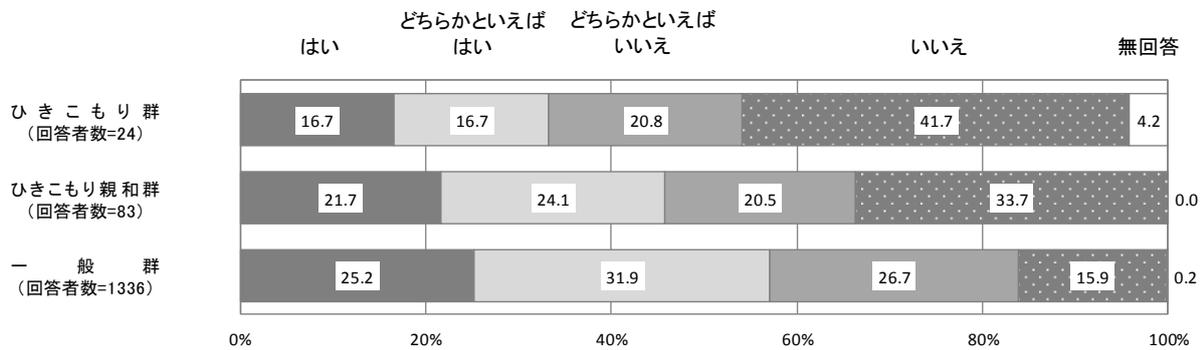
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『オ. 大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では26.2%に対し、“ひきこもり親和群”では33.8%、“ひきこもり群”では45.8%と高くなっています。

【図表6-6 カ. 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ】



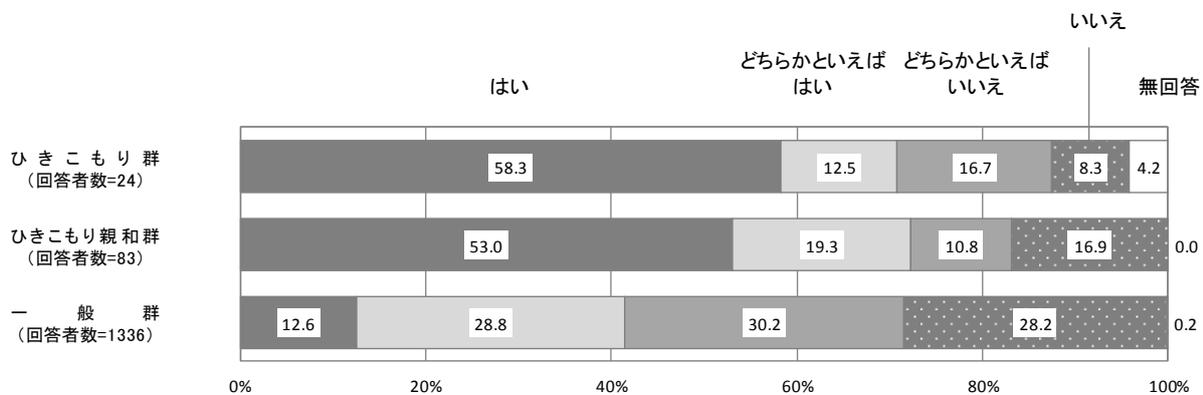
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『カ. 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“ひきこもり親和群”では51.8%、“一般群”では52.8%、“ひきこもり群”では58.3%とほぼ同じ傾向となっています。

【図表6-7 キ. 初対面の人とすぐに会話できる自信がある】

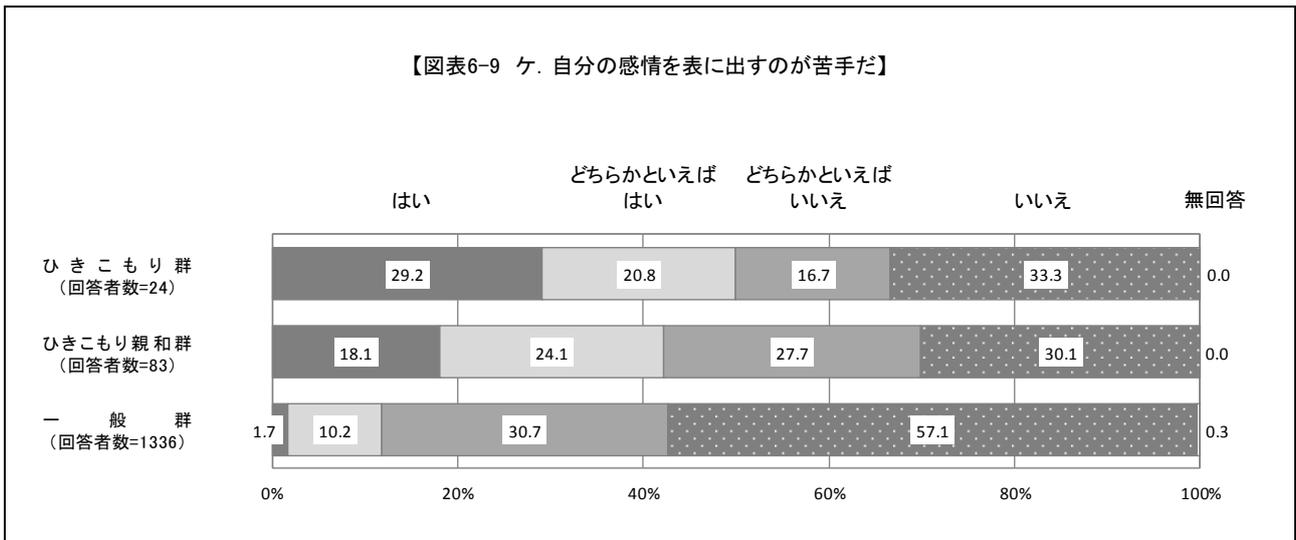


ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『キ. 初対面の人とすぐに会話できる自信がある』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では57.1%に対し、“ひきこもり親和群”では45.8%、“ひきこもり群”では33.4%と低くなっています。

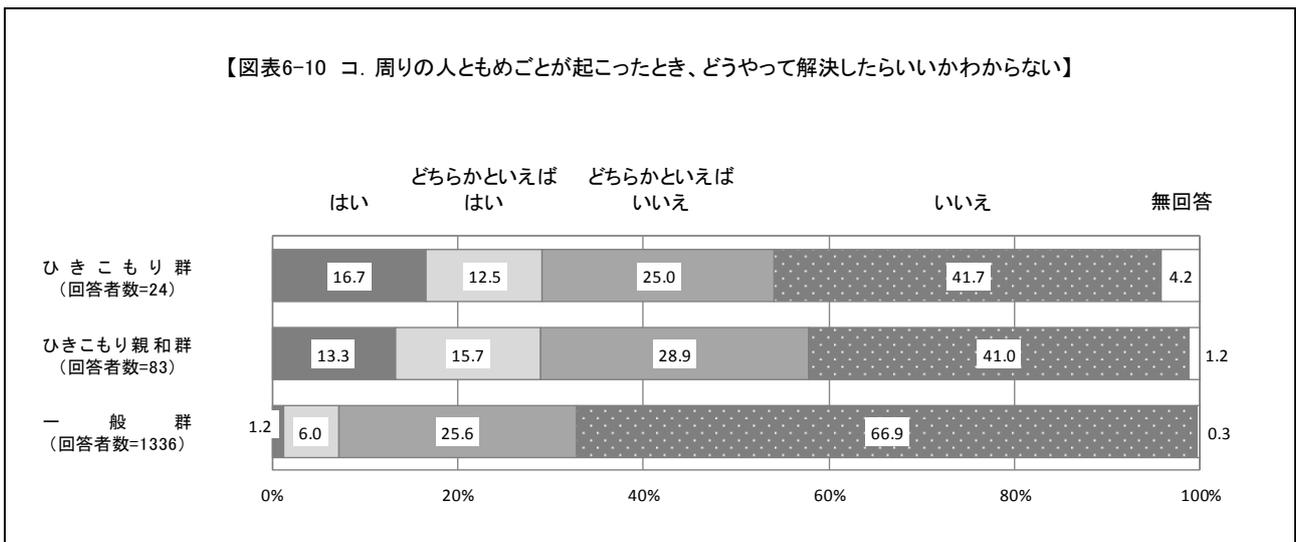
【図表6-8 ク. 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む】



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『ク. 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では41.4%に対し、“ひきこもり群”では70.8%、“ひきこもり親和群”では72.3%と高くなっています。

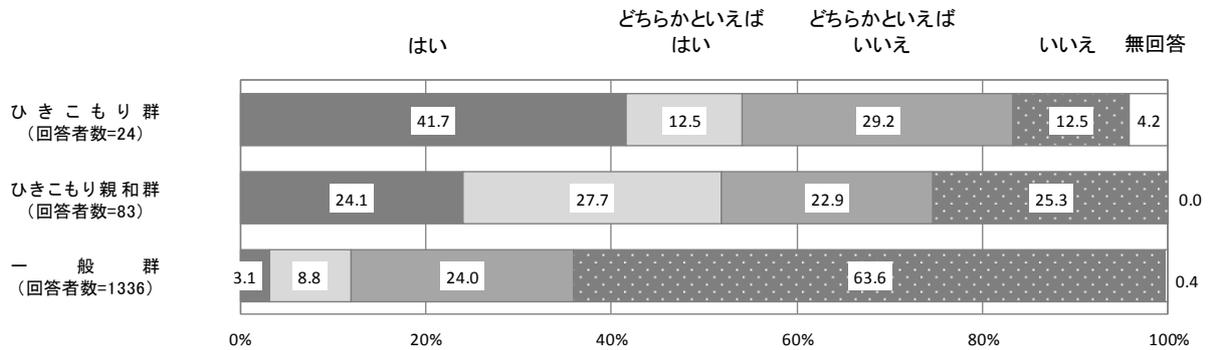


ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『ケ. 自分の感情を表に出すのが苦手だ』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では11.9%に対し、“ひきこもり親和群”では42.2%、“ひきこもり群”では50.0%と高くなっています。



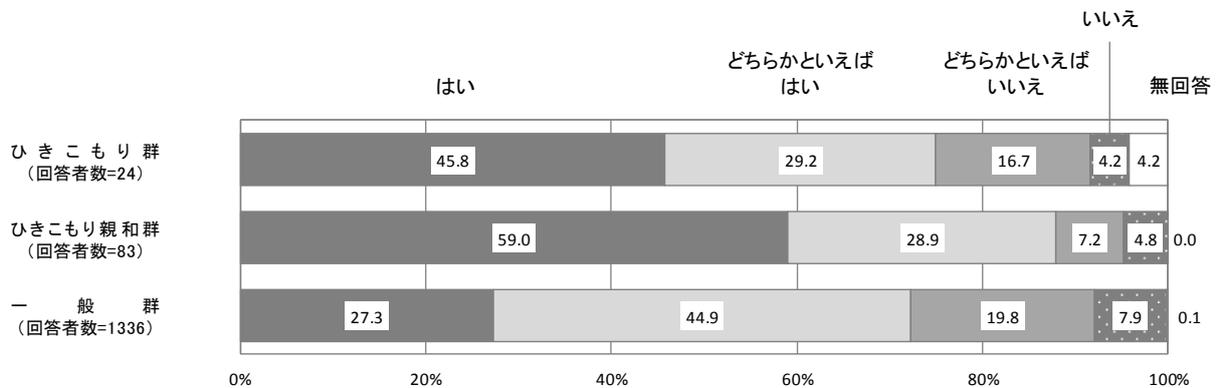
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『コ. 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では7.2%に対し、“ひきこもり親和群”では29.0%、“ひきこもり群”では29.2%と高くなっています。

【図表6-11 サ. たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい】



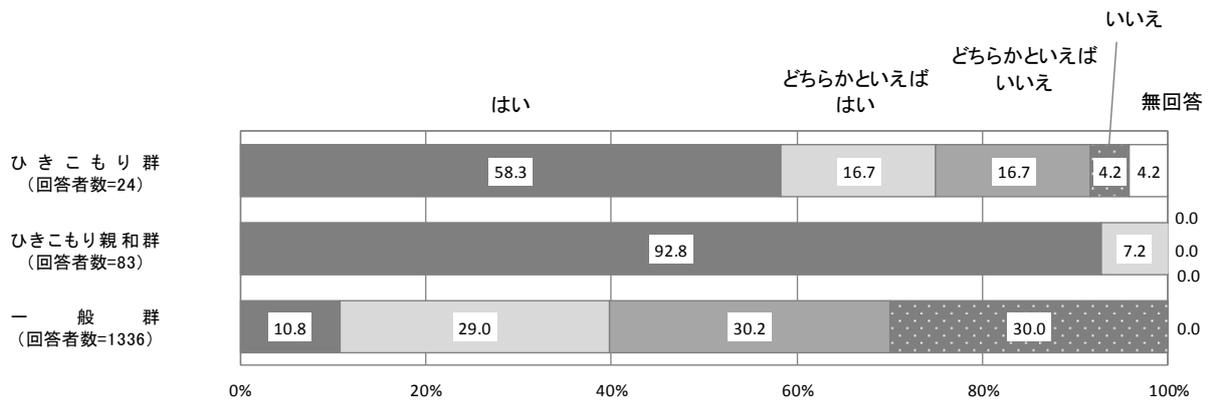
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『サ. たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では11.9%に対し、“ひきこもり親和群”では51.8%、“ひきこもり群”では54.2%と高くなっています。

【図表6-12 シ. 自分の生活のことで人から干渉されたくない】



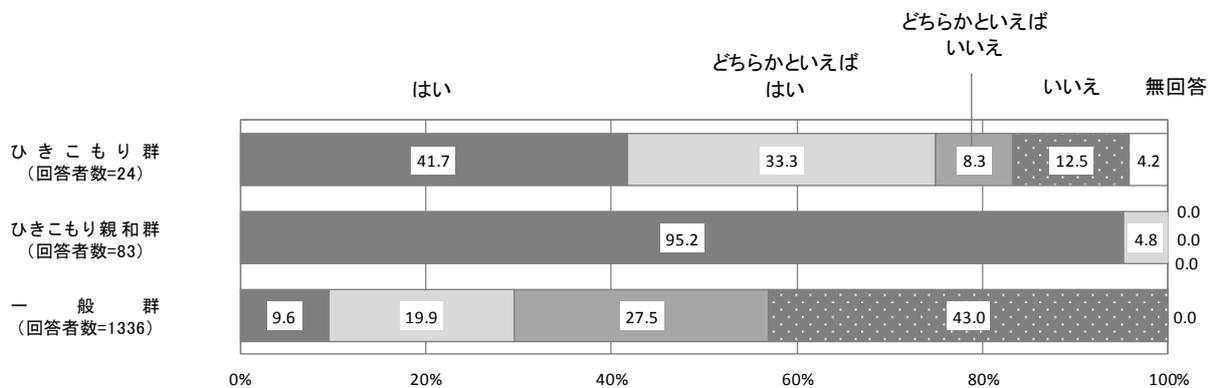
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『シ. 自分の生活のことで人から干渉されたくない』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では72.2%、“ひきこもり群”では75.0%に対し、“ひきこもり親和群”では87.9%と高くなっています。

【図表6-13 ス. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる】

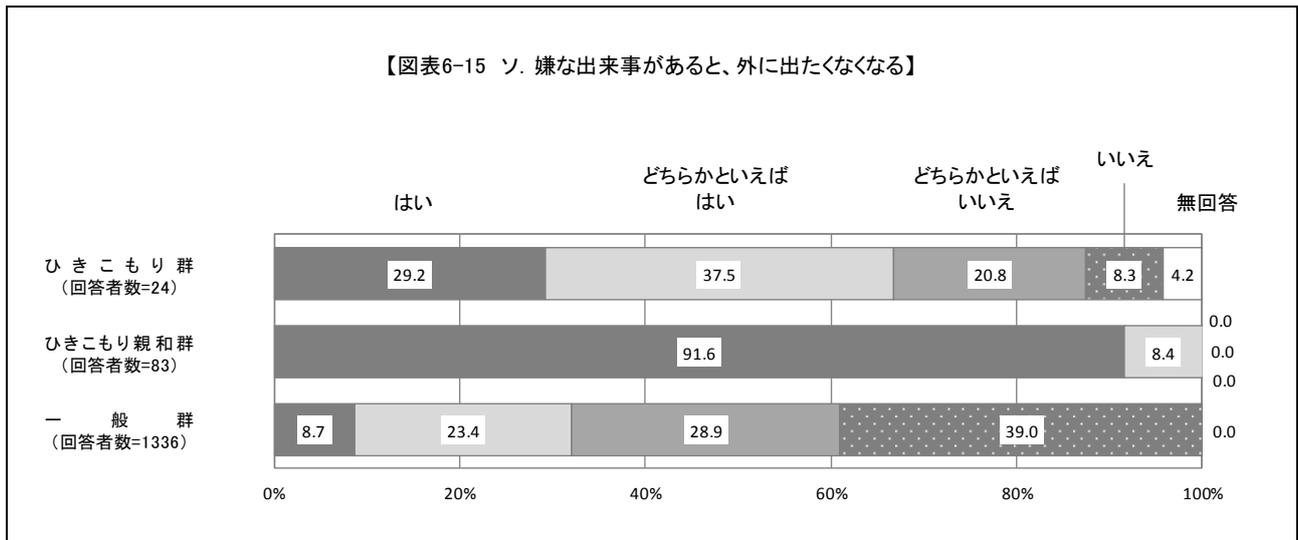


ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『ス. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では39.8%に対し、“ひきこもり群”では75.0%、“ひきこもり親和群”では100.0%と高くなっています。

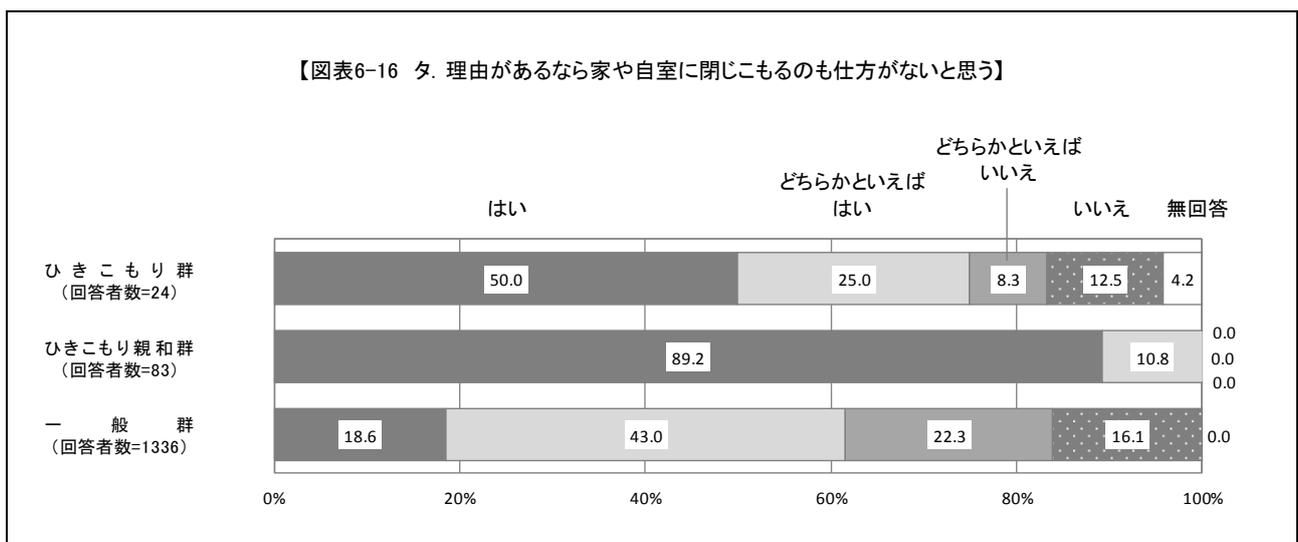
【図表6-14 セ. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある】



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『セ. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では29.5%に対し、“ひきこもり群”では75.0%、“ひきこもり親和群”では100.0%と高くなっています。



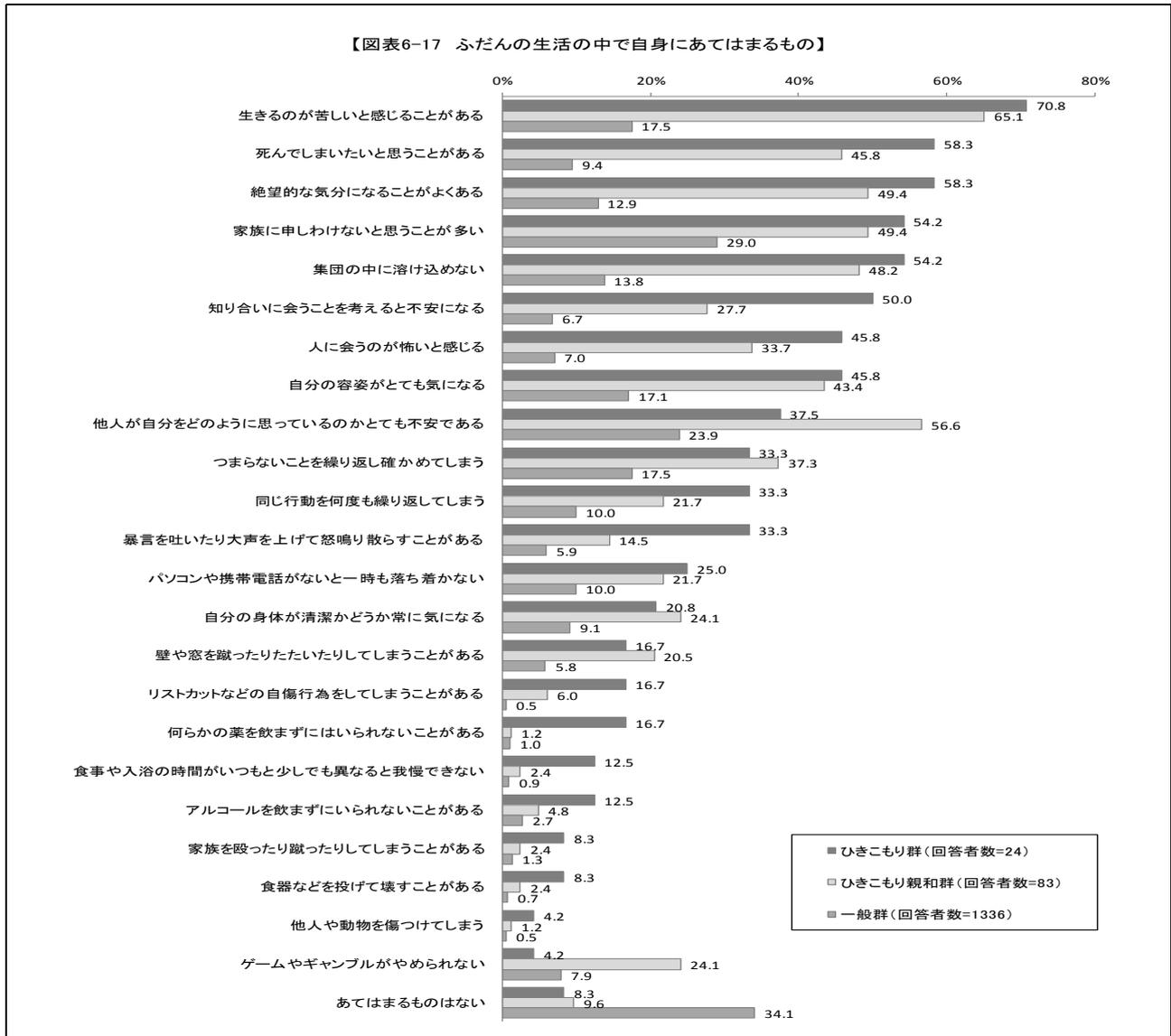
ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『ソ. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では 32.1%に対し、“ひきこもり群”では 66.7%、“ひきこもり親和群”では 100.0%と高くなっています。



ふだんの意識や態度に対する考えのうち、『タ. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では 61.6%に対し、“ひきこもり群”では 75.0%、“ひきこもり親和群”では 100.0%と高くなっています。

(2) ふだんの生活の中で自身にあてはまるもの〔問34〕

問34. 次にあげられたことのなかで、あなた自身にあてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)



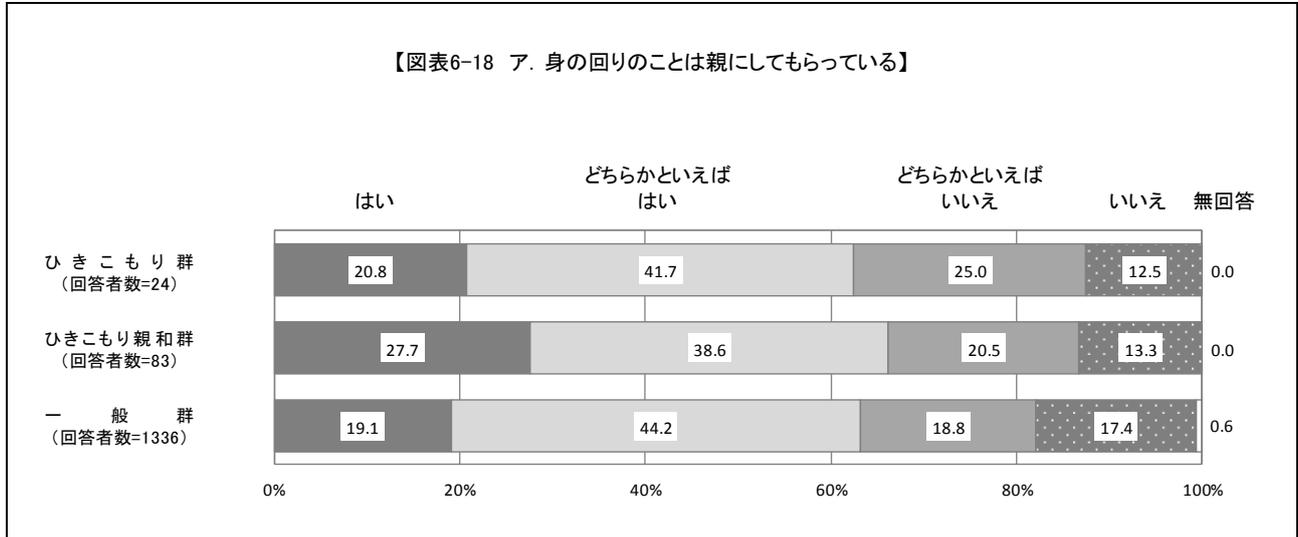
ふだんの生活の中で自身にあてはまるものについてたずねたところ、「ひきこもり群」では「生きるのが苦しいと感じることがある」が70.8%と最も多く、次いで「死んでしまいたいと思うことがある」、「絶望的な気分になることがよくある」がともに58.3%の順となっています。

一方、「ひきこもり親和群」では「生きるのが苦しいと感じることがある」が65.1%と最も多く、次いで「他人が自分をどのように思っているのかとても不安である」56.6%、「絶望的な気分になることがよくある」、「家族に申しわけないと思うことが多い」がともに49.4%の順となっています。

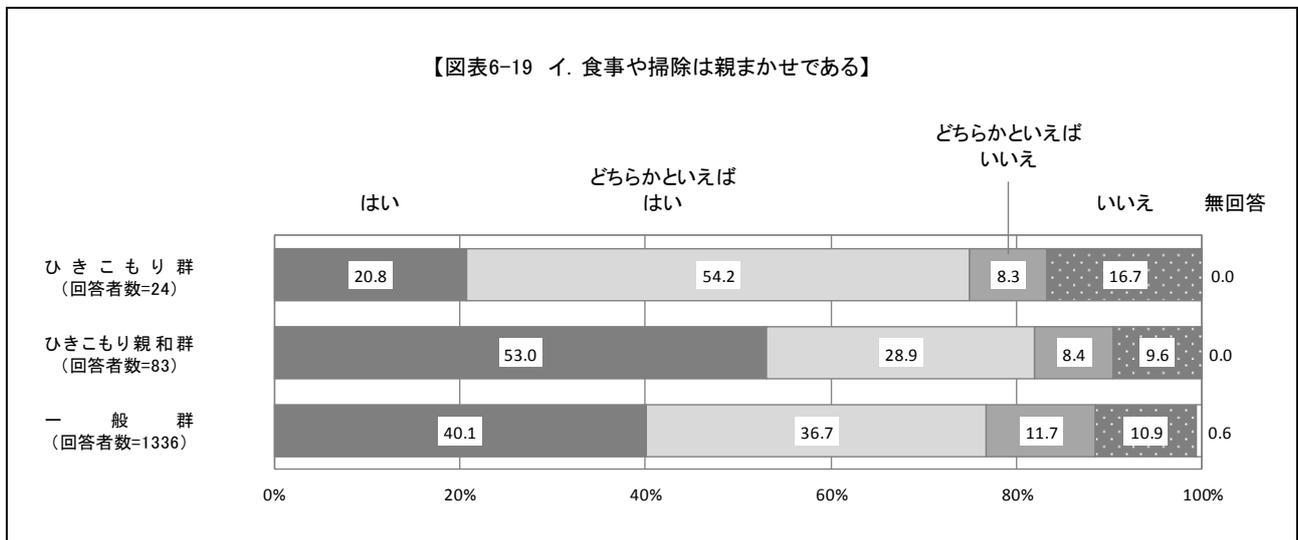
また、「一般群」では「あてはまるものはない」が34.1%と最も多くなっている。これに続くのが「家族に申しわけないと思うことが多い」29.0%、「生きるのが苦しいと感じることがある」17.5%の順となっています。

(3) ふだんの生活状況〔問35〕

問35. 次のア～シの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。(○は各項目それぞれひとつずつ)

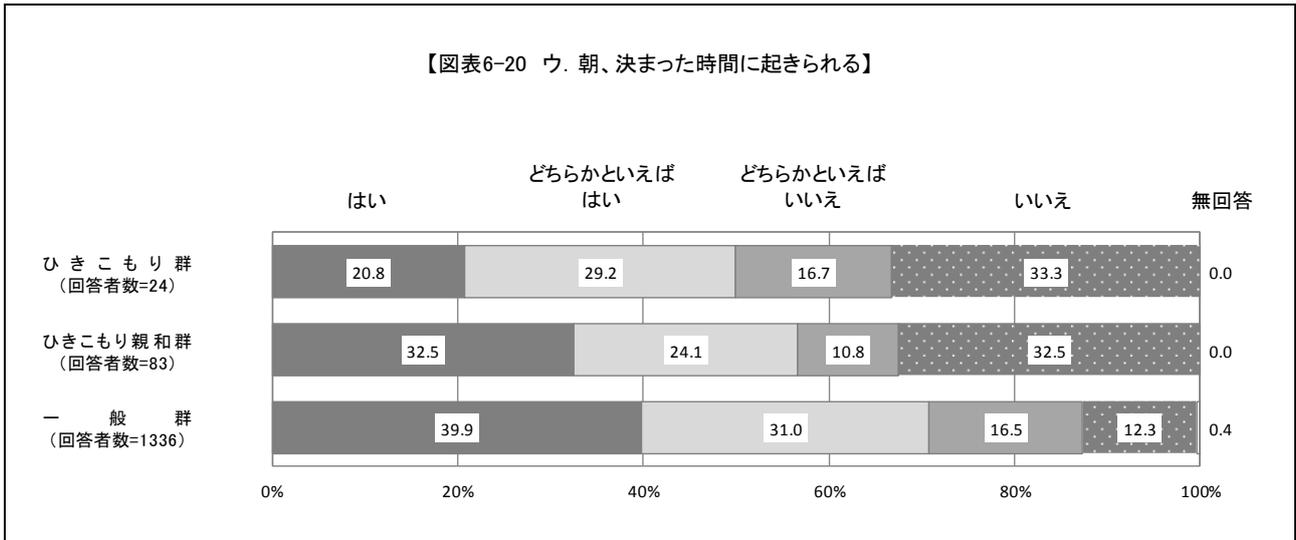


ふだんの生活状況に対する考えのうち、『ア. 身の回りのことは親にしてもらっている』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“ひきこもり群”では62.5%、“一般群”では63.3%、“ひきこもり親和群”では66.3%とほぼ同じ傾向となっています。



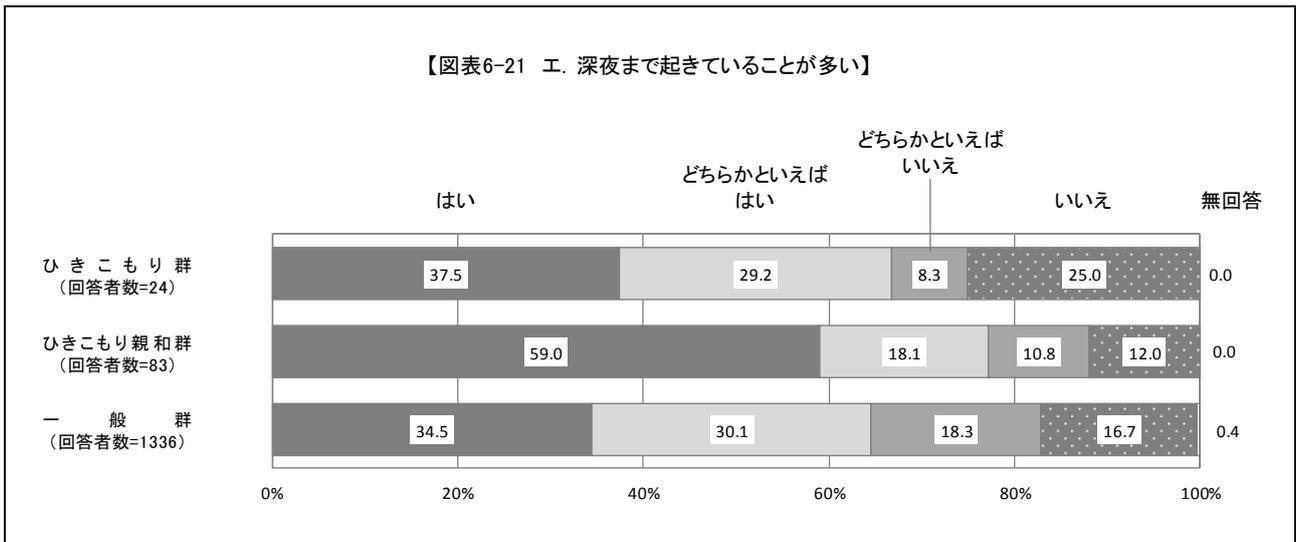
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『イ. 食事や掃除は親まかせである』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“ひきこもり群”では75.0%、“一般群”では76.8%、“ひきこもり親和群”では81.9%とほぼ同じ傾向となっています。

【図表6-20 ウ. 朝、決まった時間に起きられる】



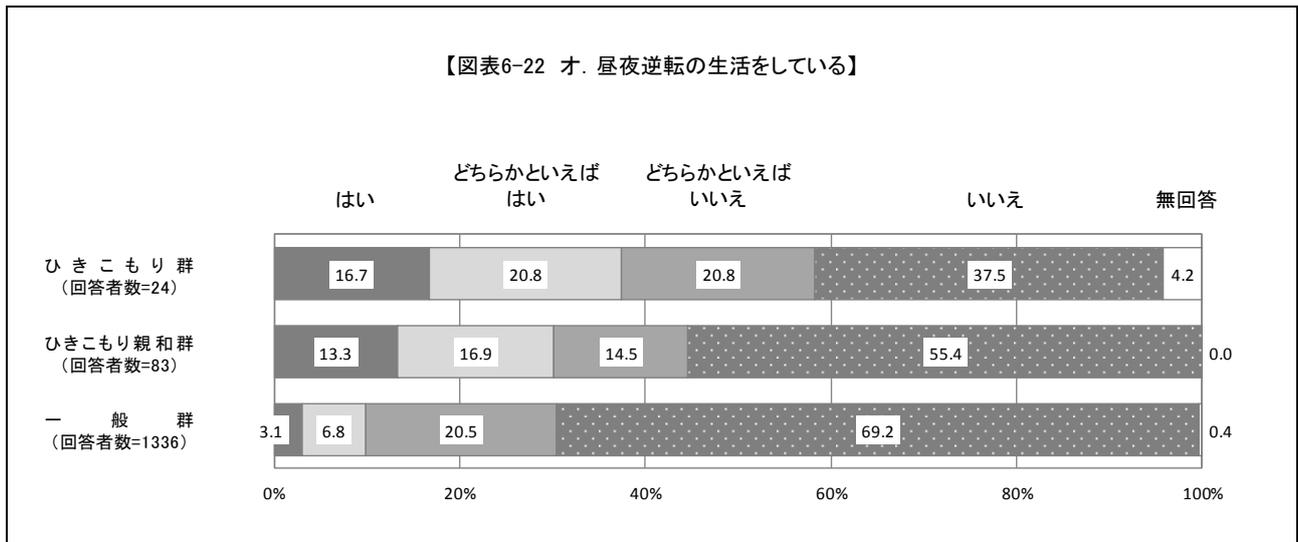
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『ウ. 朝、決まった時間に起きられる』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合で見ると、“一般群”では70.9%に対し、“ひきこもり親和群”では56.6%、“ひきこもり群”では50.0%と低くなっています。

【図表6-21 エ. 深夜まで起きていることが多い】



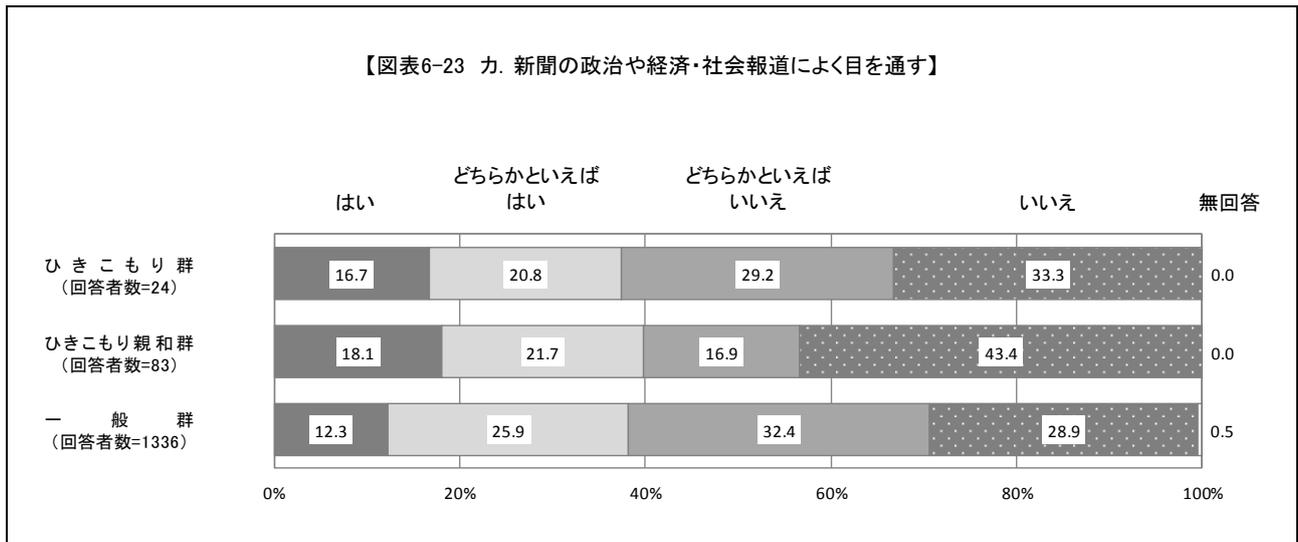
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『エ. 深夜まで起きていることが多い』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合で見ると、“一般群”では64.6%、“ひきこもり群”では66.7%に対し、“ひきこもり親和群”では77.1%と高くなっています。

【図表6-22 オ. 昼夜逆転の生活をしている】



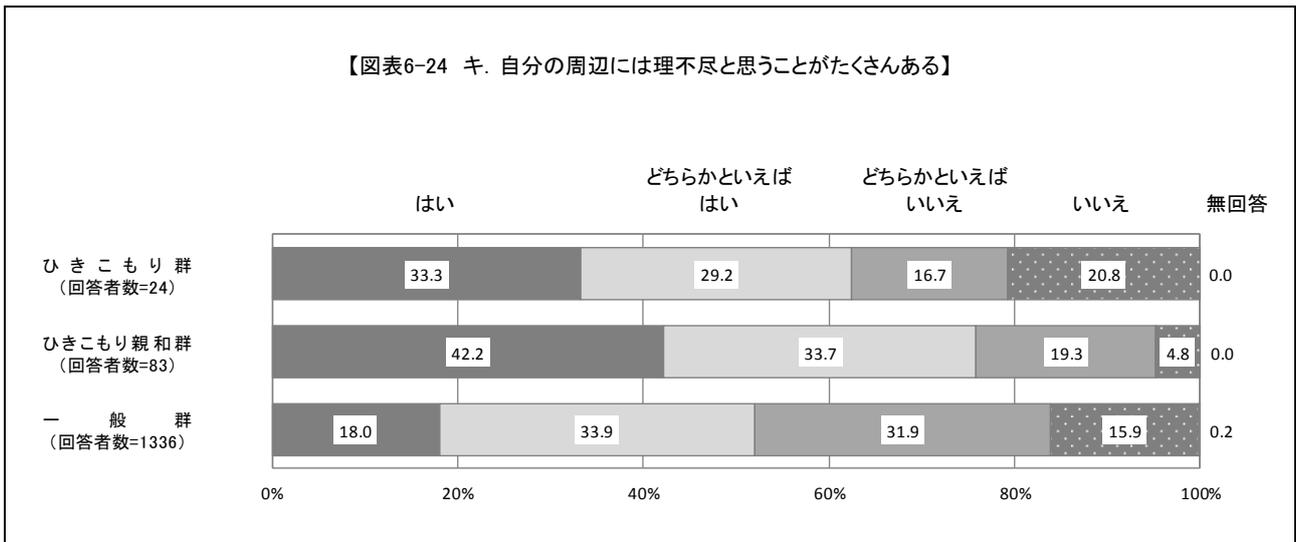
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『オ. 昼夜逆転の生活をしている』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では 9.9% に対し、“ひきこもり親和群”では 30.2%、“ひきこもり群”では 37.5% と高くなっています。

【図表6-23 カ. 新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す】



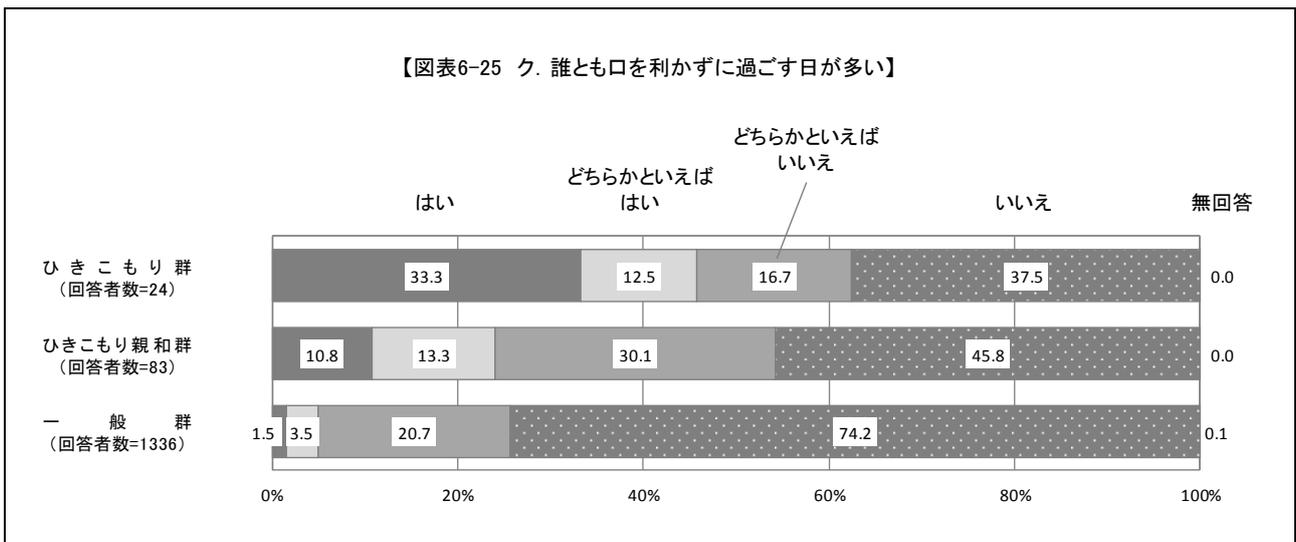
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『カ. 新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“ひきこもり群”では 37.5%、“一般群”では 38.2%、“ひきこもり親和群”では 39.8% と同じ傾向になっています。

【図表6-24 キ. 自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある】



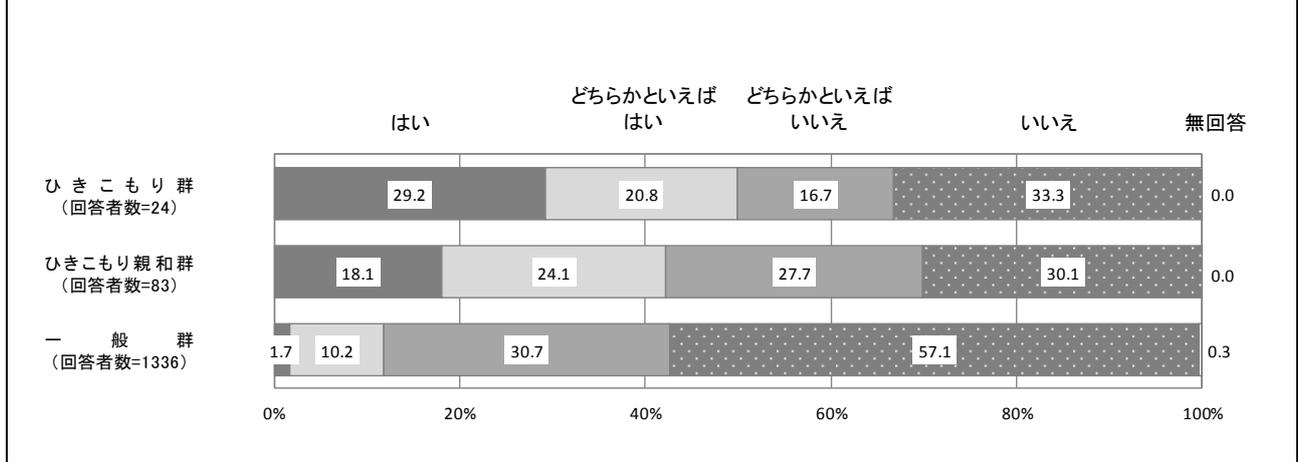
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『キ. 自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では51.9%に対し、“ひきこもり群”では62.5%、“ひきこもり親和群”では75.9%と高くなっています。

【図表6-25 ク. 誰とも口を利かずに過ごす日が多い】



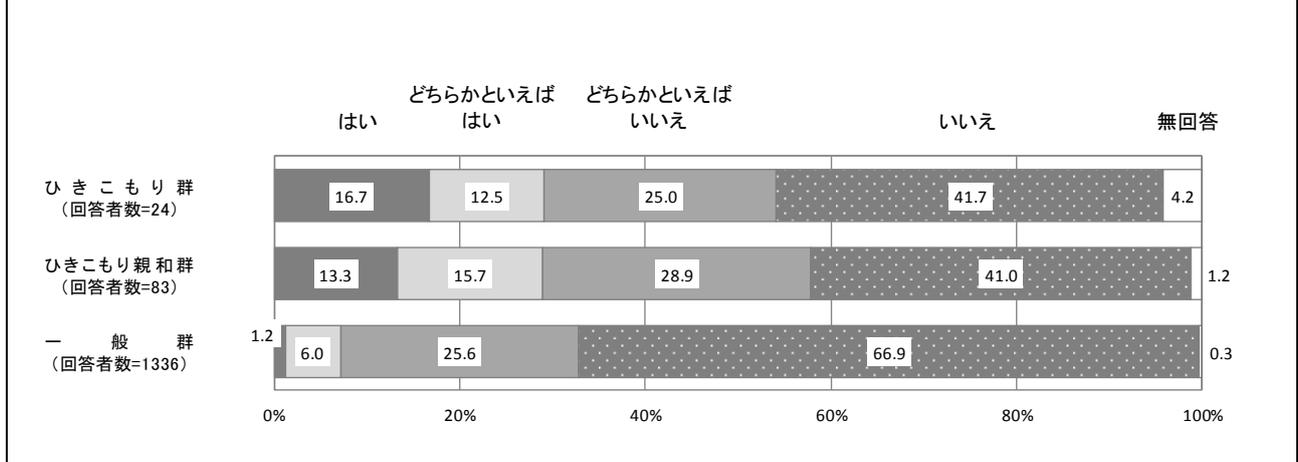
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『ク. 誰とも口を利かずに過ごす日が多い』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では5.0%に対し、“ひきこもり親和群”では24.1%、“ひきこもり群”では45.8%と高くなっています。

【図表6-26 ケ. 人と会話をするのはわずらわしい】



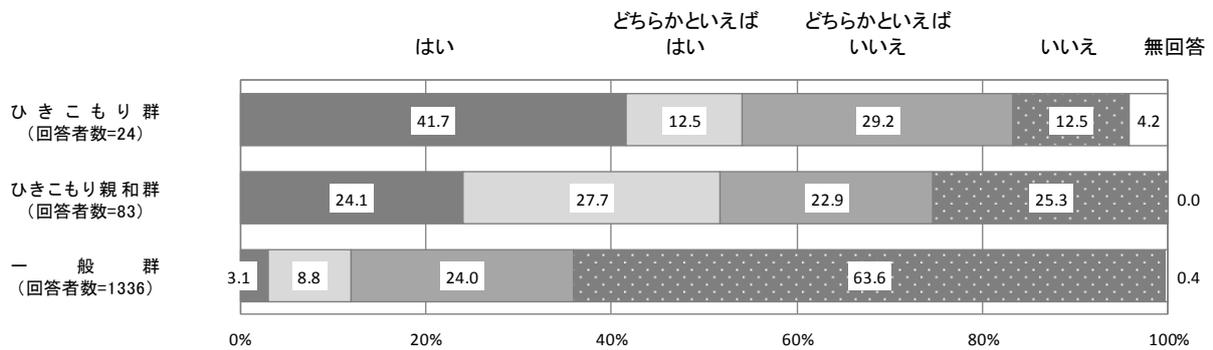
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『ケ. 人と会話をするのはわずらわしい』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では 11.9%に対し、“ひきこもり親和群”では 42.2%、“ひきこもり群”では 50.0%と高くなっています。

【図表6-27 コ. 過去と知り合いや縁者に信頼できる人はいない】



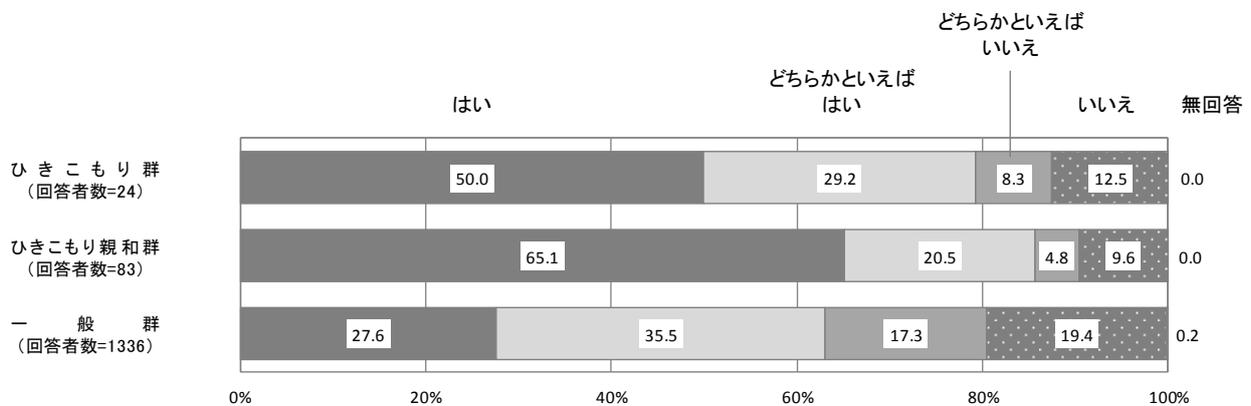
ふだんの生活状況に対する考えのうち、『コ. 過去と知り合いや縁者に信頼できる人はいない』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」＋「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では 7.2%に対し、“ひきこもり親和群”では 29.0%、“ひきこもり群”では 29.2%と高くなっています。

【図表6-28 サ. 自分の精神状態は健康ではないと思う】



ふだんの生活状況に対する考えのうち、『サ. 自分の精神状態は健康ではないと思う』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」+「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では 11.9% に対し、“ひきこもり親和群”では 51.8%、“ひきこもり群”では 54.2% と高くなっています。

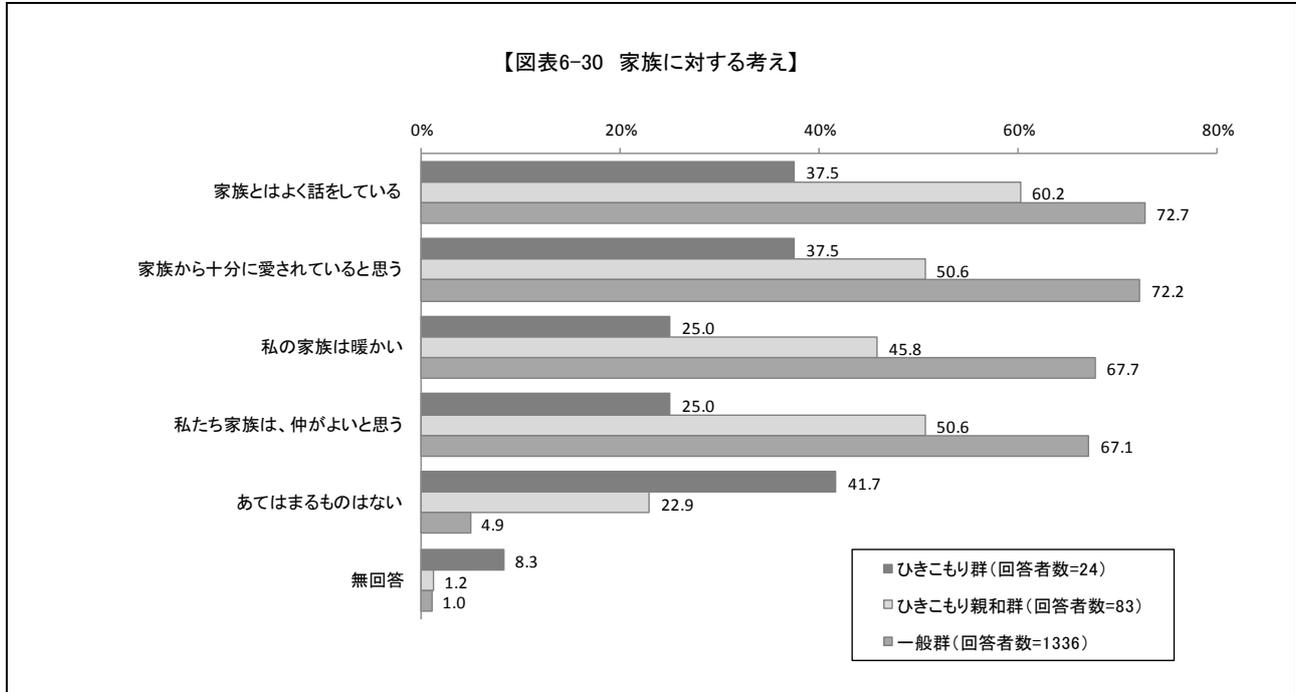
【図表6-29 シ. 自分の今の状態について考えることはよくある】



ふだんの生活状況に対する考えのうち、『シ. 自分の今の状態について考えることはよくある』についてどの程度あてはまるかたずねたところ、『はい』（「はい」+「どちらかといえばはい」の合算）と回答した人の割合でみると、“一般群”では 63.1% に対し、“ひきこもり群”では 79.2%、“ひきこもり親和群”では 85.6% と高くなっています。

(4) 家族に対する考え〔問36〕

問36. あなたのご家族について、あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。
(○はいくつでも)

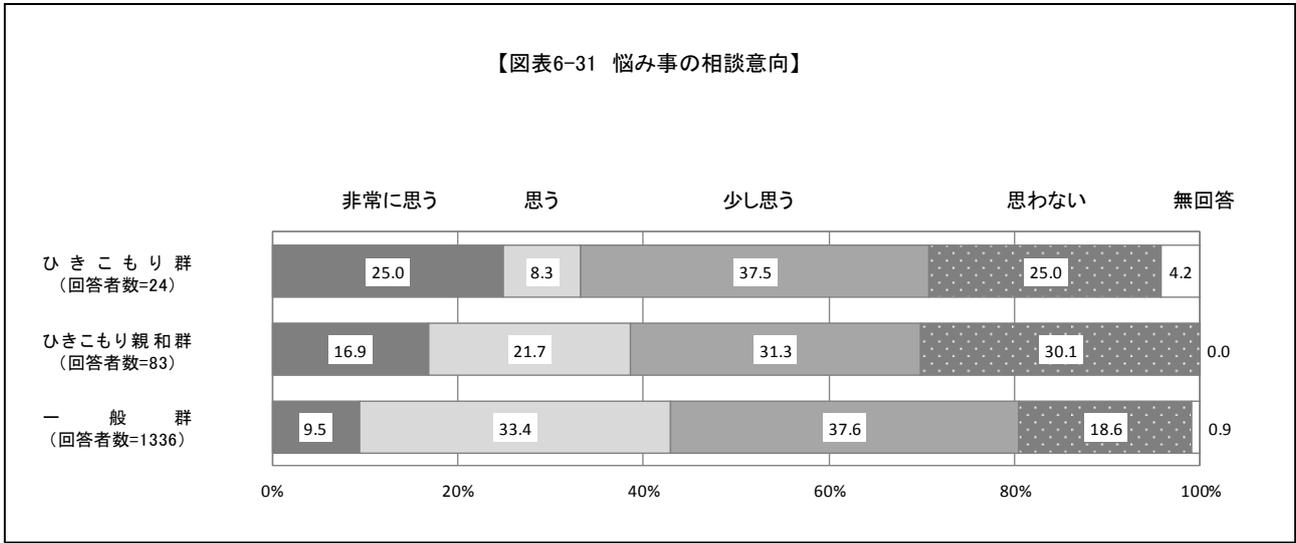


家族に対する考えをたずねたところ、“ひきこもり親和群”、“一般群”では「家族とはよく話をしている」がそれぞれ 60.2%、72.7%、“ひきこもり群”では「家族とはよく話をしている」、「家族から十分に愛されていると思う」がともに 37.5%と最も多くなっています。

項目ごとにみると、「あてはまるものはない」「無回答」を除く全ての項目において、“一般群”で割合が最も高く、次いで、“ひきこもり親和群”、“ひきこもり群”の順に低くなっています。

(5) 悩み事の相談意向〔問37〕

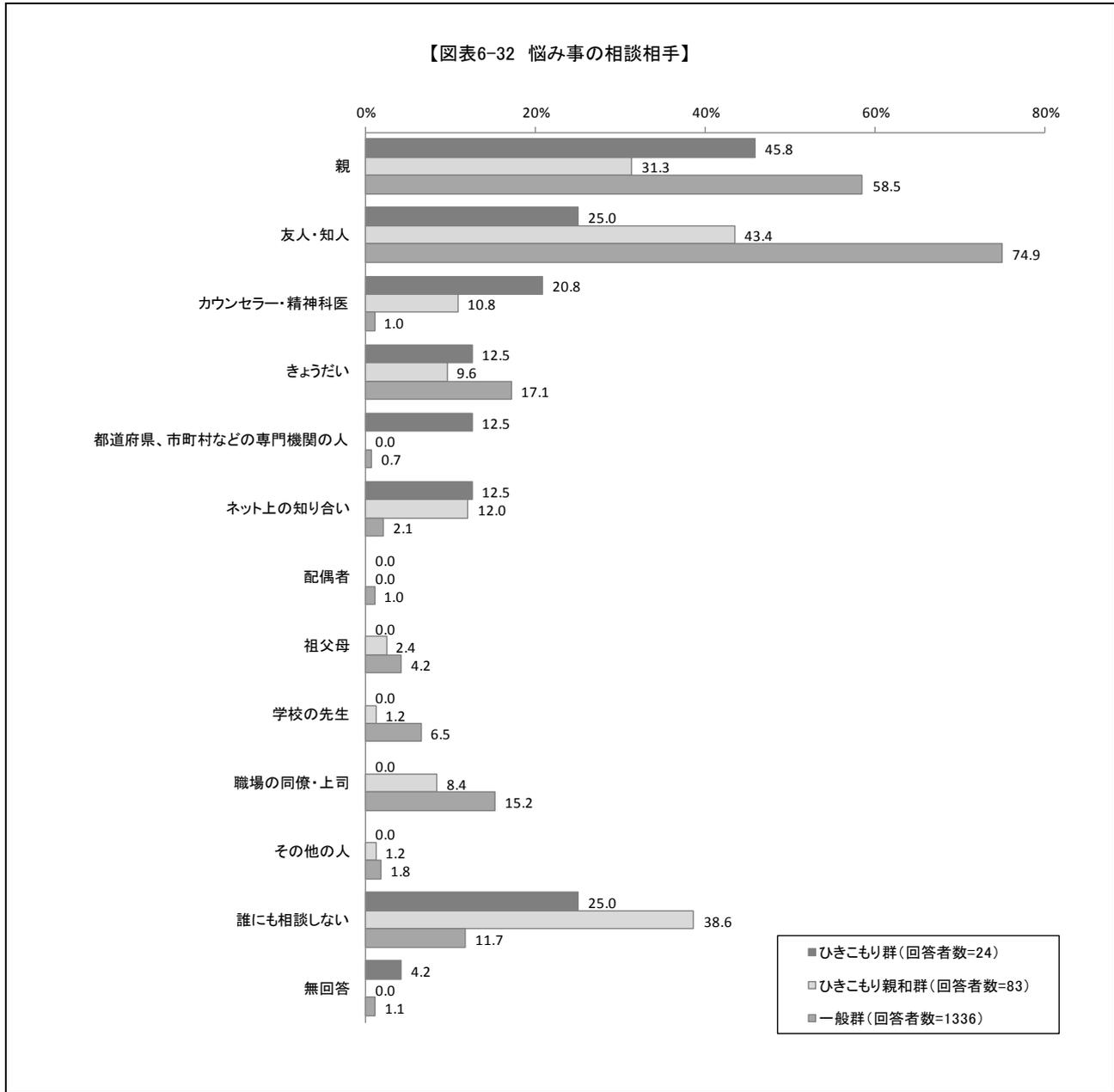
問37. あなたはふだん悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(○はひとつだけ)



ふだん悩み事を誰かに相談したいと思うかたずねたところ、「非常に思う」と回答した人の割合でみると、“ひきこもり群”では25.0%と最も高く、“ひきこもり親和群”では16.9%、“一般群”では9.5の順となっています。

(6) 悩み事の相談相手〔問38〕

問38. あなたはふだん悩み事を誰かに相談しますか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)



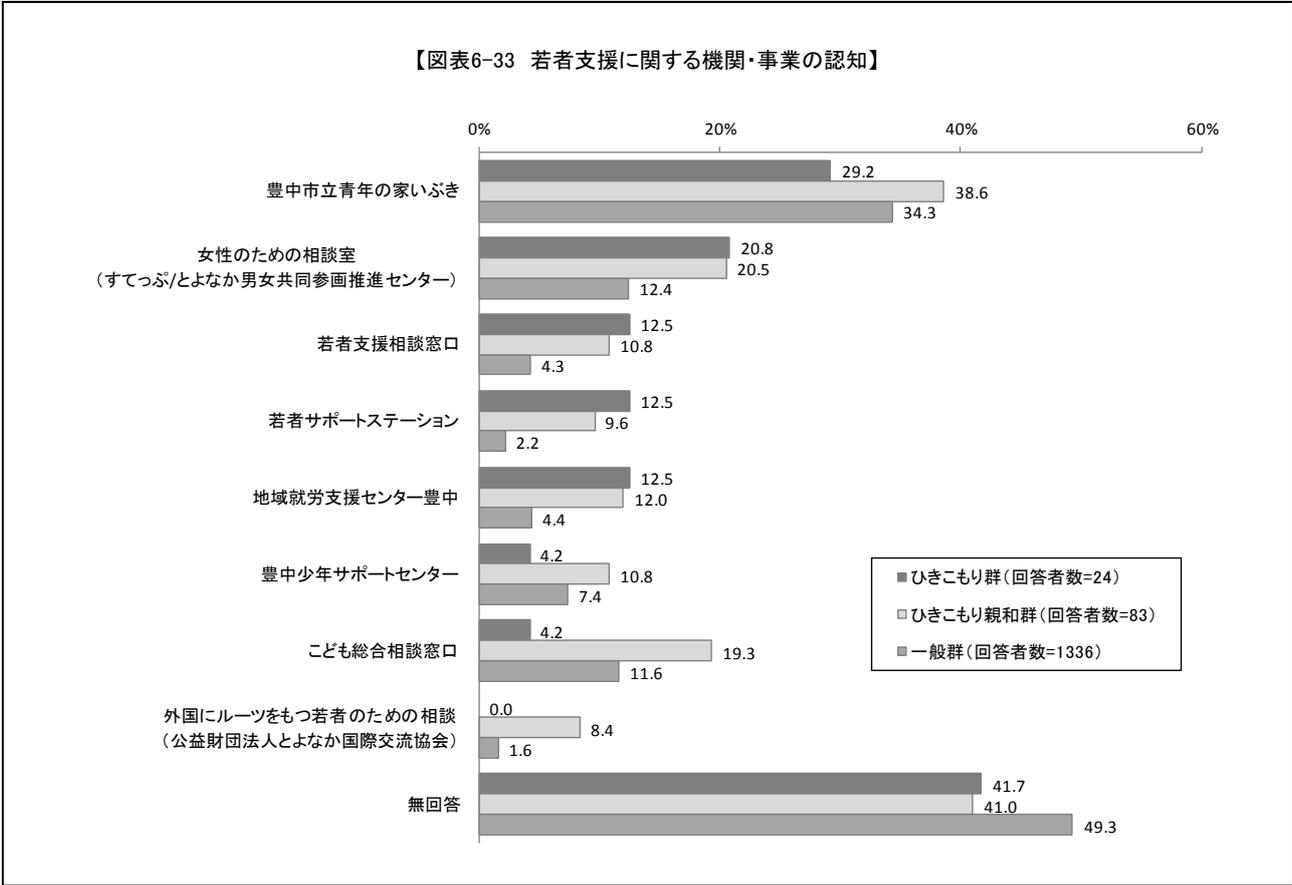
ふだん悩み事を誰に相談するかたずねたところ、“ひきこもり群”では「親」が45.8%と最も多いのに対し、“ひきこもり親和群”、“一般群”では「友人・知人」がそれぞれ43.4%、74.9%と最も多くなっています。

「親」や「友人・知人」以外での相談相手としては、“一般群”で「きょうだい」がこれに続く一方、“ひきこもり群”では「カウンセラー・精神科医」、「ひきこもり親和群」では「ネット上の知り合い」が次いで多くなっています。

また、「誰にも相談しない」が“ひきこもり群”では25.0%、“ひきこもり親和群”では38.6%と2～3割みられます。

(7) 若者支援に関する機関・事業の認知〔問39〕

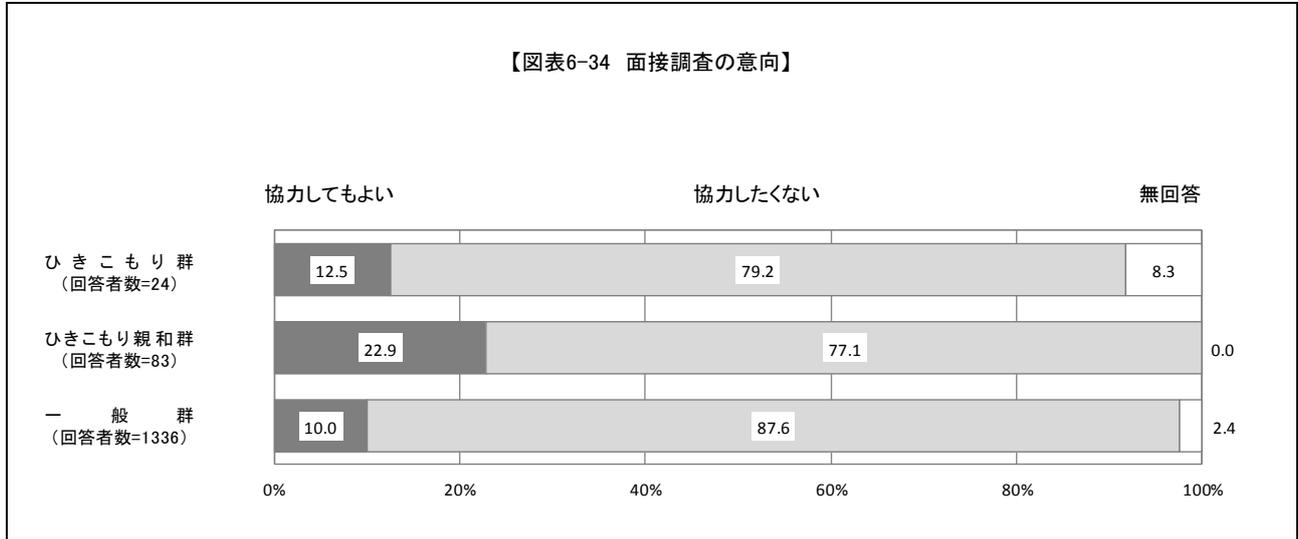
問39. あなたは子ども・若者支援に関する以下の機関や事業を知っていますか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)



若者支援に関する機関や事業を知っているかどうかたずねたところ、「豊中市立青年の家いぶき」が“ひきこもり群”では29.2%、“ひきこもり親和群”では38.6%、“一般群”では34.3%と最も高く、次いで、「女性のための相談室（すてっぷ／とよなか男女共同参画推進センター）」で、“ひきこもり群”で20.8%、“ひきこもり親和群”で20.5%、“一般群”で12.4%の順となっています。

(8) 面接調査の意向〔問40〕

問40. この調査でお聞きできなかったことについて、調査員が個別にあなたのお考えなどをお聞きする面接調査を実施する場合、ご協力いただけますか。(○はひとつだけ)



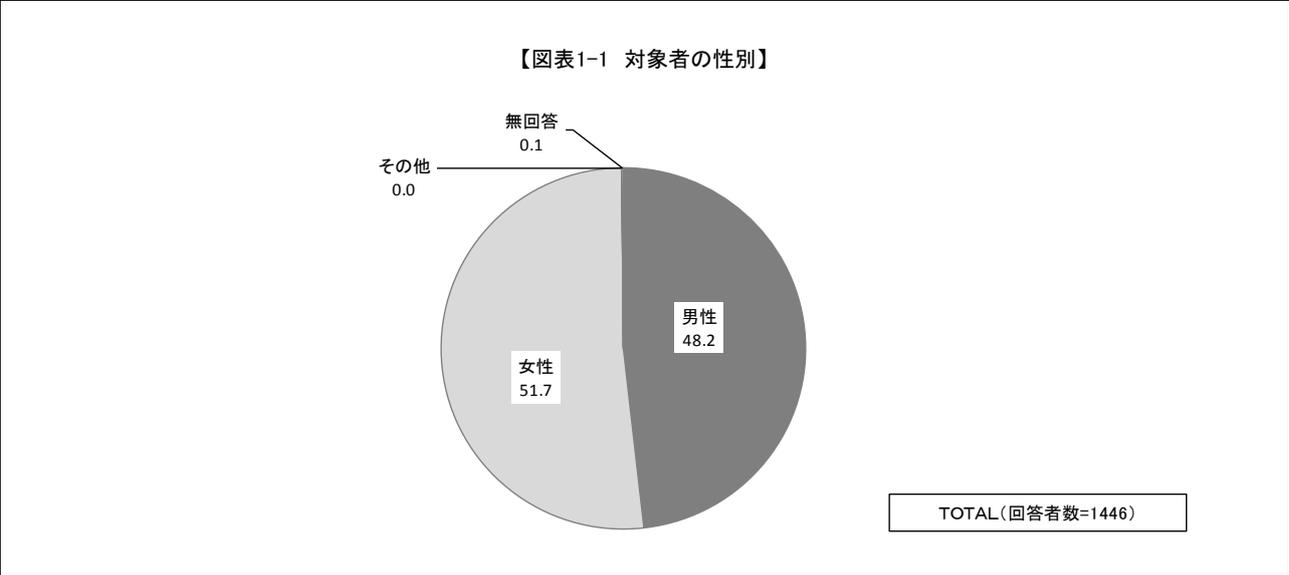
面接調査に協力してもよいかどうかたずねたところ、「協力してもよい」が“一般群”では10.0%、“ひきこもり群”では12.5%に対し、“ひきこもり親和群”では22.9%と高くなっています。

第 3 章 家族用調査結果

1. 対象者の基本属性

(1) 対象者の性別〔問1〕

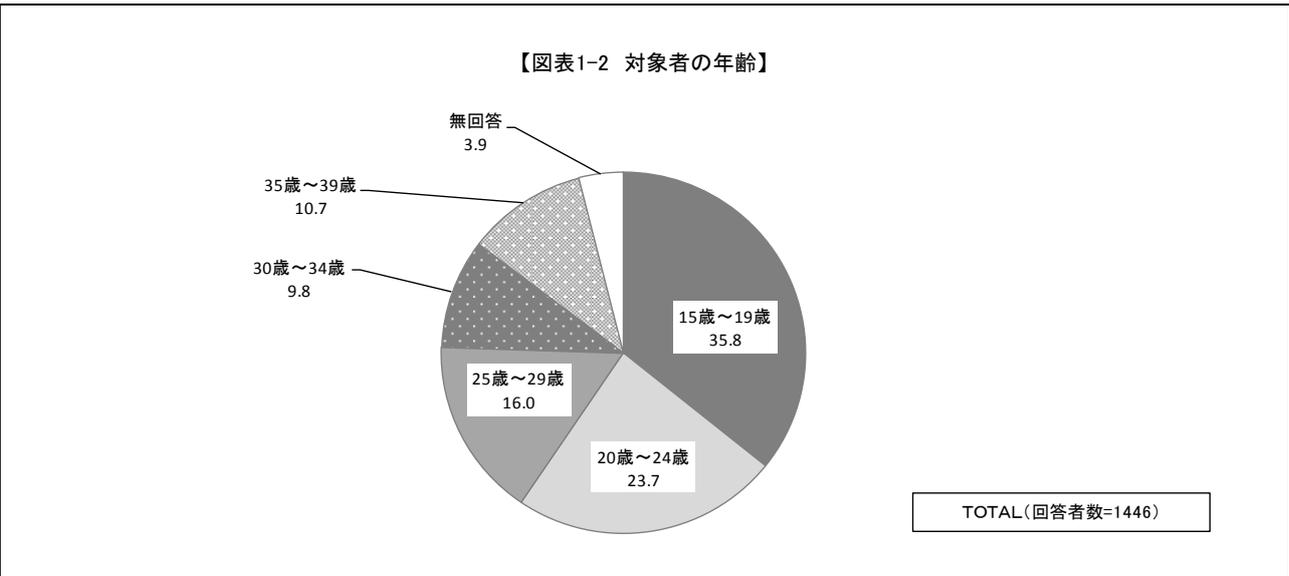
問1. 対象者の性別をお答えください（○はひとつ）



対象者の性別構成としては、「男性」48.2%に対し、「女性」51.7%となっています。

(2) 対象者の年齢〔問2〕

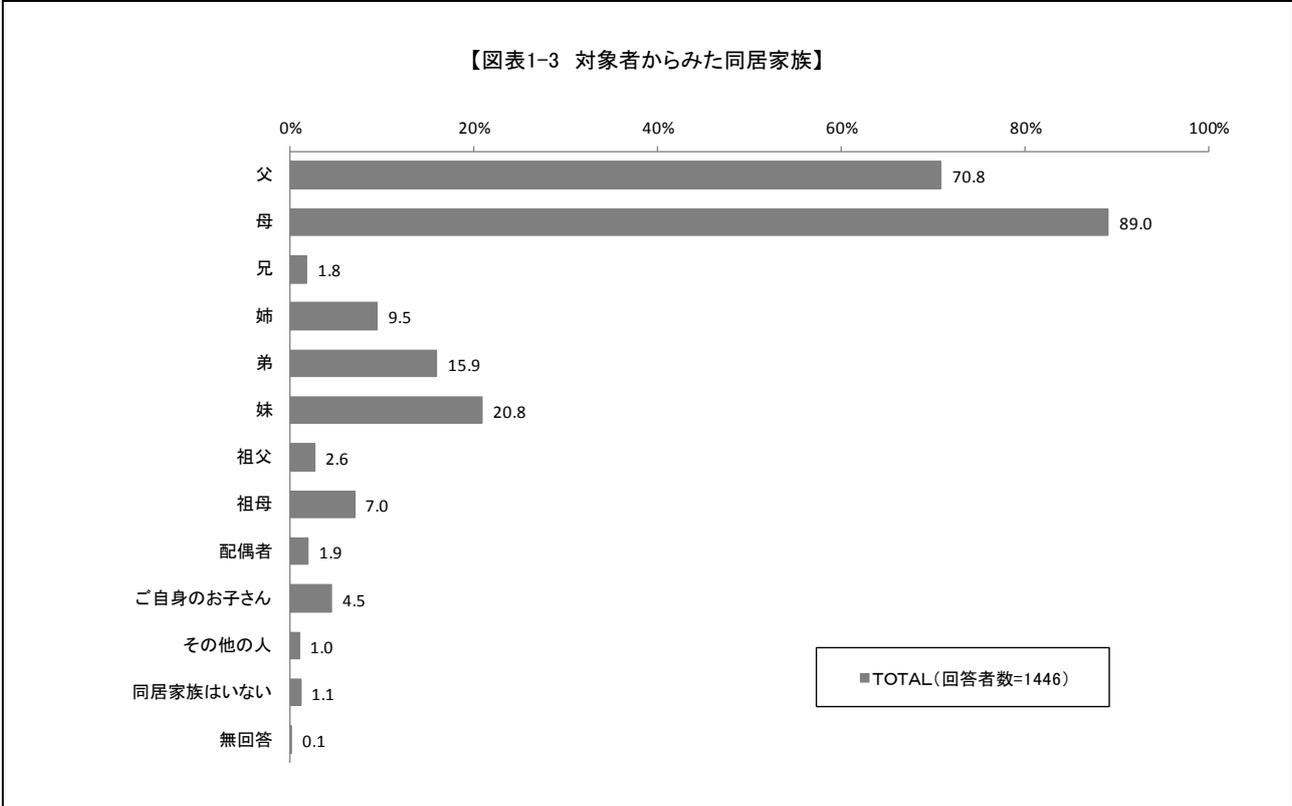
問2. 対象者の年齢をお答えください（○はひとつ）



対象者の年齢構成としては、「15歳～19歳」が35.8%と最も多く、次いで「20歳～24歳」23.7%、「25歳～29歳」16.0%、「35歳～39歳」10.7%、「30歳～34歳」9.8%の順となっています。

(3) 対象者からみた同居家族〔問3〕

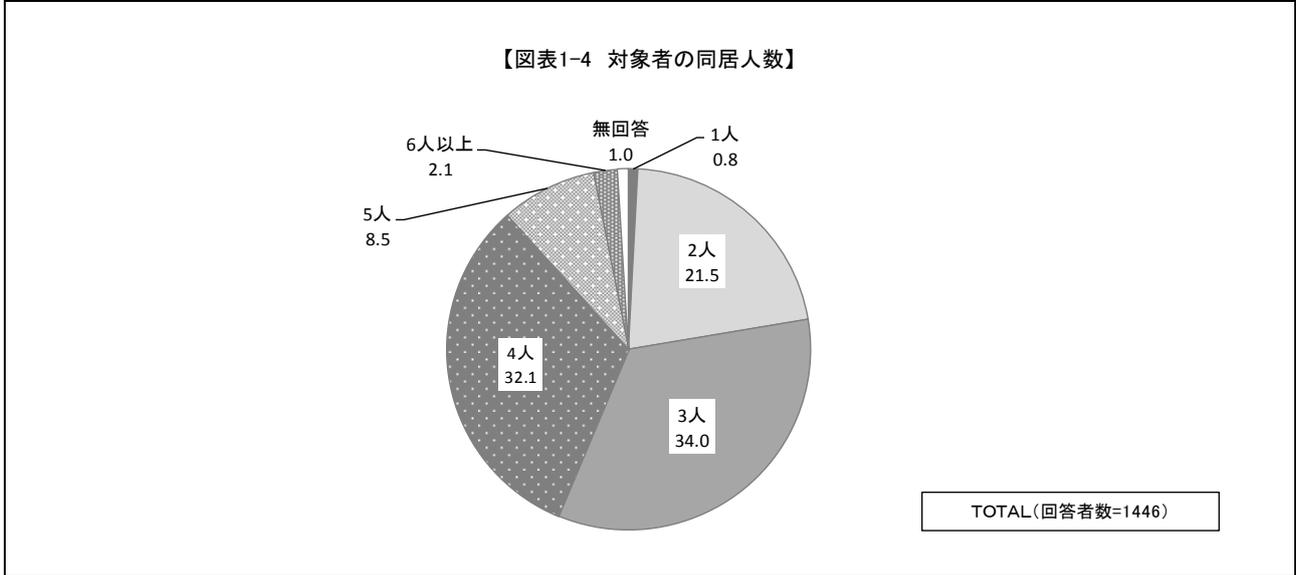
問3. 現在対象者と同居している対象者の方から見たご家族はどなたですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)



対象者からみた同居家族としては、「父」70.8%、「母」89.0%と親と同居している場合が多く占めています。

(4) 対象者の同居人数〔問4〕

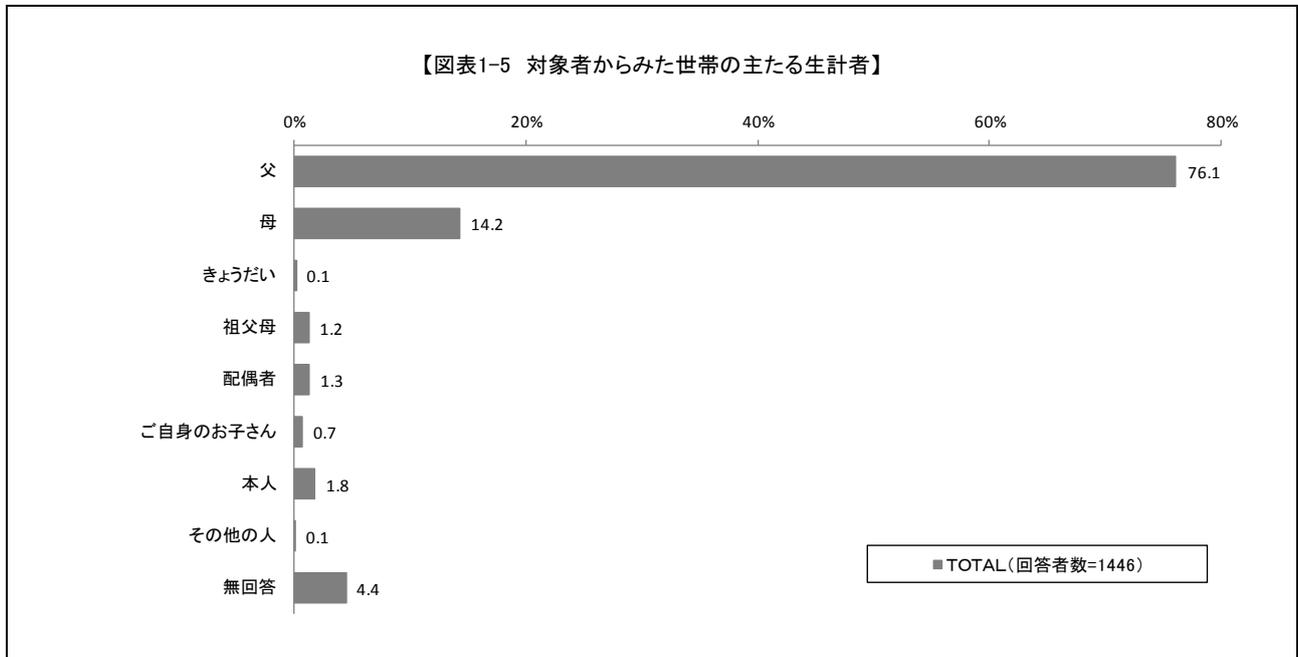
問4. 現在同居している人は合計で何人ですか。対象者の方も含めた人数をご記入してください。(数字で具体的に)



同居人数としては、「3人」が34.0%と最も多く、次いで「4人」32.1%、「2人」21.5%の順となっています。

(5) 対象者からみた世帯の主たる生計者〔問5〕

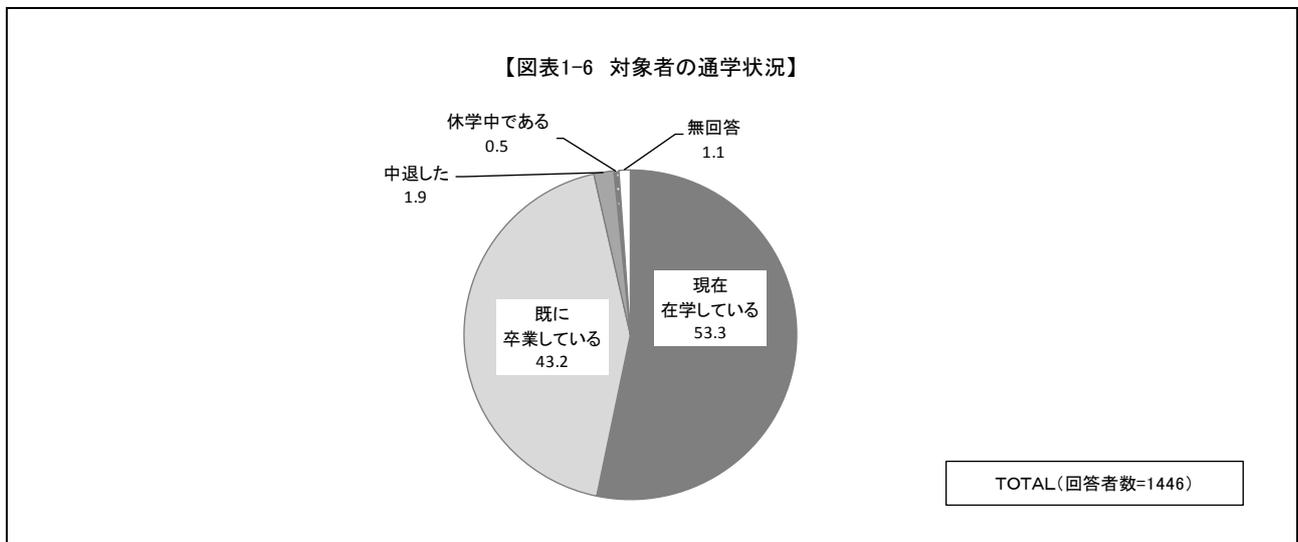
問5. 対象者の方の家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(〇はひとつだけ)



対象者からみた世帯の主たる生計者をたずねたところ、「父」が76.1%と最も多くなっています。

(6) 対象者の通学状況〔問6〕

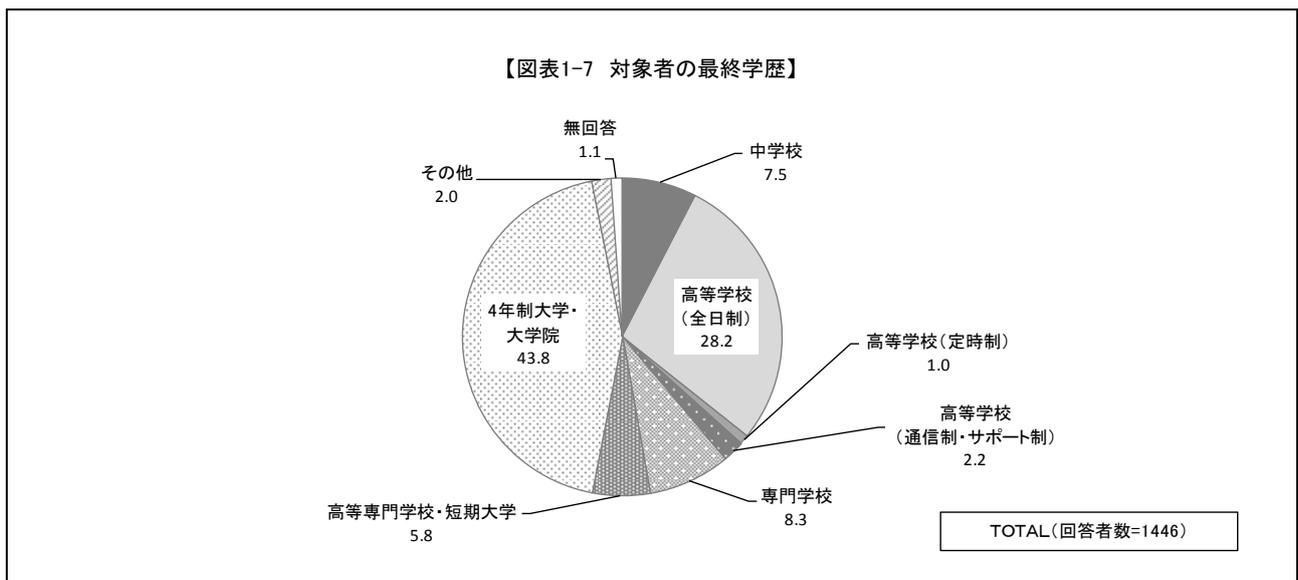
問6. 対象者の方は現在学校に通っていますか。(○はひとつだけ)



対象者の現在の通学状況をたずねたところ、「現在在学している」が53.3%と最も多く、次いで「既に卒業している」43.2%の順となっています。

(7) 対象者の最終学歴〔問7〕

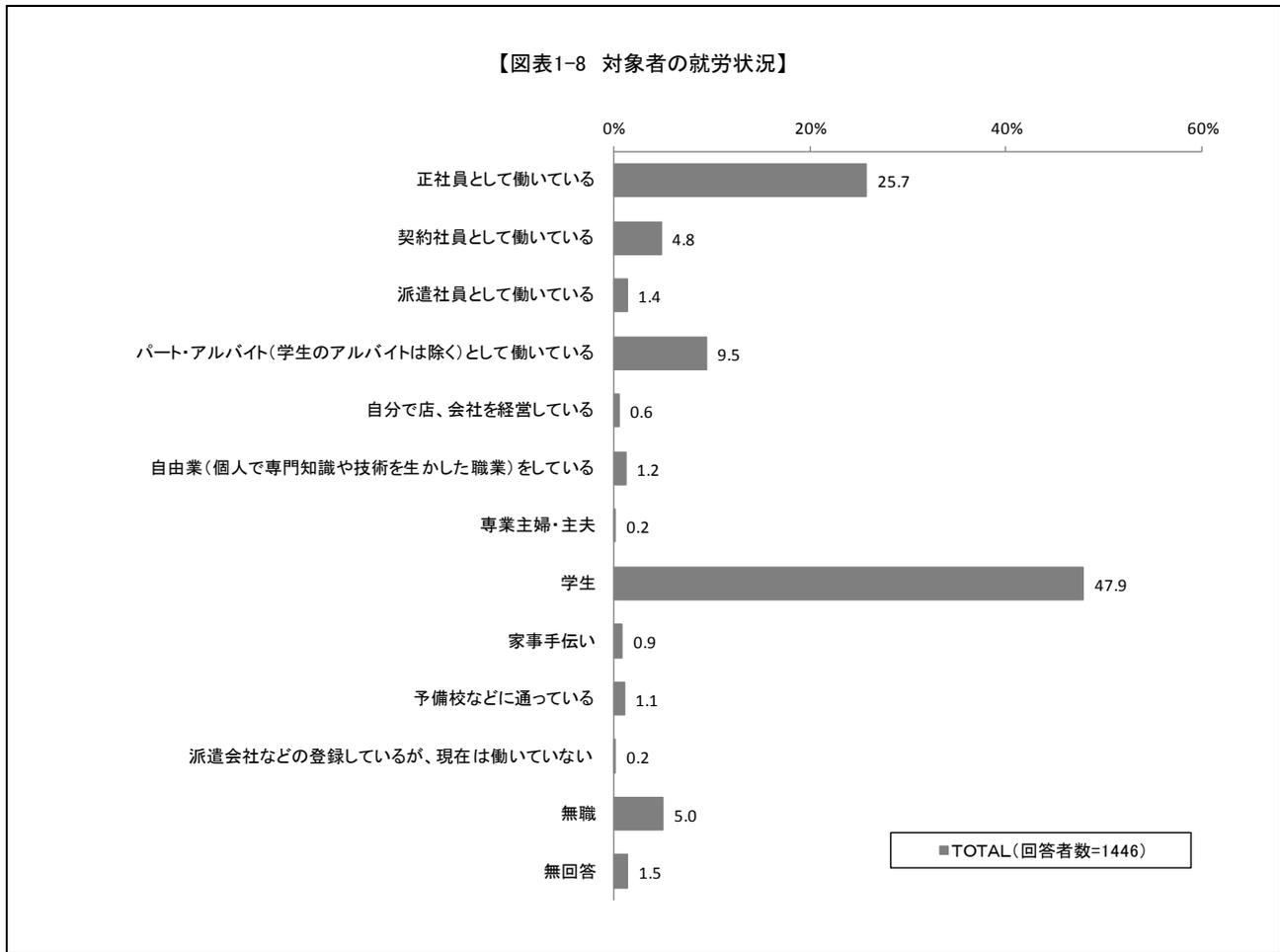
問7. 対象者の方が最後に卒業（中退を含む）した、また現在在学している学校はどれですか。(○はひとつだけ)



対象者の最終学歴（在学中含む）をたずねたところ、「4年制大学・大学院」が43.8%と最も多く、次いで「高等学校（全日制）」28.2%の順となっています。

(8) 対象者の就労状況〔問8〕

問8. 対象者の方は現在働いていますか。(○はひとつだけ)



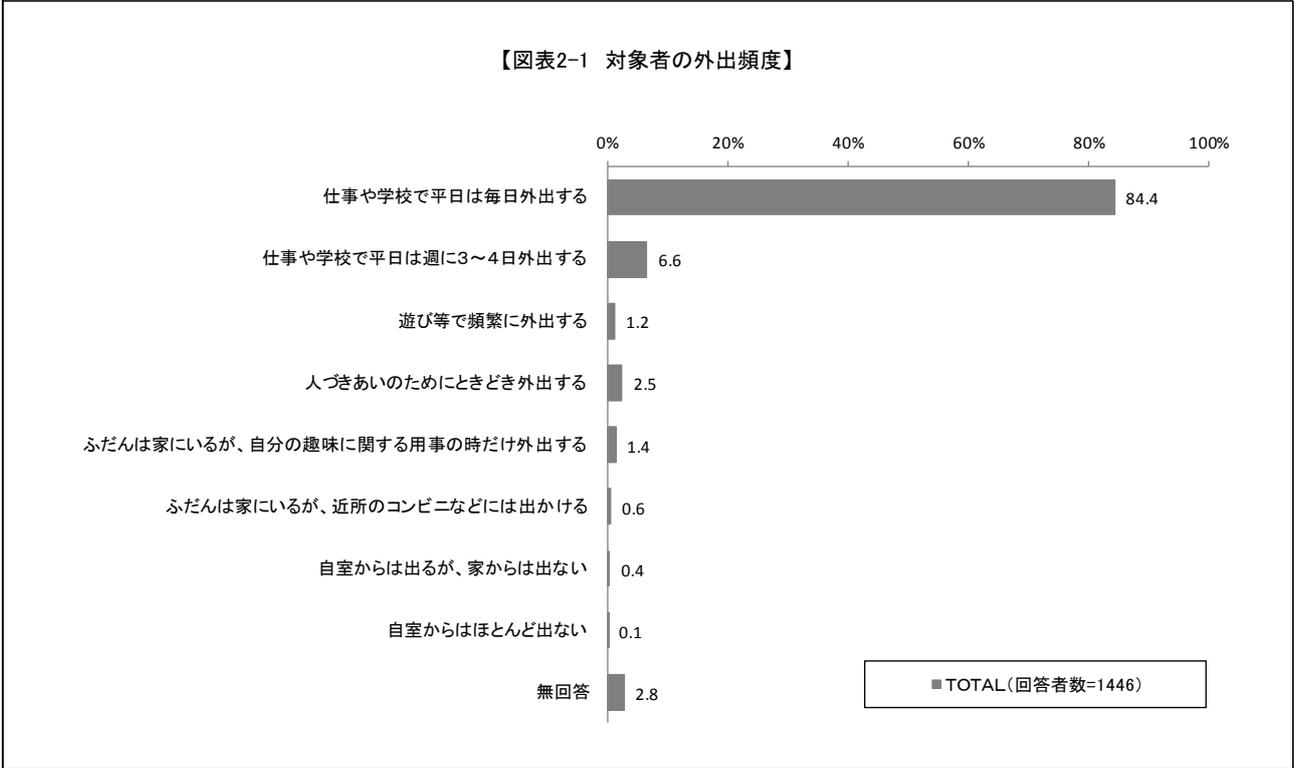
対象者の現在の就労状況をたずねたところ、「学生」が47.9%と最も多く、次いで「正社員として働いている」25.7%の順となっています。

一方、「無職」は5.0%となっています。

2. 対象者のひきこもりの状態について

(1) 対象者の外出頻度〔問9〕

問9. 対象者の方はふだんどのくらい外出されていますか。(○はひとつだけ)



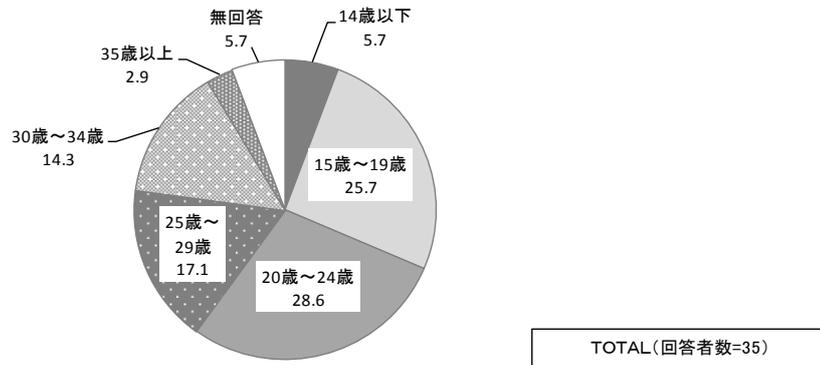
対象者がふだんどのくらい外出するかをたずねたところ、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が84.4%と最も多くなっています。

(2) 対象者が現在の状態になった年齢〔問10〕

【問9で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問10. 現在の状態になったのは、対象者の方が何歳のころですか。(数字で具体的に)

【図表2-2 対象者が現在の状態になった年齢】



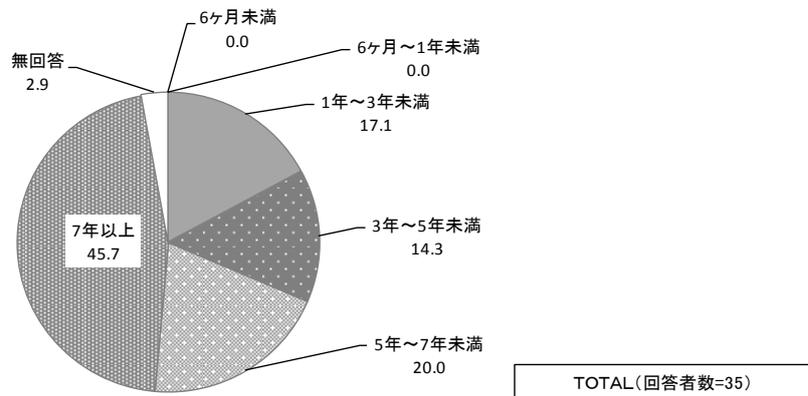
対象者が現在の状態になったのは何歳の頃かたずねたところ、「20歳～24歳」が28.6%と最も多く、次いで「15歳～19歳」25.7%、「25歳～29歳」17.1%の順となっています。

(3) 対象者が現在の状態になってからの期間〔問11〕

【問9で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問11. 対象者の方が現在の状態になって、どのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ)

【図表2-3 対象者が現在の状態になってからの期間】



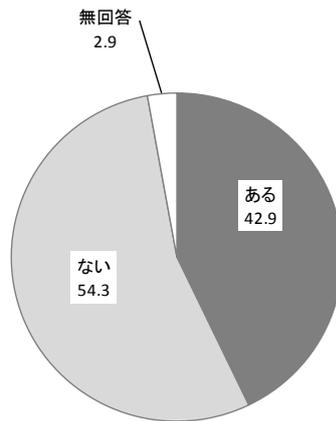
対象者が現在の状態になってからの期間をたずねたところ、「7年以上」が45.7%と最も多く、次いで、「5年～7年未満」20.0%の順となっています。

(4) 対象者が現在の状態について関係機関への相談意向〔問12〕

【問9で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問12. 現在の状況について、対象者の方が関係機関に相談したことはありますか。(○はひとつだけ)

【図表2-4 対象者が現在の状態について関係機関への相談意向】



TOTAL(回答者数=35)

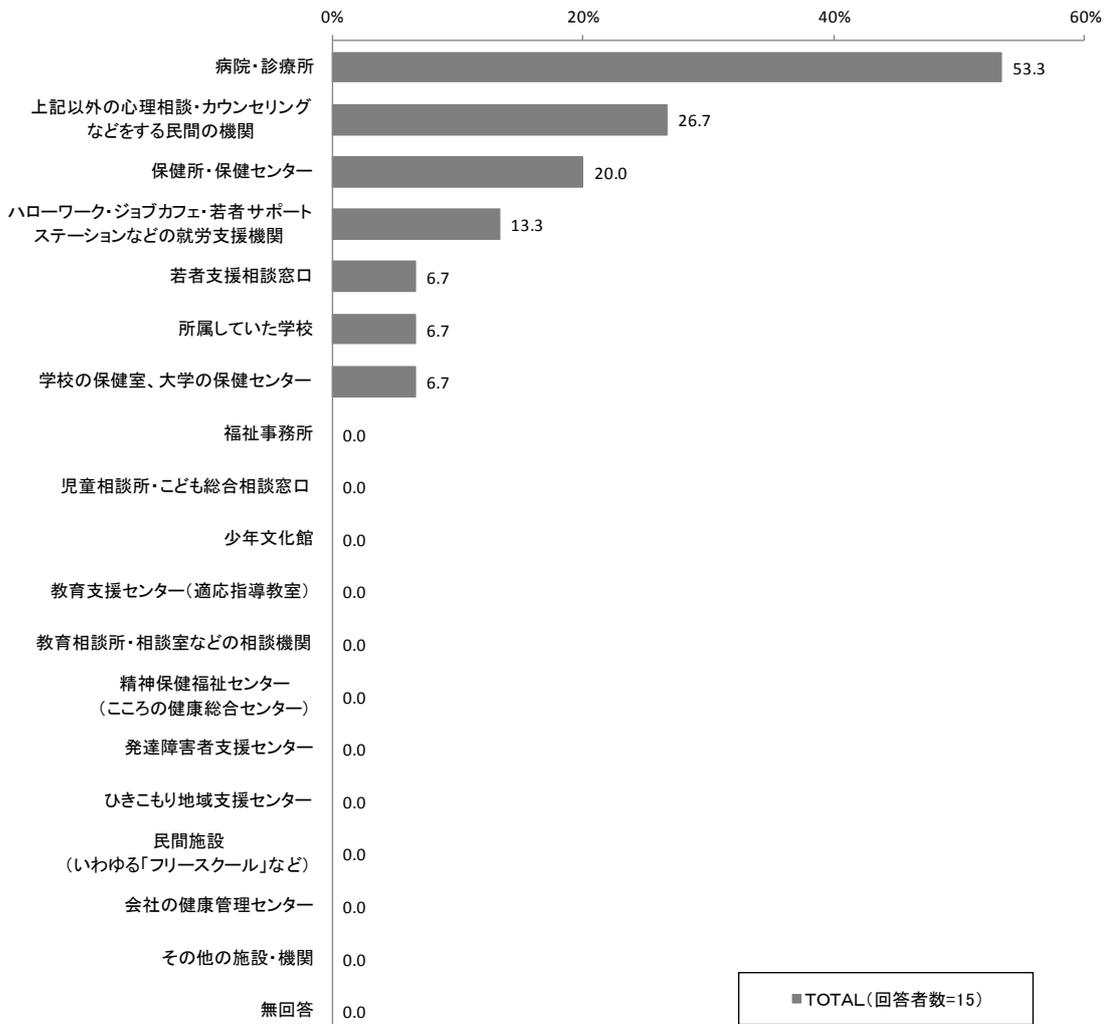
対象者が現在の状態について関係機関に相談したことがあるかたずねたところ、「ある」が42.9%、「ない」が54.3%となっています。

(5) 対象者が相談した関係機関〔問13〕

【問12で「1」とお答えになった方のみお聞きします】

問13. どのような相談機関に相談しましたか。相談したことがある機関について、あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

【図表2-5 対象者が相談した関係機関】



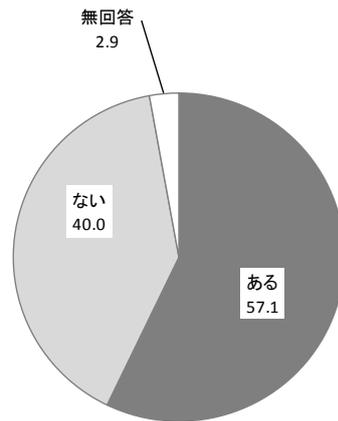
前問(問12)で「1.ある」と回答した人(15人)に、相談したことがある機関についてたずねたところ、「病院・診療所」が53.3%と最も多く、次いで、「上記以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関」26.7%、「保健所・保健センター」20.0%の順となっています。

(6) 家族が現在の状態について関係機関への相談意向〔問14〕

【問9で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問14. 現在の状況について、対象者のご家族の方が関係機関に相談したことはありますか。(〇はひとつだけ)

【図表2-6 家族が現在の状態について関係機関への相談意向】

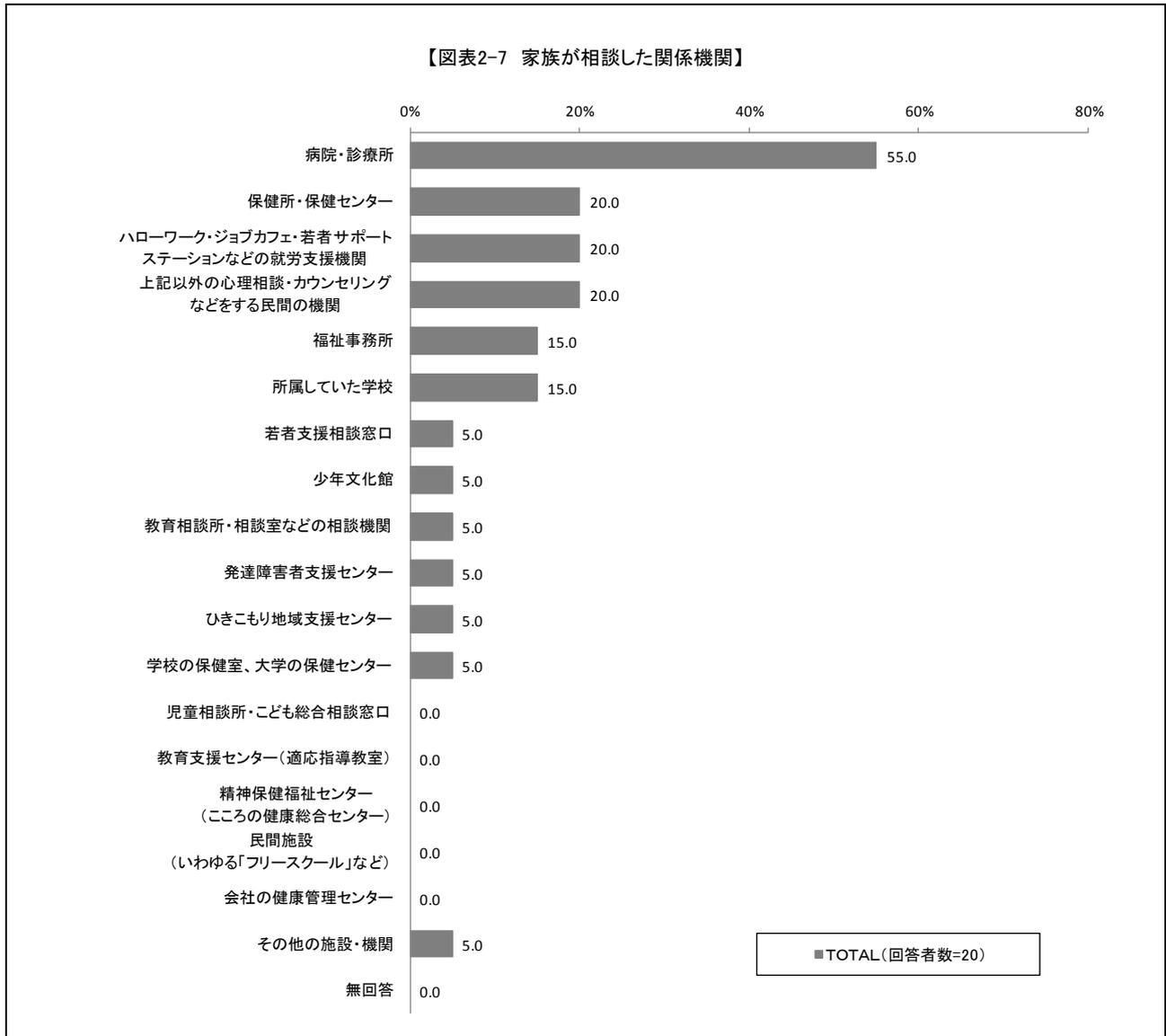


対象者の家族が現在の状態について関係機関に相談したことがあるかたずねたところ、「ある」が 57.1%、「ない」が 40.0%となっています。

(7) 家族が相談した関係機関〔問15〕

【問14で「1」とお答えになった方のみお聞きします】

問15. どのような相談機関に相談しましたか。相談したことがある機関について、あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)



現在の状態について、家族が相談したことがある機関をたずねたところ、「病院・診療所」が 55.0%と最も多く、次いで、「保健所・保健センター」、「ハローワーク・ジョブカフェ・若者サポートステーションなどの就労支援機関」、「上記以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関」がともに 20.0%の順となっています。

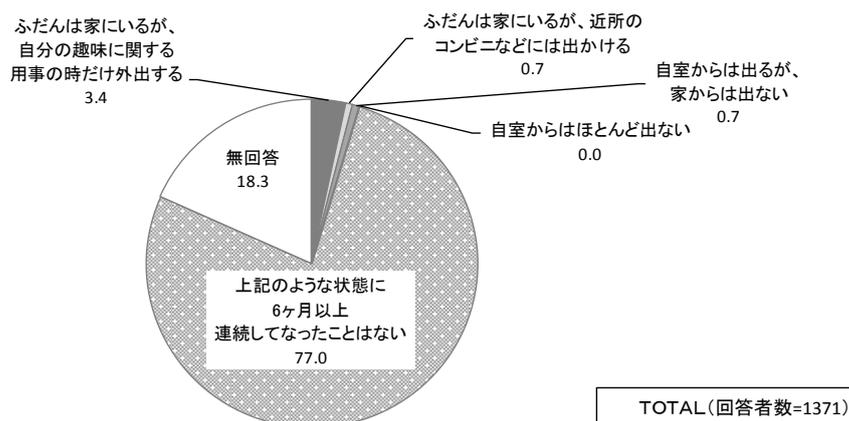
3. 対象者の過去の生活について

(1) 対象者の過去の外出頻度〔問16〕

【問9で「1」～「4」とお答えになった方のみお聞きします】

問16. 対象者の方は今までに6ヶ月以上連続して、以下のような状況になったことはありますか。(○はひとつだけ)

【図表3-1 対象者の過去の外出頻度】



対象者の過去6ヶ月以上連続しての外出頻度についてたずねたところ、「上記のような状態に6ヶ月以上連続してなったことはない」が77.0%と最も多くなっています。

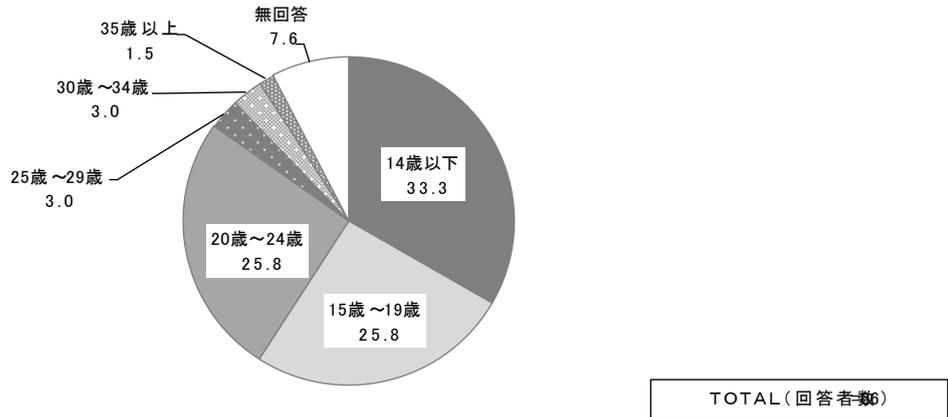
一方、『上記のような状況に6ヶ月以上連続してなったことがある』（「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室からはほとんど出ない」の合算）で4.8%となっています。

(2) 対象者の過去の状態になった年齢〔問17〕

【問16で「1」～「4」とお答えになった方のみお聞きします】

問17. その状態になったのは、対象者の方が何歳のころですか。(数字で具体的に)

【図表3-2 対象者の過去の状態になった年齢】



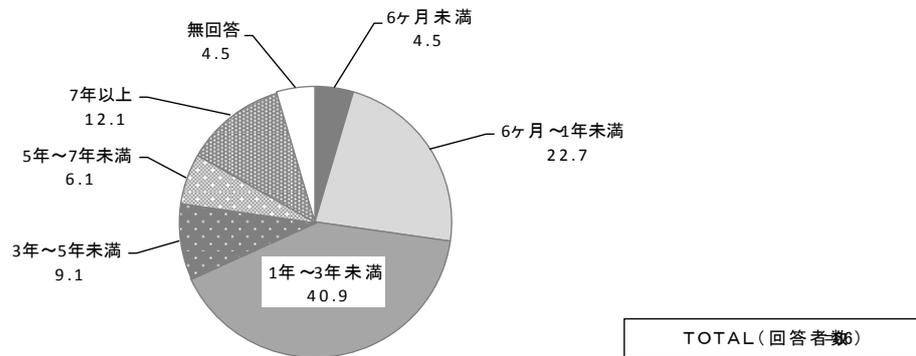
対象者がその状態になったのは何歳の頃かたずねたところ、「14歳以下」が33.3%と最も多く、次いで、「15歳～19歳」、「20歳～24歳」がともに25.8%の順となっています。

(3) 対象者の過去の状態になってからの期間〔問18〕

【問16で「1」～「4」とお答えになった方のみお聞きします】

問18. 対象者の方がその状態になって、どのくらい続きましたか。(〇はひとつだけ)

【図表3-3 対象者の過去の状態になってからの期間】



対象者がその状態になってからの期間をたずねたところ、「1年～3年未満」40.9%と最も多く、次いで「6ヶ月～1年未満」22.7%、「3年～5年未満」9.1%の順となっています。

4. 支援のあり方

問19. 現在豊中市では、身体の病気以外の理由でふだん外出ができない方たちへの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば、ご自由にお書きください。

記述概要	件数
カウンセリングや相談の実施に関するご意見	40
支援に関する情報の提供や広報の充実に関するご意見	26
家族へのサポートや支援の実施に関するご意見	26
地域や民間団体、NPO、教育機関、ボランティアと連携した支援の実施、継続したサポートのできる体制づくりに関するご意見	25
働く場所やサークルなどの活動する場所、意見交換や交流の場となる居場所に関するご意見	71
訪問や声かけなどの見守り実施に関するご意見	16
支援やサポートの必要性、行政（市）が実施するに関するご意見	50
フリースクール等の設置に関するご意見	11
財源の確保や行政支援の範囲に関するご意見	7
本人の意欲に関するご意見	5
不公平にならない程度の支援	5
親への教育の実施	6
支援が必要である、賛成する	32
その他	72
計	393

第4章 まとめと課題

まとめと課題

「若い世代の生活に関する調査」の結果に対するコメント

京都女子大学 岩槻知也

本調査は、若者世代を対象とした「本人用調査」とその家族を対象とした「家族用調査」で構成されているが、本稿では主として「本人用調査」の結果について簡単なコメントを加えてみたい。この「本人用調査」は、かなり多様な質問項目から構成されているが、ここではその内容に沿って、①基本属性、②学校・家庭での経験、③就労の経験、④ふだんの生活、⑤ふだんの意識や態度、の5点に関してコメントを加える。

1. 基本属性

まず性別（問1）についてみてみよう。本調査では、「一般群」に比して「ひきこもり群」「ひきこもり親和群（以下「親和群」と略記する）」で女性の比率が若干高くなっている。ちなみに、2016（平成28）年9月に発表された内閣府による「若者の生活に関する調査」（2015年12月実施）の結果をみると、「広義のひきこもり群」（49人）が男性63.3%・女性36.7%、「親和群」（150人）が男性40.7%・女性59.3%、「一般群」（2,905人）が男性48.0%・女性52.0%となっている。この内閣府調査における関連する設問の選択肢は、今回の豊中市調査のものとほぼ同じであり、「ひきこもり群」（内閣府調査では「広義のひきこもり群」）「親和群」「一般群」の定義も、ほぼ同一と考えて差し支えない。「ひきこもり群」の実数値が小さいことには留意すべきだとしても、全国的には男性の比率がかなり高いのに対して、豊中市では女性の比率が高くなっているのである。この要因については、今回の調査における「ひきこもり群」の女性の年齢構成等、さらに詳細な分析を進める必要があるだろう。

また年齢（問2）については「ひきこもり群」に比較的年齢の高い人が多くなっているが、この結果から推測されるのは、ひきこもり状態の長期化である（これについては後に触れる）。また同居人数（問4）については「ひきこもり群」に比較的少人数の人が多く、世帯の主たる生計者（問5）についても「ひきこもり群」で「母」と回答した人が比較的多かった（逆に「父」と回答した人は比較的少なかった）。つまり、年齢や同居人数、世帯の主たる生計者といった属性の特徴については、「ひきこもり群」が他の群と異なる傾向を示しているのである。

さらに入院・通院経験のある病気（問6）についてみると、「ひきこもり群」「親和群」で「精神的な病気」の比率が「一般群」に比してかなり高く、特に「ひきこもり群」にその傾向が顕著となっている。後の質問項目とも関連するので、その際に改めて詳述するが、このような「精神的な病気」が「ひきこもり群」や「親和群」の若者の生きづらさと強い関連を持っていることは想像に難くない。

2. 学校・家庭での経験

通学状況（問7）については「ひきこもり群」で既卒者の比率がきわめて高いが、これはこの群の年齢階層が比較的高いことに起因すると考えられる。ただし「ひきこもり群」「親和群」については、中退者の比率が高いことにも留意が必要である。また最終学歴（問8）については、「ひきこもり群」で「4年制大学・大学院」の比率が他の群に比してかなり低く、逆に「高等学校（通信制・サポート制）」の比率がかなり高くなっている。この結果は、自学自習を基本とし、自分のペースで学習を進めることのできる通信制高校や通信制サポート校の存在が、「ひきこもり群」のような状況にある若者にとってきわめて重要であることを示唆している。

次に学校での経験（問9）についてみてみよう。全般的な傾向として「ひきこもり群」「親和群」と「一般群」の比率の間に大きな違いがあるが、項目によっては「ひきこもり群」と「親和群」の間にかかなりの違いがみられるものもある。例えば「学校の勉強についていけなかった」「学校の先生との関係がうまくいかなかった」「不登校を経験した」などの項目では「ひきこもり群」「親和群」の比率が「一般群」の比率よりかなり高くなっているが、「友達とよく話した」「学校の先生や友達に褒められたことがある」などの項目では「親和群」の比率のほうが「ひきこもり群」よりかなり高く、「一般群」の比率に迫っている。つまり「親和群」の若者のほうが「ひきこもり群」の若者に比して、友だちとの会話の頻度も多く、先生や友達に「褒められる」という肯定的な経験をしたと感じているのである。一方で「親和群」について注目されるのは、「友達といるよりも一人で遊んでいる方が楽しかった」「友達にいじめられた」「我慢することが多かった」の比率が、他の2群より突出して高いことである。友達とはよく会話をするし、先生や友達に褒められたりもしているが、実はそのような関係の中で、いじめられていたり我慢していることも多く、一人で遊んでいる方が楽しかった…上記の結果からは、このような「親和群」の若者の複雑な心境を読み取ることができるかもしれない。

家庭での経験（問10）についても、先の学校での経験と同様、全般的な傾向として「ひきこもり群」「親和群」と「一般群」の比率の間に大きな違いがある。特に「我慢することが多かった」「両親の関係がよくなかった」「家族に相談してもあまり役に立たなかった」「親と自分との関係がよくなかった」の項目で「ひきこもり群」「親和群」の比率が「一般群」に比してかなり高く、「ひきこもり群」「親和群」の若者が親や家族との関係で困難な状況を抱えている様子がうかがえる。さらに「困ったときは、親が親身に助言をしてくれた」「親とは何でも話すことができた」等の、親との肯定的な関係を示す項目で「ひきこもり群」「親和群」の比率が「一般群」に比してかなり低いこと、また全体的な比率は低い「親が過干渉であった」「親が過保護であった」の項目でも「ひきこもり群」「親和群」の比率が比較的高いことなどから、これらの若者が抱えてきた親との難しい関係の一端を推測することができる。他方、学校での経験に関する調査結果と同様に「親から褒められたことがある」「小さいころから習い事やスポーツ活動に参加していた」などの肯定的な項目で、「親和群」のほうが「ひきこもり群」に比してかなり高い比率を示しているのも特徴的である。

3. 就労の経験

まず就労状況（問 11）については「ひきこもり群」の特徴が顕著で、「無職」の比率が圧倒的に高い。「親和群」「一般群」については、その年齢層が若いこともあってか、学生の比率がかなり高いうえに、正社員として勤務している比率も比較的高い。また就職・進学希望については、母数の少ないことに留意は必要であるが、「ひきこもり群」の約半数が就職も進学も希望していない。

次に職業観（問 16）についてみると、設問に列挙されている4つの意見について、「ひきこもり群」と「親和群」の回答傾向にいくつかの特徴を見出すことができる。まず「ひきこもり群」について、「いつかは必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う」では肯定的な回答の比率がかなり低いのに対して、「いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい」ではその比率がかなり高くなっている。自分にふさわしい仕事が見つかるとは思えないが、自分の夢を実現させるための仕事には就きたいという希望を、比較的多くの「ひきこもり群」の若者が抱いているのである（この傾向は「親和群」についても、かなりあてはまる）。また注目をひくのは「仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない」「定職に就かない方が自由でいいと思う」という意見に対して、「ひきこもり群」で否定的な回答が比較的多いことである。これらの結果から、現実の就職では困難な状況にありながら、仕事への思いは決して弱くないといった「ひきこもり群」の若者の就労に関する心理的葛藤が想像される。一方「親和群」に関して特徴的なのは、「仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない」の肯定的な回答の比率が「ひきこもり群」に比してかなり高いことである。このような結果に至った要因を特定することは難しいが、例えば「親和群」には実際に正社員として勤務している若者も含まれているため、現実の仕事の厳しさを経験した者が「できることならば仕事はしたくない」との回答を行ったと考えることもできるだろう。

4. ふだんの生活

ふだんの自宅での過ごし方（問 17）については、全般的に「インターネットをする」の比率がかなり高いが、特に「ひきこもり群」「親和群」の比率が「一般群」に比して若干高い。また「ひきこもり群」で「本を読む」「ラジオを聴く」の比率が比較的高いのに対して、「親和群」では「ゲームをする」「横になってくつろいでいる」の比率がかなり高い。これらの結果には、両グループの回答者の年齢構成が影響している可能性がある。またふだん利用する通信手段（問 18）についても、「スマートフォンでのメールや通話」では「親和群」「一般群」の比率のほうが「ひきこもり群」よりかなり高く、逆に「携帯電話での通話」「あてはまるものはない」で「ひきこもり群」のほうが高くなっており、ここにも各グループの回答者の年齢構成の影響が見て取れる。さらに、ふだん使用するインターネット上のコミュニケーションサービス（問 19）についてみると、「チャットまたはメッセージ」で「ひきこもり群」が他の2群よりかなり低い比率となっており、「ツイッター」や「オンラインゲーム」では「親和群」の比率が群を抜いて高い。加えて「コミュニケーションサービスを利用していない」の項目で「ひきこもり群」の回答率が他の

群に比してかなり高いことも特徴的である。総じて「ひきこもり群」の若者の電子メディア上の情報環境は、他の群に比してかなり貧弱であると言えそうである。

外出頻度（問 20）については、「親和群」「一般群」の多くが「仕事や学校で平日は毎日外出する」のに対し、「ひきこもり群」では回答者全員が「ふだんは家にいる」状態にあり、その約 4 割が全く外出しないと回答している。ひきこもり状態になった年齢（問 21）については、10 代後半から 20 代前半が圧倒的に多く、また全体の半数近くが「7 年以上」ひきこもっている（問 22）。冒頭にも述べたように、このようなひきこもり状態の長期化が「ひきこもり層」の高齢化の一因となっていることは間違いないであろう。

「ひきこもり群」の若者の関係機関への相談意向（問 24）については、半数近くが「相談したいと思わない」と回答している。さらに、相談する際の希望（問 25）については「親身に聴いてくれる」「カウンセラーがいる」「精神科医がいる」の比率が上位を占めているものの、「あてはまるものはない」「どのような機関にも相談したくない」の比率もかなり高い。一方で、現実には「ひきこもり群」の 7 割近くが関係機関に相談した経験を持っており（問 27）、そのような機関の多くが「病院・診療所」となっている（問 28）。実際に関係機関に相談した経験を持つ「ひきこもり群」の回答者の実数が小さいので一般化することはできないにしても、選択肢にある「就労支援機関」や「若者支援相談窓口」につながった若者が極めて少ないことには留意が必要である。

5. ふだんの意識や態度

ふだんの意識や態度について、本調査では実に様々な質問が多数なされている（問 33～39）。ここでは、それらの回答結果が示しているいくつかの特徴について簡潔に整理してコメントする。

まず問 33 については、その特徴を以下の 4 点に絞って考えてみたい。第一のポイントとして挙げられるのは、「ひきこもり群」「親和群」の若者の「自分が他人からどのように見られているか」ということに対する意識や感覚が非常に鋭敏だということである。過剰なまでに敏感だと言ってもいいかもしれない。自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われるとひどく動揺する、馬鹿にされ軽く扱われはしないかと不安になる、自分が変な人に思われていないかが気になる、間違いや欠点を指摘されると憂鬱な気分が続く等の項目で「ひきこもり群」「親和群」の肯定的な回答の比率が「一般群」に比してかなり高いのである。また第二は、上記のような意識とも関連していると思われるが、「ひきこもり群」「親和群」の若者が他人とのつきあい方に様々な困難を抱えているということである。初対面の人とすぐに会話できる自信がない、人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む、自分の感情を表に出すのが苦手、他人とのもめごとをどう解決したらいいのかわからないといった感覚を持つ一方で、自分の生活のことで他人から干渉されたくないという意識が強い等、彼・彼女らの他人とのつきあいに関する複雑な心境が調査の結果を通して見えてくる。第三に目を引くのは「ひきこもり群」「親和群」の若者の親や教師との関係である。回答結果からは、大事なことを自分ひとりで決めてしまうのが不安でありながら、親や教師の言うことには従わなくても不安を感じない、たとえ親であっても自分のやりたいこと

に口出ししないしてほしいといった、親や教師に対する否定的、拒否的な意識が読み取れる。さらに第四のポイントとして「ひきこもること」への共感的な心情が挙げられる。家や自室に閉じこもっていて外に出ない人の気持ちがわかる、自分も閉じこもりたいと思うことがある、嫌な出来事があると外に出たくなくなる、理由があるなら閉じこもるのも仕方がないと思う等の項目で、「ひきこもり群」「親和群」の肯定的な回答の比率が高く、特に「親和群」では9割を超える回答率を示している。これらの結果が物語っているのは、「親和群」の若者がひきこもる手前ギリギリのところでは何とか留まっているという、かなり深刻な状況なのではないだろうか。

次に、問 34 についてみてみよう。まず顕著な特徴として挙げられるのが、ほとんどの項目で「ひきこもり群」「親和群」と「一般群」の回答率の間に、かなり大きな差があるということである。特に深刻なものとして注意しなければならないのが「生きるのが苦しいと感じることがある」「死んでしまいたいと思うことがある」「絶望的な気分になることがよくある」といった項目で、「ひきこもり群」「親和群」の回答率が極めて高いうえに、「一般群」との差も著しいという結果となっている。また全体の比率はさほど高くはないが、「暴言を吐いたり大声を挙げて怒鳴り散らすことがある」「リストカットなどの自傷行為をしてしまうことがある」「何らかの薬を飲まずにはいられないことがある」等の項目では「ひきこもり群」の比率が他の2群に比してかなり高く、「他人が自分をどのように思っているのかとても不安である」「ゲームやギャンブルがやめられない」の項目で「親和群」の比率が他の2群に比してかなり高い。

問 35 では、生活習慣や人との会話に関すること、自分のおかれている状況に対する認識等が問われている。まず「食事や掃除は親まかせである」に肯定的な回答をした比率が比較的高かったのが「親和群」「一般群」で、特に「親和群」では半数を超えているのに対し、「ひきこもり群」の比率がかなり低かった。これも「ひきこもり群」の年齢層が高いことと何らかの関係があるかもしれない。また「ひきこもり群」の特徴として、「朝、決まった時間に起きられる」では肯定的な回答がかなり低く、「昼夜逆転の生活をしている」では肯定的な回答が比較的高いということが挙げられる。ただ「深夜まで起きていることが多い」では「親和群」の比率が他の2群に比して圧倒的に高く、6割近くにも上る。この「親和群」の若者が朝、決まった時間に起きているとするならば、睡眠不足となっている可能性は高い。「人と会話をするのはわずらわしい」では「ひきこもり群」「親和群」で肯定的な回答の比率が比較的高いが、「誰とも口を利かずに過ごす日が多い」では「ひきこもり群」の肯定的な回答の比率が他に比してかなり高い。つまり「親和群」の若者は、人と会話することを煩わしいと感じながら、日々致し方なく会話しているということになるのだろう。加えて「自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある」「過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない」の項目でも「ひきこもり群」「親和群」に肯定的な回答をした人の比率が高く、さらに「自分の精神状態は健康ではないと思う」「自分の今の状態について考えることはよくある」においても「ひきこもり群」「親和群」の肯定的な回答の比率がかなり高くなっている。これは筆者の推測にすぎないが、ある意味でこれら「ひきこもり群」「親和群」の若者は、自分のおかれている状態に悩み苦しみながらも、

一歩引いた視点でその状態について考えることができる冷静な視点も持ち合わせているのかもしれない。

問 36～39 では、家族に対する考えや悩みごとの相談に関すること、また若者支援に関する機関・事業の認知状況が問われている。家族に対する考えについては、「あてはまるものはない」以外のすべての項目で家族に対する肯定的な考え方が表現されているが、それらいずれの項目においても「ひきこもり群」「親和群」の回答率が低く、とりわけ「ひきこもり群」で著しく低い。つまり、この結果には「ひきこもり群」「親和群」の若者の家族に対する否定的な感情が如実に表れているのである。また悩みごとの相談については、「ひきこもり群」「親和群」の若者に強い希望を持つ者が比較的多い。実際の相談相手としては、「ひきこもり群」で親、カウンセラー・精神科医、自治体の専門機関の職員の比率が比較的高く、「一般群」で友人・知人、親の比率が高くなっている。一方「誰にも相談しない」の比率が「ひきこもり群」「親和群」で高く、特に「親和群」でかなり高くなっているのが特徴的である。最後に若者支援に関する機関・事業の認知状況であるが、まず注目されるのは、「無回答」の比率がすべてのグループでかなり高い数値を示しているということである。この結果をどう解釈するかは難しいところであるが、当該の機関や事業に対する関心がなく、関連の知識や情報も持っていないという回答者の状況が推測される。一方で「青年の家いぶき」「女性のための相談室」の認知度が、すべてのグループで比較的高いというのは注目すべきことである。これは、上記施設によるこれまでの様々な取り組みの成果として捉えることができるであろう。

6. 調査結果から見えてきた今後の課題

以上が「本人用調査」の結果に関するコメントであるが、ここでは最後に、これまでの記述を踏まえ、本調査の結果から見えてきた今後の課題について簡単に問題提起しておきたい。

まず第一に、今回の調査では、若者のひきこもりの状態にある期間の長期化と「高齢化」の問題が明らかになった。基本属性に関する結果にもあったように、ひきこもりの若者が暮らす家庭が比較的小規模であり、世帯の主たる生計者が「母」であることが多いという状況を考えると、ひきこもりの状態が長期化した場合、若者自身はもちろんのこと、その家庭全体に大きな負担がかかり、その疲弊が進行していくことが予想される。したがって、すでに取り組まれていることもあろうかと思われるが、このようなひきこもり状態にある若者の支援を考える際には、当事者の若者だけでなく、その家族全体を視野に入れた支援を進めていく必要があるだろう。

また、ひきこもり状態の長期化に伴う若者の「高齢化」が、情報へのアクセスという点で、一つの障壁となっている可能性が示唆された。つまり、ひきこもり状態にある若者は、スマートフォンやインターネット上のコミュニケーションサービス等の比較的新しい情報ツールをあまり使用していないという実態が明らかになったのである。「ひきこもり群」のメディア接触の状況について、「本を読む」や「ラジオを聴く」の回答率が高かったことを踏まえれば、かえって紙媒体やラジオによる広報のほうが無効なものとなるかもしれ

ない。さらに、メディアによっても情報を提供できないときには、よりきめ細かな支援のあり方として、直接的な家庭訪問型の支援が検討されてもよいだろう。

さらに、メディアによっても情報を提供できないときには、よりきめ細かな支援のあり方として、直接的な家庭訪問型の支援が検討されてもよいだろう。

第二に重要だと思われるのは、「ひきこもり群」や「親和群」の若者が精神的、心理的に極めて繊細であり、人間関係の問題で数多くの困難を抱えているという現実である。その中でも特に深刻だと思われるのは、最も身近な存在である親や家族、そして教師との関係である。これも様々なところで指摘されてきたことではあろうが、本調査でもそのことが改めて明らかになったと言える。「ひきこもり群」の若者の「関係機関に相談する際の希望」を尋ねた設問で最も回答率が高かった項目が「親身に聴いてくれる」であったことを考えれば、これらの身近な大人や関係機関のスタッフが、まずは若者の思いをじっくりと聴く姿勢を培うことが強く求められるのではないだろうか。

第三に気づかされたのは、ひきこもりの状態にある若者の「仕事」に対する複雑な心境である。繰り返しになるが、本調査の結果から明らかになったのは、比較的多くの若者が「自分にふさわしい仕事が見つかるとは思えないが、自分の夢を実現させるための仕事には就きたい」という希望を抱いていることであった。就労支援の取り組みを進める際には、その大前提として、このような若者自身の思いを丁寧に聞き取り、すくい上げることこそが、まずもって重視されなければならないだろう。

さらに第四に取り上げたいのは、ひきこもりの状態にある若者の学習機会としての「通信制高校（通信制サポート校）」の重要性である。先にも述べたように、自学自習を基本とし、自分のペースで学習を進めることのできる、このような教育機会の整備は必要不可欠である。学齢期はもとより、学齢期を超えた若者の学び直しの機会を、通信制高校や夜間中学等の学校教育機関、そして学校外の社会教育機関でも早急に整備していくことが求められる。

最後に五点目として指摘しておきたいのは、「ひきこもり親和群」の若者に対する支援策の問題である。本調査の結果を見ていると、この「親和群」の若者は、ひきこもる手前ギリギリのところでは何とか留まっているという、かなり厳しい状況に置かれていることが推察される。本当はひきこもってしまいたいのに、必死で毎日学校や職場に通っているといった姿が思い浮かぶのである。ここで適切な支援策を明確に提示することはもちろんできないが、少なくとも実際にひきこもっている若者以外にも、このような「予備軍」の若者がかなり存在し、日々苦しい思いをしているという認識に立って、取り組みを進めていく必要があると思われる。

資料編

**若い世代の生活に関する調査
(本人用)
調査票**

若い世代の生活に関する調査(ご本人様用)

このたびはお忙しい中、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございます。

『若い世代の生活に関する調査』では、15歳から39歳の豊中市民の中から、無作為に5,000人を選び、ご本人とご家族の方を対象に、15歳から39歳の方々の日常生活の状況などについてお伺いするもので、調査結果は豊中市の今後の施策運営などの基礎資料とさせていただきます。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう全体を集計します。また、回答内容や個人情報が上記目的以外に使用されたり、外部に漏れたりすることはありません。

以下の注意事項をお読みいただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

【記入上のお願い】

- 1) この調査票には宛名のご本人がお答えいただけますようお願いいたします。
なお、ご記入にあたっては、ご家族、ご友人などに代筆していただいても結構です。
また、同居されているご家族の大人の方（親など）につきましては、別添「調査票（ご家族様用）」にお答えいただけますようお願いいたします。
- 2) ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆など、はっきりとわかる筆記用具をお使いください。
- 3) お答えは、あてはまる番号を○印で囲んでいただくか、数字をご記入ください。
- 4) ご回答いただく○印の数は質問文の終わりに（○はひとつだけ）とか（○はいくつでも）などと示していますので、それに従ってご回答ください。また、「その他（ ）」を選ばれた場合は、なるべく具体的な内容を（ ）内にご記入ください。
- 5) ご記入は、質問の番号や矢印の指示にそってお願いします。
- 6) できる限りすべての質問に回答いただきたいですが、回答したくない質問については、未記入でも結構です。
- 7) 調査票にも、返信用封筒にも、お名前を記入していただく必要はありません。
- 8) ご記入いただいた調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、

12月28日(水)までにポストに入れてください。切手は不要です。

平成28年(2016年)11月

【調査依頼機関】 豊中市 市民協働部 くらし支援課

豊中市北桜塚2-2-1 生活情報センターくらしかん

【調査実施機関】 株式会社かんでんCSフォーラム 生活に関する調査事務局

大阪市中央区南船場3-2-4

電話:0120-301-110

受付時間:平成29年1月31日までの平日10:00~17:00

(但し、12:00~13:00と12月29日~1月4日は除く)

【全員にお聞きします】

問1 あなたの性別をお答えください。(○はひとつだけ)

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

問2 あなたの年齢をお答えください。(○はひとつだけ)

1. 15歳～19歳	2. 20歳～24歳	3. 25歳～29歳
4. 30歳～34歳	5. 35歳～39歳	

問3 現在あなたと同居しているご家族はどなたですか。あてはまる番号を**すべて**選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 父	2. 母	3. 兄
4. 姉	5. 弟	6. 妹
7. 祖父	8. 祖母	9. 配偶者
10. ご自身のお子さん	11. その他の人 ()	12. 同居家族はいない

問4 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数をご記入してください。
(数字で具体的に)

--	--

 人

問5 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(○はひとつだけ)

1. 父	2. 母	3. 兄
4. 姉	5. 弟	6. 妹
7. 祖父	8. 祖母	9. 配偶者
10. ご自身のお子さん	11. その他の人 ()	12. 同居家族はいない

問6 あなたはこれまでに病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。あてはまる番号を**すべて**選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 心臓や血管の病気	2. 肺の病気	3. 胃や腸の病気
4. 精神的な病気	5. 目や耳の病気	6. 皮膚の病気
7. 骨折・大ケガ	8. その他の病気	9. 通院・入院したことはない

問7 あなたは現在学校に通っていますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 現在在学している | 2. 既に卒業している |
| 3. 中退した | 4. 休学中である |

問8 あなたが最後に卒業(中退を含む)した、また現在在学している学校はどれですか。
(○はひとつだけ)

- | | | |
|------------------------|--------------|----------------|
| 1. 中学校 | 2. 高等学校(全日制) | 3. 高等学校(定時制) |
| 4. 高等学校
(通信制・サポート制) | 5. 専門学校 | 6. 高等専門学校・短期大学 |
| 7. 4年制大学・大学院 | 8. その他 | |

問9 あなたは今までに、学校で次のようなことを経験したことがありますか。
あてはまる番号を**すべて**選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1. 友達とよく話した | 2. 親友がいた |
| 3. 友達というよりも一人で遊んでいる方が
楽しかった | 4. 不登校を経験した |
| 5. 友達をいじめた | 6. 友達にいじめられた |
| 7. いじめを見て見ぬふりをした | 8. 我慢をすることが多かった |
| 9. 学校の勉強についていけなかった | 10. 学校の先生との関係がうまくいかなかった |
| 11. 学校の先生や友達に褒められたことがある | 12. 学校の先生や友達に悩みを相談したことがある |
| 13. あてはまるものはない | |

問10 あなたは今までに、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。
あてはまる番号を**すべて**選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1. 親とは何でも話すことができた | 2. 親はしつけが厳しかった |
| 3. 困ったときは、親が親身に助言を
してくれた | 4. 何でも自分一人で決めて、
家族に相談することはなかった |
| 5. 将来の職業などを親に決められた | 6. 家族に相談しても、あまり役に立たなかった |
| 7. 親は学校の成績を重視していた | 8. 小さい頃から習い事やスポーツ活動に
参加していた |
| 9. 親と自分との関係がよくなかった | 10. 両親の関係がよくなかった |
| 11. 引越しや転校をした | 12. 大きな病気をした |
| 13. 両親が離婚した | 14. 親と死別した |
| 15. 親から虐待を受けた | 16. 親が過保護であった |
| 17. 親が過干渉であった | 18. 経済的に苦しい生活を送った |
| 19. 我慢することが多かった | 20. 親から褒められたことがある |
| 21. あてはまるものはない | |

問11 あなたは現在働いていますか。(○はひとつだけ)

1. 正社員として働いている
2. 契約社員として働いている
3. 派遣社員として働いている
4. パート・アルバイト(学生のアルバイトは除く)として働いている
5. 自分で店、会社を経営している
6. 自由業(個人で専門知識や技術を生かした職業)をしている
7. 専業主婦・主夫
8. 学生
9. 家事手伝い
10. 予備校などに通っている

4ページ
問16へ

11. 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない
12. 無職

【問11で「11」、「12」とお答えになった方のみお聞きします】

問12 あなたは今までに働いていたことはありますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1. 正社員として働いていた | 2. 契約社員として働いていた |
| 3. 派遣社員として働いていた | 4. パート・アルバイト(学生のアルバイトは除く)として働いていた |
| 5. 働いたことはない | |

問13 あなたは現在、就職または進学を希望していますか。(○はひとつだけ)

- | | | |
|---------|---------|----------------|
| 1. 就職希望 | 2. 進学希望 | 3. どちらも希望していない |
|---------|---------|----------------|

4ページ
問16へ

問14 あなたは現在、就職活動をしていますか(○はひとつだけ)

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

4ページ
問16へ

問15 あなたが現在働いていない理由は何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1. 病気・ケガのため | 2. メンタル的な問題・不安がある |
| 3. 希望する職種がない | 4. 就職できないのであきらめた |
| 5. 就職活動の方法がわからない | 6. どんな仕事につけばいいのかわからない |
| 7. 労働条件・環境に関する不安 | 8. 資格試験等の準備のため |
| 9. 芸能・芸術などのプロを目指して勉強中・修行中であるため | 10. ボランティア・社会貢献活動に従事しているため |
| 11. 独立・開業に向けた準備のため | 12. 急いで就職する必要がない |
| 13. 働く意義がわからない | 14. 家族の育児・介護等のため |
| 15. 知識・能力に自信が無い | 16. 人間関係に不安がある |
| 17. 家族からの経済的支援がある | 18. 福祉制度を利用している |
| 19. 働く意欲がわからない | 20. 特に理由はない |
| 21. その他() | |

【全員にお聞きします】

問16 次のア～エの職業に関する意見について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。(○は各項目それぞれひとつずつ)

		選択肢			
		はい	どちらかといえは	どちらかといえは	いいえ
ア	いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う	1	2	3	4
イ	いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい	1	2	3	4
ウ	仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない	1	2	3	4
エ	定職に就かない方が自由でいいと思う	1	2	3	4

問17 あなたが普段ご自宅にいる時によくしていることは何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. テレビを見る	2. ラジオを聴く	3. 本を読む
4. 新聞を読む	5. ゲームをする	6. 勉強をする
7. 仕事をする	8. 家事・育児をする	9. インターネットをする
10. 横になってくつろいでいる	11. あてはまるものはない	

問18 あなたが普段利用している通信手段は何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 携帯電話での通話	2. 携帯電話でのメール	3. スマートフォンでの通話
4. スマートフォンでのメール	5. パソコンでのメール	6. 固定電話
7. ファックス	8. あてはまるものはない	

問19 あなたが普段利用しているインターネット上のコミュニケーションサービスは何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 電子掲示板の閲覧・書き込み	2. チャットまたはメッセージ (LINE・スカイプなど)
3. ウェブサイトまたはブログの閲覧・書き込み	4. mixi・フェイスブックなどのSNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の閲覧・書き込み
5. ツイッター	6. オンラインゲーム
7. その他 ()	8. コミュニケーションサービスは利用していない

問20 あなたは普段どのくらい外出しますか。(○はひとつだけ)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 仕事や学校で平日は毎日外出する |
| 2. 仕事や学校で週に3~4日外出する |
| 3. 遊び等で頻繁に外出する |
| 4. 人づきあいのためにときどき外出する |
| 5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する |
| 6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける |
| 7. 自室からは出るが、家からは出ない |
| 8. 自室からはほとんど出ない |

8ページ
問29へ

【問20で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問21 現在の状態になったのは、あなたが何歳のころですか。(数字で具体的に)

--	--

 歳

問22 現在の状態になって、どのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1. 6ヶ月未満 | 2. 6ヶ月~1年未満 | 3. 1年~3年未満 |
| 4. 3年~5年未満 | 5. 5年~7年未満 | 6. 7年以上 |

問23 現在の状態となったきっかけは何ですか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。
(○はいくつでも)

1. 不登校	いつごろですか。(○はいくつでも)
2. 学校になじめなかった	
3. 受験に失敗した	いつごろですか。(○はいくつでも)
4. 就職活動がうまくいかなかった	
5. 職場になじめなかった	
6. 人間関係がうまくいかなかった	誰とうまくいかなかったのですか。(○はいくつでも)
7. 病気(病名:)	
8. 妊娠した	
9. 人の会うのがこわくなった	
10. その他()	

問24 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。(○はひとつだけ)

- | | | | |
|----------|-------|---------|---------|
| 1. 非常に思う | 2. 思う | 3. 少し思う | 4. 思わない |
|----------|-------|---------|---------|

【問20で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問25 現在の状態について、関係機関に相談するとすれば、どのような機関なら、相談したいと思いますか。
あてはまる番号を**すべて**選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 親身に聴いてくれる
2. 医学的な助言をくれる
3. カウンセラーがいる
4. 精神科医がいる
5. 同じ悩みを持つ人と出会える
6. 匿名で(自分の名前を知られずに)相談できる
7. 無料で相談できる
8. 公的機関の人や医療の専門家ではない民間団体(NPOなど)である
9. 自宅にカウンセラー・ピアカウンセラー(同じ経験をした若者)が来てくれる
10. 自宅から近い
11. 24時間相談できる(夜間帯の相談)
12. メールで相談できる
13. 電話で相談できる
14. ピアカウンセラーがいる
15. あてはまるものはない

7ページ
問27へ

16. どのような機関にも相談したくない

問26 相談したくないと思う理由は何ですか。あてはまる番号を**すべて**選び、○をつけてください。
(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 自分のことを知られたくない | 2. 相談しても解決できないと思う |
| 3. 何をきかれるか不安である | 4. 相手にうまく話せないと思う |
| 5. 相談したことを人に知られたくない | 6. お金がかかると思う |
| 7. 相談機関が近くにない | 8. その他
() |
| 9. 特に理由はない | |

【問20で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問27 現在の状況について、関係機関に相談したことはありますか。（○はひとつだけ）

1. ある	2. ない	----->	9ページ 問33へ
-------	-------	--------	--------------

問28 どのような相談機関に相談しましたか。相談したことがある機関について、あてはまる番号を
すべて選び、○をつけてください。（○はいくつでも）

1. 保健所・保健センター
2. 福祉事務所
3. 児童相談所・こども総合相談窓口
4. 若者支援相談窓口
5. 少年文化館
6. 教育支援センター(適応指導教室)
7. 教育相談所・相談室などの相談機関
8. ハローワーク・ジョブカフェ・若者サポートステーションなどの就労支援機関
9. 精神保健福祉センター(こころの健康総合センター)
10. 病院・診療所
11. 発達障害者支援センター
12. ひきこもり地域支援センター
13. 民間施設(いわゆる「フリースクール」など)
14. 上記以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関
15. 所属していた学校
16. 学校の保健室、大学の保健センター
17. 会社の健康管理センター
18. その他の施設・機関()

【全員にお聞きします】

問33 次のア～タの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。

(○は各項目それぞれひとつずつ)

		選択肢			
		はい	どちらかといえ はい	どちらかといえ いいえ	いいえ
ア	自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する	1	2	3	4
イ	人といると、馬鹿にされたり軽く扱われはしないか不安になる	1	2	3	4
ウ	周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる	1	2	3	4
エ	他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く	1	2	3	4
オ	大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ	1	2	3	4
カ	大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ	1	2	3	4
キ	初対面の人とすぐに会話できる自信がある	1	2	3	4
ク	人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む	1	2	3	4
ケ	自分の感情を表に出すのが苦手だ	1	2	3	4
コ	周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない	1	2	3	4
サ	たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい	1	2	3	4
シ	自分の生活のことで人から干渉されたくない	1	2	3	4
ス	家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる	1	2	3	4
セ	自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある	1	2	3	4
ソ	嫌な出来事があると、外に出たくなくなる	1	2	3	4
タ	理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う	1	2	3	4

問34 次にあげられたことのなかで、あなた自身にあてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。
(○はいくつでも)

1. 家族に申しわけないと思うことが多い	2. 生きるのが苦しいと感じることがある
3. 死んでしまいたいと思うことがある	4. 絶望的な気分になることがよくある
5. 人に会うのが怖いと感じる	6. 知り合いに会うことを考えると不安になる
7. 他人が自分をどのように思っているのかとても不安である	8. 集団の中に溶け込めない
9. つまらないことを繰り返し確かめてしまう	10. 同じ行動を何度も繰り返してしまう
11. 食事や入浴の時間がいつもと少しでも異なると我慢できない	12. 自分の身体が清潔かどうか常に気になる
13. 家族を殴ったり蹴ったりしてしまうことがある	14. 壁や窓を蹴ったりたたいたりしてしまうことがある
15. 食器などを投げて壊すことがある	16. 暴言を吐いたり大声を上げて怒鳴り散らすことがある
17. リストカットなどの自傷行為をしてしまうことがある	18. アルコールを飲まずにいられないことがある
19. 何らかの薬を飲まずにはいられないことがある	20. パソコンや携帯電話がないと一時も落ち着かない
21. 自分の容姿がとても気になる	22. 他人や動物を傷つけてしまう
23. ゲームやギャンブルがやめられない	24. あてはまるものはない

問35 次のア～シの各項目について、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。
(○は各項目それぞれひとつずつ)

	選択肢			
	はい	どちらかといえ	どちらかといえ	いいえ
ア 身の回りのことは親にしてもらっている	1	2	3	4
イ 食事や掃除は親がまかせてある	1	2	3	4
ウ 朝、決まった時間に起きられる	1	2	3	4
エ 深夜まで起きていることが多い	1	2	3	4
オ 昼夜逆転の生活をしている	1	2	3	4
カ 新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す	1	2	3	4
キ 自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある	1	2	3	4
ク 誰とも口を利かずに過ごす日が多い	1	2	3	4
ケ 人と会話をするのはわずらわしい	1	2	3	4
コ 過去と知り合いや縁者に信頼できる人はいない	1	2	3	4
サ 自分の精神状況は健康ではないと思う	1	2	3	4
シ 自分の今の状態について考えることはよくある	1	2	3	4

問36 あなたのご家族について、あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 私の家族は暖かい
2. 家族とはよく話をしている
3. 私たち家族は、仲がよいと思う
4. 家族から十分に愛されていると思う
5. あてはまるものはない

問37 あなたは普段悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(○はひとつだけ)

1. 非常に思う	2. 思う	3. 少し思う	4. 思わない
----------	-------	---------	---------

問38 あなたは普段悩み事を誰かに相談しますか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 親	2. きょうだい
3. 友人・知人	4. 配偶者
5. 祖父母	6. 学校の先生
7. 職場の同僚・上司	8. カウンセラー・精神科医
9. 都道府県、市町村などの専門機関の人	10. ネット上の知り合い
11. その他の人 ()	12. 誰にも相談しない

問39 あなたは子ども・若者支援に関する以下の機関や事業を知っていますか。あてはまる番号をすべて選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 豊中市立青年の家いぶき	2. 豊中少年サポートセンター
3. 若者支援相談窓口	4. 若者サポートステーション
5. 地域就労支援センター豊中	6. こども総合相談窓口
7. 外国にルーツをもつ若者のための相談 (公益財団法人とよなか国際交流協会)	8. 女性のための相談室 (すてっぷ/とよなか男女共同参画推進センター)

問40 この調査でお聞きできなかったことについて、調査員が個別にあなたのお考えなどをお聞きする面接調査を実施する場合、ご協力いただけますか。(○はひとつだけ)

1. 協力してもよい	2. 協力したくない
------------	------------

※ 面接調査をお願いする場合がありますので、以下のお名前、ご連絡先をご記入ください。

お名前	
電話番号	
メールアドレス	

質問は以上で終了です。長い間ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

このアンケート調査票を三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、
12月28日(水)までにポストに入れてください。

**若い世代の生活に関する調査
(家族用)
調査票**

若い世代の生活に関する調査(ご家族様用)

このたびはお忙しい中、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございます。

『若い世代の生活に関する調査』では、15歳から39歳の豊中市民の中から、無作為に5,000人を選び、ご本人とご家族の方を対象に、15歳から39歳の方々の日常生活の状況などについてお伺いするもので、調査結果は豊中市の今後の施策運営などの基礎資料とさせていただきます。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう全体を集計します。また、回答内容や個人情報が上記目的以外に使用されたり、外部に漏れたりすることはありません。

以下の注意事項をお読みいただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

【記入上のお願い】

- 1) この調査票には宛名にある方と同居されているご家族の大人の方(親など)がお答えいただけますようお願いいたします。なお、ご記入にあたっては、ご家族、ご友人などに代筆していただいても結構です。また、宛名のご本人につきましては、別添「調査票(ご本人様用)」にお答えいただけますようお願いいたします。
- 2) ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆など、はっきりとわかる筆記用具をお使いください。
- 3) お答えは、あてはまる番号を○印で囲んでいただくか、数字をご記入ください。
- 4) ご回答いただく○印の数は質問文の終わりに(○はひとつだけ)とか(○はいくつでも)などと示していますので、それに従ってご回答ください。また、「その他()」を選ばれた場合は、なるべく具体的な内容を()内にご記入ください。
- 5) ご記入は、質問の番号や矢印の指示にそってお願いします。
- 6) できる限りすべての質問に回答いただきたいですが、回答したくない質問については、未記入でも結構です。
- 7) 調査票にも、返信用封筒にも、お名前を記入していただく必要はありません。
- 8) ご記入いただいた調査票は、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、

12月28日(水)までにポストに入れてください。切手は不要です。

平成28年(2016年)11月

【調査依頼機関】 豊中市 市民協働部 暮らし支援課

豊中市北桜塚2-2-1 生活情報センター-くらしかん

【調査実施機関】 株式会社かんでんCSフォーラム 生活に関する調査事務局

大阪市中央区南船場3-2-4

電話:0120-301-110

受付時間:平成29年1月31日までの平日10:00~17:00

(但し、12:00~13:00と12月29日~1月4日は除く)

【全員にお聞きします】

※ 調査対象者の方とは、封筒の宛名の方になります。

問1 調査対象者の性別をお答えください。(○はひとつだけ)

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

問2 調査対象者の年齢をお答えください。(○はひとつだけ)

1. 15歳～19歳	2. 20歳～24歳	3. 25歳～29歳
4. 30歳～34歳	5. 35歳～39歳	

問3 現在調査対象者と同居している調査対象者の方から見たご家族はどなたですか。

あてはまる番号を**すべて**選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 父	2. 母	3. 兄
4. 姉	5. 弟	6. 妹
7. 祖父	8. 祖母	9. 配偶者
10. ご自身のお子さん	11. その他の人 ()	12. 同居家族はいない

問4 現在同居している人は合計で何人ですか。調査対象者の方も含めた人数をご記入してください。

(数字で具体的に)

		人
--	--	---

問5 調査対象者の方の家の生計を立てているのは主に調査対象者の方から見てどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りして生計を立てている方は、その仕送りを主にしていてくれる人をお答えください。(○はひとつだけ)

1. 父	2. 母	3. 兄
4. 姉	5. 弟	6. 妹
7. 祖父	8. 祖母	9. 配偶者
10. ご自身のお子さん	11. その他の人 ()	12. 同居家族はいない

問6 調査対象者の方は現在学校に通っていますか。(○はひとつだけ)

1. 現在在学している	2. 既に卒業している
3. 中退した	4. 休学中である

問7 調査対象者の方が最後に卒業(中退を含む)した、また現在在学している学校はどれですか。

(○はひとつだけ)

1. 中学校	2. 高等学校(全日制)	3. 高等学校(定時制)
4. 高等学校 (通信制・サポート制)	5. 専門学校	6. 高等専門学校・短期大学
7. 4年制大学・大学院	8. その他	

問8 調査対象者の方は現在働いていますか。(〇はひとつだけ)

1. 正社員として働いている
2. 契約社員として働いている
3. 派遣社員として働いている
4. パート・アルバイト(学生のアルバイトは除く)として働いている
5. 自分で店、会社を経営している
6. 自由業(個人で専門知識や技術を生かした職業)をしている
7. 専業主婦・主夫
8. 学生
9. 家事手伝い
10. 予備校などに通っている
11. 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない
12. 無職

問9 調査対象者の方は普段どのくらい外出しますか。(〇はひとつだけ)

1. 仕事や学校で平日は毎日外出する
2. 仕事や学校で週に3~4日外出する
3. 遊び等で頻繁に外出する
4. 人づきあいのためにときどき外出する
5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
7. 自室からは出るが、家からは出ない
8. 自室からはほとんど出ない

5ページ
問16へ

【問9で「5」~「8」とお答えになった方のみお聞きします】

→ 問10 現在の状態になったのは、調査対象者の方が何歳のころですか。(数字で具体的に)

--	--

 歳

問11 調査対象者の方が現在の状態になって、どのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ)

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1. 6ヶ月未満 | 2. 6ヶ月~1年未満 | 3. 1年~3年未満 |
| 4. 3年~5年未満 | 5. 5年~7年未満 | 6. 7年以上 |

【問9で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問12 現在の状況について、**調査対象者の方が**関係機関に相談したことはありますか。
(○はひとつだけ)

1. ある	2. ない	-----▶	4ページ 問14へ
-------	-------	--------	----------------------

問13 どのような相談機関に相談しましたか。相談したことのある機関について、あてはまる番号を**すべて選び**、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 保健所・保健センター
2. 福祉事務所
3. 児童相談所・こども総合相談窓口
4. 若者支援相談窓口
5. 少年文化館
6. 教育支援センター(適応指導教室)
7. 教育相談所・相談室などの相談機関
8. ハローワーク・ジョブカフェ・若者サポートステーションなどの就労支援機関
9. 精神保健福祉センター(こころの健康総合センター)
10. 病院・診療所
11. 発達障害者支援センター
12. ひきこもり地域支援センター
13. 民間施設(いわゆる「フリースクール」など)
14. 上記以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関
15. 所属していた学校
16. 学校の保健室、大学の保健センター
17. 会社の健康管理センター
18. その他の施設・機関()

【問9で「5」～「8」とお答えになった方のみお聞きします】

問14 現在の状況について、調査対象者のご家族の方が関係機関に相談したことはありますか。

(○はひとつだけ)

1. ある	2. ない	----->	5ページ 問19へ
-------	-------	--------	--------------

問15 どのような相談機関に相談しましたか。相談したことがある機関について、あてはまる番号を**すべて**選び、○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 保健所・保健センター
2. 福祉事務所
3. 児童相談所・こども総合相談窓口
4. 若者支援相談窓口
5. 少年文化館
6. 教育支援センター(適応指導教室)
7. 教育相談所・相談室などの相談機関
8. ハローワーク・ジョブカフェ・若者サポートステーションなどの就労支援機関
9. 精神保健福祉センター(こころの健康総合センター)
10. 病院・診療所
11. 発達障害者支援センター
12. ひきこもり地域支援センター
13. 民間施設(いわゆる「フリースクール」など)
14. 上記以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関
15. 所属していた学校
16. 学校の保健室、大学の保健センター
17. 会社の健康管理センター
18. その他の施設・機関()

【問9で「1」～「4」とお答えになった方のみお聞きします】

問16 調査対象者の方は今までに6ヶ月以上連続して、以下のような状況になったことはありますか。
(○はひとつだけ)

1.	ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
2.	ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
3.	自室からは出るが、家からは出ない
4.	自室からほとんど出ない
5.	上記のような状態に6ヶ月以上連続してなったことはない

問19へ

【問16で「1」～「4」とお答えになった方のみお聞きします】

問17 その状態になったのは、調査対象者の方が何歳のころですか。(数字で具体的に)

□	□	歳
---	---	---

問18 調査対象者の方がその状態になって、どのくらい続きましたか。(○はひとつだけ)

1. 6ヶ月未満	2. 6ヶ月～1年未満	3. 1年～3年未満
4. 3年～5年未満	5. 5年～7年未満	6. 7年以上

【全員にお聞きします】

問19 現在豊中市では、身体の病気以外の理由でふだん外出ができない方たちへの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば、ご自由にお書きください。

[]

質問は以上で終了です。長い間ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

このアンケート調査票を三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、
12月28日(水)までにポストに入れてください。

「若い世代の生活に関する調査」報告書

平成29（2017）年3月

豊中市 市民協働部 暮らし支援課

〒560-0022 大阪府豊中市北桜塚2-2-1

生活情報センターくらしかん

TEL 06-6858-6870 FAX 06-6858-5095
